

第十二條 前條ノ合格證書ハ徵兵事務條例第五十一條及一年志願兵條例施行細則第四條ノ願書ニ之ヲ添付スルモノトス

前項ニ依リ合格證書ヲ差出シタル者ハ更ニ身體検査ヲ施行セス

第十三條 本令中郡長トアルハ北海道ニ在リテハ支廳長、市長トアルハ北海道、沖繩縣、東京市、京都市、大阪市及名古屋市ニ在リテハ區長、町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ町村長ニ準スヘキ者ニ該當ス

第十二條 前條ノ合格證書ハ徵兵事務條例第五十一條及一年志願兵條例施行細則第四條ノ願書ニ之ヲ添付スルモノトス

前項ニ依リ合格證書ヲ差出シタル者ハ更ニ身體検査ヲ施行セス

第十三條 本令中部長トシテハ北海道ニ在リテハ支廳長、市長トアルハ北海道、沖繩縣、東京市、京都市、大阪市及名古屋市の在リテハ局長、町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ町村長ニ準スヘキ者ニ該當ス

第二十一輯 褒 賞

第二十一輯 褒 賞

●褒章條例取扱手續及金銀木杯金圓賜與手續ニ關スル制

三十九年六月
閣令第五號

褒章條例取扱手續及金銀木杯金圓賜與手續ニ依リ各省大臣及地方長官ノ行フヘキ職務ハ褒賞條例取扱手續第六條陸海軍大臣ノ職務ヲ除クノ外韓國ニ於テハ統監之ヲ行フ

(參照)

●褒章條例

十四年十二月
布告第六十三號

改正

二三年勅令七二號、一二六號
二七年一號

褒章條例別紙ノ通相定來明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

(別紙)

褒章條例

第一條 凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者又ハ孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絶ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者又ハ學術技藝上ノ發明改良著述、教育衛生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、本産ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞效顯著ナル者ヲ表彰スル爲メ左ノ三種ノ褒章ヲ定ム

紅綬褒章

右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者ニ賜フモノトス

綠綬褒章

右孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絶ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者ニ賜フモノトス

藍綬褒章

右學術技藝上ノ發明改良著述、教育衛生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水産ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞效顯著ナル者ニ賜フモノトス

第二十一輯 褒賞

第二條 奇特ノ實行アリト雖モ褒章ヲ賜フヘキ場合ニ至ラサルモノハ褒狀ヲ與フコトアルヘシ
第三條 己ニ褒章ヲ賜ハリタルモノノ再度以上同様ノ實行アリテ褒章ヲ賜フヘキトキハ其都度飾版一箇ヲ賜與シ其章ノ授ニ附加セシメ以テ標識トス

第四條 褒章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ及ヒ徽號トナスヲ得然レトモ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ之ヲ沒收シ其未タ授與セサル前同上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ之ヲ授與セス

(褒章圖略ス)

佩用式

一 褒章ハ左肋ノ邊ヘ佩フヘシ

但勳章及從軍記章ヲ有スル者ハ其章ノ左ヘ列シ帶フヘシ

(參照)

●褒章條例取扱手續 二十七年一月 閣令第一號

明治十四年第三百三號達褒章條例取扱手續左ノ通改正ス

褒章條例取扱手續

第一條 褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者アルトキハ警視總監、北海道廳長官又ハ府縣知事ヨリ主務大臣ニ具申シ主務大臣ハ其ノ當否ヲ審査シ賞勳局總裁ヘ申牒スヘシ

但官吏職務上ノ勞效ニ對シテハ褒章ヲ賜フノ限ニアラス

第二條 賞勳局總裁ハ申牒書ヲ覆査シ褒章ヲ賜フヘキモノト認ムルトキハ奏請裁可ヲ得在東京ノ者ニハ之ヲ直授シ其ノ他ノ者ニハ主務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達スヘシ

第三條 外國人ニ褒章ヲ賜フヘキトキハ主務大臣外務大臣ト連署シテ之ヲ申牒スヘシ授與ノトキハ外務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達ス其ノ公私備ニ係ル者ハ第二條ニ依ル

第四條 褒狀ハ高等官及高等官待遇ノ者並ニ從六位以上及勳六等以上ノ者並ニ華族ノ戶主其ノ祖父母父母妻嫡長子孫及嫡長子孫ノ妻ニハ賞勳局總裁之ヲ授與スヘシ其ノ具申牒施行ノ順序ハ第一條及第二條ニ同シ

其ノ他ノ者ハ警視總監、北海道廳長官又ハ府縣知事之ヲ授與スヘシ

第五條 褒狀ヲ外國人ニ授與スヘキトキハ金銀木杯金圓賜與手續第六條ニ依ル
第六條 褒章ヲ有スル者重罪ノ刑ヲ受ケタルトキハ裁判確定ノ後司法大臣又ハ陸海軍大臣宣告書ヲ添ヘ之ヲ賞勳局總裁ニ送付スヘシ
第七條 褒章褒狀ヲ賜フヘキ者具申後授與以前ニ於テ輕罪以上ノ罪ヲ犯シ又ハ死亡シタルトキハ警視總監、北海道廳長官又ハ府縣知事ヨリ速ニ其ノ事由ヲ主務大臣ニ申報シ主務大臣ハ之ヲ賞勳局總裁ニ通知スヘシ

(參照)

●金銀木杯金圓賜與及褒章併賜方 十六年一月 布告第一號

明治十四年(十二月)第六十三號布告褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者又ハ公益ノ爲メニ金銀財產等ヲ寄附シタル者ハ金銀木杯若クハ金圓ヲ賜ヒ又ハ褒章ト金銀木杯金圓ヲ併セ賜フコトアルヘシ

(參照)

●金銀木杯金圓賜與手續 十六年三月 太達第十七號 改正 一七年太達三三號、二四年閣令一號、二七年八號、三七年三號、三九年四號

本年第一號布告ノ旨ニ依リ金銀木杯又ハ金圓賜與手續別紙ノ通相定候條此旨相違候事

(別紙)

金銀木杯金圓賜與手續

第一條 褒章ヲ賜フヘキ者ニ金銀木杯又ハ金圓ヲ賜ヒ又ハ褒章ト之ヲ併セ賜フトキハ其ノ等差左ノ如シ

定例

第一等 木杯三組(品格ヲ三等ニ分ツ)又ハ金拾圓ヨリ多カラス六圓ヨリ少カラス

第二等 木杯三組(品格ヲ三等ニ分ツ)又ハ金五圓ヨリ多カラス貳圓五拾錢ヨリ少カラス

第三等 木杯一箇(品格ヲ三等ニ分ツ)又ハ金貳圓ヨリ多カラス壹圓ヨリ少カラス

但賜杯賜金ニ及ハサルモノハ褒狀ヲ與フレコトアルヘシ

特例

第一等 金杯一箇又ハ三組又ハ金圓

第二等 銀杯一箇又ハ三組又ハ金圓

第二十一輯 褒 賞

第二條 公益ノ爲メニ金銀財産等ヲ寄附シタル者ニ金銀木杯ヲ賜ヒ又ハ褒章ト之ヲ併セ賜フトキハ其等差左ノ如シ

寄附金額又ハ價格

拾圓 未滿 褒 狀

拾圓以上百圓未滿 木杯 一箇

但五拾圓未滿ハ拾圓毎ニ五拾圓以上ハ貳拾五圓毎ニ品格ニ等差アリ

百圓以上五百圓未滿 木杯 三組

但參百圓未滿ハ五拾圓毎ニ參百圓以上ハ百圓毎ニ品格ニ等差アリ

五百圓以上貳千圓未滿 銀杯 一箇

但千圓未滿ハ貳百五拾圓毎ニ千圓以上ハ五百圓毎ニ品格ニ等差アリ

貳千圓以上五千圓未滿 銀杯 三組

但千圓毎ニ品格ニ等差アリ

五千圓以上壹萬圓未滿 金杯 一箇

但貳千五百圓毎ニ品格ニ等差アリ

壹萬圓以上 金杯 三組

第三條 金銀杯又ハ特例金圓又ハ褒章ト金銀木杯又ハ金圓ヲ併セ賜フ事項ハ賞勳局總裁之ヲ管理スルモノトス

褒狀又ハ木杯又ハ特例金圓ノミヲ賜フハ警視總監、府知事(縣令)管理施行スルモノトス

但勅委任官委任官以上ノ待遇ヲ受クル者並從六位以上及勳六等以上ノ者及ヒ華族ノ戶主其祖父母父母妻嫡長子孫及其妻ニ木杯三組又ハ之ニ該當スル定例金圓ヲ賜フヘキトキハ第四條ニ準據スヘシ

第四條 金銀杯又ハ特例金圓又ハ褒章ト金銀木杯又ハ金圓ヲ併セ賜フヘキ者ナルトキハ警視總監、府知事(縣令)ヨリ主務大臣ニ具申シ主務大臣ハ之ヲ審査シ賞勳局總裁ニ申據スヘシ

賞勳局總裁ハ其中稟ニ據テ勅委任官委任官以上ノ待遇ヲ受クル者並從六位以上及勳六等以上ノ者及ヒ華族ノ戶主其祖父母父母妻嫡長子孫及其妻ニハ之ヲ直授シ其他ノ者ハ主務大臣ヲ經由シ警視總監、府知事(縣令)ヲシテ之ヲ傳達セシム

第五條 金銀木杯又ハ金圓又ハ褒狀ヲ受クヘキ者ニシテ其未タ授與セサル前重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ之ヲ授與セズ

第六條 外國人ニ金銀木杯金圓又ハ褒狀ヲ賜フヘキ者アルトキハ總テ内國人ノ例ニ準スト雖モ公使館員及帝室ノ賓客ニ係ルトキハ外務大臣ヨリ賞勳局總裁ニ申據シ授與ノトキハ亦同大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達セシムヘシ

ヨリ賞勳局總裁ニ申據シ授與ノトキハ亦同大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達セシムヘシ

(參照)

●黃綬褒章 二十年五月 勅令第十六號

朕黃綬褒章臨時制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 私財ヲ獻納シ防海ノ事業ヲ贊成スルモノニ授與スル爲メ黃綬褒章ヲ制定シ分テ金章銀章ノ二種トス

第二條 黃綬褒章ヲ佩用シ又ハ沒收スルノ事項ハ明治十四年(十二月)第六十三號褒章條例ニ據ル

第三條 黃綬褒章ノ圖式左ノ如シ

(圖式略ス)

(參照)

●圖書諸器物寄附ニ係ル取扱方 二十二年四月 內訓第十八號

北海道廳府縣

閣令第十五號ヲ以テ明治十年(十月)太政官達第七十七號同十一年(四月)同第十三號ヲ廢セラレタルヲ以テ自今各官廳へ圖書諸器物等ヲ寄附シ若ハ官費支辨ノ事業ニ對シ金銀其他ノ物件ヲ寄附スル者アルトキハ之ヲ受領シタル官廳ヨリ本人所在ノ地方廳へ通知可相成ニ付右通知ヲ受ケタルトキハ明治十六年第一號布告及同年太政官第十七號達ニ據リ取計フヘシ

附
錄

韓國政府ノ法令ニシテ統監府ニ
於テ其ノ譯文ヲ告示シタルモノ

附 錄

韓國政府ノ法令ニシテ統監府ニ於テ其ノ譯文ヲ告示シタルモノ

第一章 内部主管事項

●土地建築證明規則及土地建物證明規則施行細則

三十九年十一月
統監第百二十六號

改正
四一
統監七七號

韓國政府ハ本年十一月三日勅令第六十五號土地家屋證明規則及十一月九日法部令第四號土地家屋證明規則施行細則ヲ發布セリ其ノ譯文左ノ如シ

勅令第六十五號

土地建物證明規則

第一條 土地又ハ建物ヲ賣買、贈與、交換シ又ハ典當ト爲シタルトキハ其ノ契約書ニ統督又ハ洞長ノ認證ヲ經タル後郡守又ハ府尹ノ證明ヲ受ケルコトヲ得

第二條 前條ノ證明ヲ受ケタル契約書ハ完全ノ證據トナリ且其ノ正本ニ依リ當該官廳ニ於テ直ニ執行スルノ力ヲ有ス

第三條 郡守及府尹ハ土地建物證明臺帳ヲ備ヘ第一條ノ證明ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ要項ヲ記載スヘシ
土地建物證明簿ノ全部又ハ一部ヲ滅失シタルトキハ所有者又ハ典當權者ハ法部大臣ノ定メタル期限内ニ更ニ郡守又ハ府尹ノ證明ヲ受ケルニ非サレハ證明ノ效力ヲ失フ

但シ期限後ト雖其ノ權利ト抵觸スヘキ證明ノ申請ナキ間ハ再次證明ヲ受ケテ其ノ權利ヲ保存スルコトヲ得
第四條 何人ト雖郡守又ハ府尹ニ申請シテ土地建物證明臺帳ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第五條 第一條ノ證認、證明及前條土地建物證明臺帳ノ閱覽ヲ申請スル者ハ別ニ定ムル所ノ手数料ヲ納ムヘシ

第六條 統首洞長郡守及府尹カ故意若ハ過失ニ因リ權利ヲ有セサル者ノ請求ニ基キ認證若ハ證明ヲ爲シタルトキ又ハ故ナク認證若ハ證明ヲ拒ミ之ヲ忘リタルトキ又ハ土地建物證明臺帳ニ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ土地建物證明臺帳ノ閱覽ヲ拒ミタルトキハ之ニ因リテ損害ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第七條 統首、洞長、郡守及府尹ノ處分ニ付キ異議アル者ハ其ノ監督官廳ニ遲滞ナク之ヲ申立ツヘシ

第八條 當事者ノ一方カ外國人ニシテ本則ニ依リ證明ヲ受ケタル場合ニ於テハ日本理事官ノ查證ヲ受クヘシ若シ受ケサルトキハ第二條ノ效力ヲ生セサルモノトス

當事者ノ雙方カ外國人ニシテ證明ヲ受ケムトスルトキハ日本理事官ニ申請スヘシ日本理事官ハ先ツ當該ノ郡守又ハ府尹ニ通知シ土地建物證明臺帳ニ記載ノ後證明スルモノトス

附則

第九條 本令ハ光武十年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 本令施行ニ關スル細則ハ法部大臣之ヲ定ム
法部令第四號

土地建物證明規則施行細則

第一條 土地建物證明規則第一條ノ證明ヲ受ケムトスル者ハ賣買、贈與及交換ノ場合ハ二通、典當ノ場合ハ三通ノ契約書ヲ調製シ文記其ノ他ノ證憑書類ヲ添附シ先ツ之ヲ證明ヲ受クヘキ土地又ハ建物ノ所在地ノ統首又ハ洞長ニ呈示スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ手数料金五十錢ヲ納ムヘシ

第二條 統首及洞長ハ前條ノ呈示ヲ受ケタルトキハ契約書ノ事項カ事實ニ適合セルヤ否ヤヲ調査シ其ノ適合セルコトヲ認メタルトキハ契約書ノ各通ニ認證ヲ爲シ當事者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ事實ノ適合セルコトヲ認ムル能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附シ認證ヲ拒絶スヘシ

第三條 統首及洞長ハ前條ノ認證ヲ爲シタルトキハ帳簿ヲ設ケ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 土地ニ付テハ種目、所在地名、地番號(字號等)、面積(ト數斗落步數等)及四標家屋ニ付テハ種目、所在地名、戶番號(統戶等)及面積

二 當事者ノ族籍、住所及氏名

三 認證ノ年月日及番號

第四條 當事者ハ第二條ニ依リ認證ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ契約書ヲ證明ヲ受クヘキ土地又ハ建物ノ所在地ヲ管轄スル郡守又ハ府尹ニ差出スヘシ

前項ニ場合ニ於テハ左記ノ手数料ヲ納ムヘシ但シ最低額金五十錢ヲ下ルコトヲ得ス

一 土地又ハ建物ノ賣買、贈與及交換ニ付テハ其價額千分ノ二

二 土地又ハ建物ノ典當ニ付テハ其ノ債權額ノ千分ノ二

第五條 郡守及府尹ハ前條ノ契約書ヲ受理シタルトキハ遲滞ナク左ノ事項ヲ調査スヘシ

一 當事者ハ正當ノ權利者ナルヤ

二 土地又ハ建物ニ關スル表示カ事實ニ適合セサルコトナキヤ

三 契約ノ成立ニ關シ錯誤、詐偽、脅迫又ハ暴行等ノ事實ナキヤ

四 契約カ虛示ノモノニアラサルヤ

五 當事者ノ能力ニ欠缺スル所ナキヤ

六 其ノ他法律行為ノ要件ヲ缺キ若ハ事實ニ適合セサル事項ナキヤ

第六條 前條ノ調査ヲ了シ契約書ノ確實ナルコトヲ認メタルトキハ其ノ各通ニ證明ヲ爲シ賣買、贈與及交換ノ場合ニ於テハ其ノ一通ヲ買主受贈者又ハ交換ヲ受ケタルモノニ交付シ典當ノ場合ニ於テハ其ノ二通ヲ當事者ニ交付シ他ノ一通ハ文記其ノ他證憑書類ト共ニ之ヲ保存スルモノトス

調査ノ結果證明ヲ爲スヘキモノニ非スト認メタルトキハ其ノ理由ヲ附シ證明ヲ拒絶スヘシ

第七條 郡守及府尹ハ前條ノ證明ヲ爲シタルトキ及土地建物證明規則第八條末項ニ依リ日本理事官ヨリ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ土地建物證明臺帳ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 土地ニ付テハ種目、所在地名、地番號(字號等)、面積(ト數斗落步數等)及四標家屋ニ付テハ種目、所在地名、戶番號(統戶等)及面積

二 賣買代金、交換物、贈與ノ條件及債權ノ金額其ノ辨濟期

三 當事者及保證人ノ族籍、住所及氏名

四 其ノ他契約書中特ニ記載ヲ要スト認メタル事項

五 證明ノ年月日及番號

第八條 郡守及府尹ハ第五條ノ調査ヲ爲スニ必要ナリト認メタルトキハ當事者、利害關係人又ハ參考人ヲ召喚訊問シ又ハ吏員ヲシテ實地ニ臨檢調査セシムルコトヲ得

第九條 土地建物證明規則第七條ニ依リ異議ノ申立アリタルトキハ監督官廳ハ其ノ申立ヲ審査シ理由アリト認ムルトキハ統首、洞長、郡守及府尹ニ對シ其ノ處分ヲ取消又ハ變更ヲ命スヘシ

第十條 土地建物證明臺帳ノ閱覽ヲ求ムルモノハ手数料金十錢ヲ納ムヘシ

第十一條 第六條ノ證明ヲ受ケタル當事者ハ左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク證明ヲ爲シタル郡守又ハ府尹ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

一 證明セラレタル權利カ消滅シ又ハ移轉シタルトキ

二 證明セラレタル土地又ハ建物ニ關シ第七條各號ニ掲ケタル事項ニ變更アリタルトキ

前項各號ノ場合ニ於テハ其ノ原因ヲ記載シ且證憑書類ヲ添付スヘシ

第十二條 郡守及府尹ハ前條各號ノ届出ニ付其ノ原因ヲ調査シ其ノ事實アリト認メタルトキハ直ニ土地建物證明臺帳ニ之ヲ記載シ且第六條ノ證明ヲ爲シタル契約書ニ其ノ旨ヲ付記スヘシ

第十三條 郡守及府尹ハ當事者ノ申請ニ依リ正當ノ理由アリト認ムルトキハ第六條ノ證明ヲ爲シタル契約書ノ正本ヲ下付スルコトヲ得

第十四條 此規則ニ定メタル手数料ハ收入印紙ヲ手数料納付書ニ貼附シテ納ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ申請ヲ爲スモノハ手数料金五十錢ヲ納ムヘシ

第十五條 此規則ニ定メタル手数料ハ收入印紙ヲ手数料納付書ニ貼附シテ納ムヘシ

前項ノ手数料納付書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 手数料ノ金額

二 第一條、第十條及第十三條ノ場合ニ於テハ其ノ件數、第四條ノ場合ニ於テハ土地建物ノ價額又ハ債權額

三 納付人ノ氏名及納付ノ年月日

第十六條 認證、證明、土地建物證明臺帳、第三條ノ帳簿及手数料納付書ノ様式ハ別紙ニ定ムル所ニ依ル

第十七條 此規則ハ光武十年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別紙)

第一號様式(認證ニ用ユルモノ)

番	號
認	證
帳	簿
手	數
年	月
道	郡
面	洞
統	首
氏	名
印	

備考

- 一 番號ニハ認證番號ヲ記ス
- 二 帳簿記載濟ハ施行細則第三條ニ依ル帳簿ニ記載ノ後ニ記ス
- 三 手数料金額ハ手数料ノ納付ヲ認メタル後ニ記ス
- 四 年月日ニハ認證ノ年月日ヲ記ス
- 五 氏名ノ下ニハ捺印ス
- 六 此認證ハ契約書ニ與書シ又ハ附箋ス附箋ノ場合ニハ附箋ト契約書ノ中間ニ契印ヲ施ス

年 月 日	手 數 料 金 額	帳 簿 記 載 契 約 書 照 合 濟	證 明 番 號	轉 典 番 號
道 郡 府 守 氏 名 印章				

備考

- 一 番號ニハ證明番號ヲ記ス賣買、贈與、交換ノ場合ニハ轉ノ符合典當ノ場合ニハ典ノ符號ヲ冠ス
- 二 帳簿記載契約書照合濟ハ土地建物證明臺帳ニ記載シ且其ノ記載事項ト契約書ノ照合ヲ認メタル後ニ記ス
- 三 手数料金額ハ手数料ノ納付ヲ認メタル後ニ記ス
- 四 年月日ニハ證明ノ年月日ヲ記ス

五 氏名ノ下ニハ官印ヲ捺ス
 六 此證明ハ契約書ニ與書シ又ハ付箋ス付箋ノ場合ニハ付箋ト契約書ノ中間ニ契印ヲ施ス
 第三號様式 土地家屋證明簿
 甲 土地ニ關スルモノ

土 地 表 示		
種 目	種 類	地 番 號
標 四	積 面	名 地 在 所
	量 丈 呼 稱	

第 年 月 日	證 明 年 月 日	證 明 番 號	賣 買 贈 與 交 換	賣 買 贈 與 交 換	賣 買 贈 與 交 換	賣 買 贈 與 交 換	賣 買 贈 與 交 換	賣 買 贈 與 交 換	賣 買 贈 與 交 換
			賣 買 贈 與 交 換	賣 買 贈 與 交 換	賣 買 贈 與 交 換	賣 買 贈 與 交 換	賣 買 贈 與 交 換	賣 買 贈 與 交 換	賣 買 贈 與 交 換
			賣 買 贈 與 交 換	賣 買 贈 與 交 換	賣 買 贈 與 交 換	賣 買 贈 與 交 換	賣 買 贈 與 交 換	賣 買 贈 與 交 換	賣 買 贈 與 交 換

年 月 日	第 號	賣 買		證 明 番 號	證 明 年 月 日	贈 與		買 受 者 氏 名	買 受 住 所 氏 名	賣 與 者 氏 名	賣 與 住 所 氏 名	保 證 人 住 所 氏 名	賣 買 代 價 贈 與 ノ 條 件 交 換 物	其 ノ 他 ノ 事 項	
		目 種	號 番 戶			積 而	名 地 在 所								
乙 家屋ニ關スルモノ															

年 月 日	第 號	典 當		證 明 番 號	證 明 年 月 日	所 有 者 住 所		債 務 者 住 所		債 權 者 住 所		保 證 人 住 所		債 權 ノ 金 額		其 ノ 他 ノ 事 項	
		族 籍 氏 名	族 籍 氏 名			族 籍 氏 名	族 籍 氏 名	族 籍 氏 名	族 籍 氏 名	還 償 期 日							

典 當

證明番號	所有者住所 族籍氏名	債務者住所 族籍氏名	債權者住所 族籍氏名	保證人住所 族籍氏名	債權ノ金額 還償期日	其ノ他ノ事項	第 年 月 日 號	
							年	月

申 告 事 項		知 照 事 項	
申告ノ年月日	申告人ノ住所 族籍氏名	知照ノ年月日	知照ヲ爲シ タル官廳

第四號様式(施行細則第三條ノ帳簿ニ用ユルモノ)
甲 土地ノ認證ニ關スルモノ

土 地 ノ 表 示		
種 目	種 類	地 番 號

積 面	呼 稱	所 在 地 名	四 標	
			丈 量	標 記

乙 家屋ニ關スルモノ

換交 與贈 買賣	
年 月 日	認 證 年 月 日 號
	交 換 者 氏 名
	贈 與 者 氏 名
	買 受 者 氏 名
	住 所 籍 名
當 典	
年 月 日	認 證 年 月 日 號
	籍 住 所 氏 所 有 者 名 族 者
	債 務 者
	債 權 者

示 表 ノ 屋 家	
目 種	號 番 戶
積 面	名 地 在 所

甲

換交 與贈 買賣	
年 月 日	認 證 年 月 日 號
	交 換 者 氏 名
	贈 與 者 氏 名
	買 受 者 氏 名
	住 所 籍 名
當 典	
年 月 日	認 證 年 月 日 號
	籍 住 所 氏 所 有 者 名 族 者
	債 務 者
	債 權 者

第五號様式(手数料納付書ニ用ユルモノ)

印紙	手 數 料 納 付 書
一 金 也	
年 月 日	何 件
納 人 氏 名	
認 證 年 月 日 號	受 付 年 月 日 號

備考

附錄

- 一 本書ハ統首又ハ洞長ニ手数料ヲ納付シタルトキ用ユ
 - 二 手数料ノ金額ニ錯誤無キヲ認メタルトキハ印紙ニ消印ス
 - 三 受付ノ番號及年月日ハ當該欄内ニ記ス
 - 四 認證シタルトキハ其ノ番號及年月日ヲ當該欄内ニ記ス
- 第五號様式(手数料納付書ニ用ユルモノ)

乙

手数料納付書

印紙

一金

也

一 證明手数料

土地又ハ建物ノ價額千分ノ二

債權額ノ千分ノ二

一 閱覽手数料

一 正本下付手数料

何 何

件 件

年 月 日

受付	證明	閱覽	正本下付
年番	年番	年番	年番
月	月	月	月
日號	日號	日號	日號

納人氏名

備考

- 一 本書ハ郡守又ハ府尹ニ手数料ヲ納付スルトキニ用ユ

- 二 證明手数料ニ在リテハ其ノ土地建物ノ價額又ハ其ノ債權額ノ千分ノ二カ金五十錢ニ滿タサルトキハ其ノ手数料ハ金五十錢トス
- 三 手数料ノ金額ニ錯誤無キヲ認メタルトキハ印紙ニ消印ス
- 四 受付ノ番號及年月日ハ當該欄内ニ記ス
- 五 證明シタルトキ閱覽ヲ許可シタルトキ及其ノ正本ヲ下付シタルトキハ其ノ番號及年月日ヲ當該欄内ニ記ス

●土地家屋證明規則ノ施行ニ關スル訓令

三十九年十一月 統告第百二十九號

本年十一月八日韓國法部大臣ハ土地家屋證明規則ノ施行ニ關スル訓令ヲ發セリ其ノ譯文左ノ如シ

觀察使 府尹 郡守

我國民法未タ備ラスシテ從來人民ノ所有スル土地家屋等一切不動産ノ契券ニ付官ニ依リテ完全ニ證明セラレタルモノナシ爲ニ所有權ヲ侵奪セララルノ弊多シ因テ政府ハ特ニ不動産法調査會ヲ設ケ先ツ土地家屋證明規則ヲ制定セシメテ頒布實施セリ茲ニ土地家屋證明規則及施行細則ノ正文ヲ土地家屋證明簿、認證簿及手数料納付書ト共ニ管下各府郡ニ頒給シ併セテ其ノ轉訓ヲ命ス

本年十二月一日ヨリ土地家屋ノ賣買、贈與、交換及典當ニ關スル證明ハ本規定ニ依テ遵施スヘシ左ニ列示スルモノハ其ノ施行ニ關スル綱目ナルヲ以テ特ニ注意ヲ加ヘ之ヲ施行スヘシ

光武十年十一月八日

法部大臣 勳一等 李 夏 榮

- 一 本則ハ土地及家屋ニ付キ正當ノ權利ヲ有スルモノヲ保護シ其ノ權利ヲ確保シ之ニ依リ不動産上ノ權利ノ取得及移轉ニ關シ詐偽及不正手段ノ行ハルルヲ防止セムトスルヲ目的トスルモノナルヲ以テ其ノ證

附 錄

- 明ヲ爲スニ當リテ最モ鄭重ニ之ヲ行ヒ勅令ノ主意ヲ貫徹セシムルコトヲカムヘシ
- 二 調査ノ鄭重ヲ要スルハ勿論ナルモ之カ爲ニ徒ニ時日ヲ遷延セシムルトキハ當事者ニ對シ其ノ權利ノ行使上ニ少カラサル妨害ヲ與フルモノナルヲ以テ此ノ點ニ留意シ調査ノ敏活ヲ計ルヘシ
- 三 統首又ハ洞長ノ認證ハ確的ナルヲ要スルヲ以テ統首又ハ洞長カ其ノ洞内ノ土地又ハ家屋ヲ認證スルニ當テハ事實ノ調査ヲ周到ニシ認證シタル者及認證簿ノ記載ニ事實ノ錯誤ナキコトヲカム可キコト
- 四 土地家屋證明臺帳及施行細則第三條ノ帳簿ハ證明シタル權利ノ狀況ヲ明ニスル爲重要ノ帳簿ナルヲ以テ其ノ保存ニ付テ充分ノ注意ヲ用ユルハ勿論其ノ記入ニ關シテハ規定ニ依リ整齊スルコトヲカムヘシ若錯誤アリテ文字ヲ訂正スルトキハ主任者ニ於テ必ス訂正ノ原簿ニ捺印ヲ施スヘシ其ノ記入上ニ過誤失錯アリテ爲ニ第三者ニ損害ヲ加フルコトアリトセハ責任者タル府尹、郡守及洞長、統首ハ勅令ノ規定ニ依リ賠償ノ責任ヲ負擔スルハ勿論ナリトス
- 五 證明又ハ認證ノ様式ハ施行細則ノ定ムル所ニ依リ決シテ違式且脱漏ナキ様用心スヘシ
- 六 施行細則第六條ニ依リ郡守又ハ府尹カ保存スヘキ契約書原本及其ノ證憑書類ハ當事者ノ權利ノ證據書類ノ最モ重要ナルモノニ屬シ加之ニ契約書ノ原本ノ如キハ當事者ノ請求ニ對シ何時ニテモ其ノ正本ヲ交付スヘキモノナレハ常ニ其ノ保存上ニ付テハ嚴重ニ用心スヘシ
- 七 異議ノ申立ハ當事者カ權利主張ノ唯一ノ救正方法ナレハ其ノ申立カ遲滯ナク呈出セラレタルニ際シテハ精密ナル調査ヲ遂ケ其ノ事實ノ真相ヲ發揮スルコトヲカムヘシ
- 八 本則ハ韓國ノ内地一般ニ施行ス但シ各港ノ各國居留地及專管居留地ハ此ノ限ニ在ラス
- 九 本則施行ノ結果土地又ハ家屋ニ付キ所有權ヲ取得シタルモノハ土地又ハ家屋ニ關スル納租ニ付テハ内外人同一ノ負擔タルコト
- 十 本則施行ノ後ハ從來ノ地契及家契ニ關スル規則ハ之ヲ廢止スルコト但シ從前發行シタル地契及家契ハ其ノ儘效力ヲ有セシムルコト
- 十一 本則施行ノ結果監督官廳ニ提出スヘキ報告書ハ必ス期日ヲ遲滯セサル様注意スヘシ

●土地建物所有權證明規則並土地建物所有權證明規則施行細則

四十一年七月
統告第百十三號

土地建物所有權證明規則

- 第一條 土地又ハ建物ノ所有者ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ所有權ノ證明ヲ郡守又ハ府尹ニ申請スルコトヲ得
 - 一 土地建物證明規則施行前ニ土地又ハ建物ノ所有權ヲ取得シタル者
 - 二 土地建物證明規則施行後ニ賣買、贈與又ハ交換ニ依ラスシテ土地又ハ建物ノ所有權ヲ取得シタル者
- 第二條 前條ノ場合ニハ土地建物證明規則ノ規定ヲ準用ス
- 第三條 外國人ニシテ第一條ノ證明ヲ受ケムトスル者ハ之ヲ日本理事官ニ申請スヘシ
- 第四條 本令施行ニ關スル細則ハ法部大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ隆熙二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

土地建物所有權證明規則施行細則

- 第一條 土地建物證明規則施行前ニ適法ナル原因(賣買、贈與、交換、遺産ノ繼承、分産ノ領受、家屋ノ新築、裁判上確認セラレタル原因ノ類)ニ因リ又ハ同規則施行後ニ賣買、贈與及交換ヲ除クノ外適法ナル原因(遺産ノ繼承、分産ノ領受、家屋ノ新築、裁判上確認セラレタル原因ノ類)ニ因リ土地又ハ建物ノ所有權ヲ取得シタル者ニシテ土地建物所有權證明規則第一條ノ證明ヲ受ケムトスルトキハ申請書二通ヲ作り文記其ノ他證憑書類ヲ添附シテ證明ヲ受クヘキ土地又ハ建物ノ所在地ヲ管轄スル郡守又ハ府尹ニ差出スヘシ
- 第二條 前條ノ場合ニハ申請者ハ手数料トシテ土地又ハ建物ノ價額千分ノ二半ニ相當スル金額ヲ納ムヘシ但シ最低額ヲ一圓ト定ム

第三條 土地又ハ建物ノ價額ハ郡守又ハ府尹之ヲ評定ス

申請者ハ郡守又ハ府尹ノ評定ニ對シ不服アルトキハ觀察使ノ裁定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡守又ハ府尹ハ假證明ヲ爲スヘシ但シ申請者カ裁定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二週内ニ手數料ヲ完納セサルトキハ假證明ヲ取消スヘシ

裁定アリタル後申請者カ前條ニ規定シタル金額ヲ完納シタルトキハ本證明ヲ爲スヘシ

第四條 第一條ノ申請アリタルトキハ郡守又ハ府尹ハ二箇月以上土地又ハ建物ニ就キ左ノ事項ヲ揭示シ且郡衙又ハ府廳ノ門前ニ揭示スヘシ

一 土地又ハ建物ノ表示

二 申請者ノ住所氏名

三 申請ノ年月日

四 申請者ハ該土地又ハ建物ノ所有者タルコトヲ主張スルニ依リ異議アル者ハ速ニ郡守又ハ府尹ニ申告スヘキ旨

第五條 郡守又ハ府尹ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後申請者ノ所有權ノ確實ナルコトヲ認メタルトキハ申請書ノ各通ニ證明ヲ爲シ一通ハ申請者ニ交付シ他ノ一通ハ文記其ノ他證書類ト共ニ之ヲ保存スヘシ郡守又ハ府尹ハ調査ヲ爲シタル後證明ヲ爲スヘキモノニアラスト認メタルトキハ其ノ理由ヲ付シテ證明ヲ拒絕スヘシ

第六條 郡守又ハ府尹ハ前條第一項ノ證明ヲ爲シタルトキ及土地建物所有權證明規則第三條ノ場合ニ於テ日本理事官ノ通知アリタルトキハ直ニ土地建物證明簿ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 土地ニハ種目、所在地名、番號(字號等)、面積(卜數、斗落、步數等)及四標

建物ニハ種目、所在地名、戶番號(統戶等)及面積

二 所有者ノ住所、族籍及氏名

三 證明ノ年月日及番號

第七條 土地建物證明規則施行細則第八條乃至第十四條ノ規定ハ土地建物所有權ノ證明ニ付之ヲ準用ス

第八條 申請書、證明樣式及土地建物證明簿ノ記載例ハ別表ニ依ル

附則

第九條 本令ハ隆熙二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

第一號

申請書樣式

一 所在地名

二 地番號(又ハ戶番號)

三 四標(建物ニハ之ヲ除ク)

四 種目

五 面積

六 土地建物ノ價額(比鄰ノ時價及土地ニハ平年ノ收穫額並地稅額、建物ニハ家稅額ヲ附記スヘシ)

七 所有者ノ住所、族籍及氏名

右土地(又ハ建物)ハ自己ノ所有ナルコトヲ證明セラレ度別紙證書類ヲ添附シ此段及申請候也

年月日

住所族籍

申請人

氏

名

印

郡守(又ハ府尹)氏名

座下

附錄

一九

第二號

證明様式

保第 號

證明ス

帳簿記載畢

手數料金額、、、、

年 月 日

郡守(又ハ府尹)氏 名(印)

備考

- 一 番號ニハ證明番號ヲ記シ「保」ノ符號ヲ冠ス
- 二 「帳簿記載畢」ハ土地建物證明簿ニ記載ヲ終リタル後之ヲ記スヘシ
- 三 手數料金額ハ納付ヲ受ケタル後之ヲ記スヘシ
- 四 年月日ニハ證明ノ年月日ヲ記スヘシ
- 五 假證明ヲ爲ストキハ「證明ス」ノ上ニ「假」ノ字ヲ冠ス但シ後日本細則第三條末項ニ依リ本證明ヲ爲ストキハ「假」ノ字ヲ抹消シテ之ニ認印シ「證明ス」ノ下ニ假字ヲ抹消シタル旨竝其ノ年月日ヲ記シ官印ヲ捺スヘシ
- 六 氏名下ニハ官印ヲ捺スヘシ
- 七 此ノ證明ハ申請書ニ與書スルカ又ハ附箋スヘシ附箋ノ場合ニ於テハ附箋ト申請書ノ中間ニ契印ヲ

踏捺スヘシ

第三號

土地建物證明簿記載例

- 一 土地或ハ建物ノ表示ニ關スル記入ハ土地建物證明簿中土地又ハ建物ノ表示部ニ之ヲ爲シ其ノ他ノ記入ハ次項以下ノ記載例ニ依リ賣買、贈與及交換部ニ之ヲ爲スヘシ
- 二 證明ノ番號及年月日ハ第一欄(證明番號)ニ記入スヘシ
- 三 所有者ノ住所、族籍及氏名ハ第三欄(買受人、受贈者、受換者ノ住所、族籍、氏名)ニ記入スヘシ
- 四 其ノ他ノ記入ハ第六欄(其ノ他ノ事項)ニ記スヘシ
- 五 假證明ヲ爲ストキハ第二欄ニ「假」ノ字ヲ記入スヘシ但シ後日本細則第三條末項ニ依リ本證明ヲ爲ストキハ「假」ノ字ヲ抹消シ第六欄(其ノ他ノ事項)ニ假字ヲ抹消シタル旨竝其ノ年月日ヲ記入スヘシ
- 六 本細則第三條第二項但書ニ依リ假證明ヲ取消ストキハ朱線ヲ以テ抹消シ第六欄(其ノ他ノ事項)ニ抹消シタル旨竝其ノ年月日ヲ記入スヘシ

●土地建物典當執行規則竝土地建物典當執行規則施行細則

四十年二月 統告第十八號

韓國政府ハ明治三十九年十一月二日勅令第八十號土地家屋典當執行規則及本年三月三十日法部令第二號土地家屋典當執行規則施行細則ヲ發布セリ

其ノ譯文左ノ如シ

土地建物典當執行規則

第一條 此ノ規則ハ土地建物證明規則ニ依リ證明ヲ受ケタル典當ニ付テ之ヲ適用ス

第二條 土地建物ノ目的トスル典當ノ執行ニ付テハ流質契約ヲ結フコトヲ得

第三條 土地建物ノ目的トスル典當ニ在テハ債務者カ債務履行ノ期日ヲ經過スルモ其ノ債務ヲ償還セサルト

附 錄

キハ別段ノ契約ナキ限ハ債權者ハ其ノ典當ノ目的タル土地及建物ヲ競賣スルコトヲ得

第四條 競賣ヲ行フトキハ左ノ條件ヲ遵守スヘシ
一 競賣前少クトモ三週日前ニ競賣ヲ行フヘキ旨ヲ債務者ニ通知シ且其ノ立會ヲ求ムヘキコト
二 競賣ノ目的タル土地又ハ建物ノ所在地ニ於テ少クトモ二週日以上競賣ノ目的物及其ノ日時ヲ揭示及公告スルコト

三 競賣ハ目的タル土地又ハ建物ノ所在地ニ於テ之ヲ行フヘキコト但シ債務者ノ同意ヲ得タルトキハ他ノ場所ニ於テ競賣ヲ行フコトヲ得ルコト

四 競賣ニハ統首、洞長、面長等ノ公吏ノ立會ヲ求ムヘキコト若此等ノ者ノ立會ヲ得ルコト能ハサルトキハ丁年以上ノ男子二人ヲシテ立會ハシムヘキコト

五 債權者ハ競賣ノ始末書ヲ調成スヘキコト

第五條 債務者カ前條第一號ノ請求アリタルニ拘ラス立會ヲ爲ササリシトキハ競賣ニ關シ何等ノ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

第六條 債權者ハ第四條第一號ノ通知ヲ爲スト同時ニ其ノ典當ノ證明ヲ爲シタル官廳ニ競賣ヲ行フ旨ヲ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ受ケタル官廳ハ土地建物證明臺帳及其ノ保存セル契約書ニ付キ調査ヲ爲シ競賣ヲ許スヘカラスト認メタルトキハ直ニ其ノ競賣ヲ停止スヘシ

第七條 競賣ヲ終リタルトキ債權者ハ其ノ競賣代金ヨリ債權額及競賣ノ實費ヲ控除シタル後其ノ殘金ヲ計算書ト共ニ債務者ニ還附スヘシ

當事者ノ一方カ本國人ナル場合ニ於テ競賣代金カ債權額及競賣ノ實費額ニ達セサルトキハ債權者ハ其ノ差額ヲ債務者ニ請求スルコトヲ得ス但シ當事者ノ雙方カ外國人ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 競賣ニ際シ競買ヲ申出ルモノナキトキ又ハ競買ノ申出アルモ其ノ金額カ債權額及競賣ノ實費額ニ達

セサルトキハ債權者ハ其ノ債權ノ辨濟ニ代テ競賣ノ目的タル土地又ハ建物ヲ取得スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ競賣ノ費用ハ債權者之ヲ負擔ス

第九條 左ノ場合ニ於テ債權者又ハ競落人ハ典當ノ證明ヲ爲シタル官廳ニ對シ認證ヲ求ムルコトヲ得

一 債權者カ流質契約ニ依リ典當ノ目的タル土地又ハ建物ノ所有權ヲ取得シタルトキ
二 競賣ニ依リ其ノ目的タル土地又ハ建物ヲ競落シタルトキ
三 債權者カ前條ニ依リ競賣ノ目的タル土地又ハ建物ヲ取得シタルトキ

第十條 前條ノ認證ハ土地建物證明規則ニ依リ爲シタル證明ト同一ノ效力ヲ有ス

第十一條 此ノ規則ニ依ル典當ノ執行ニ關シ爭アルトキハ其ノ目的タル土地又ハ建物ノ所在地ヲ管轄スル郡守又ハ府尹之ヲ裁定ス

債務者カ本國人ニシテ債權者カ外國人ナルトキハ當該日本理事官ノ同意ヲ得テ之ヲ裁定スヘシ

債務者カ外國人ニシテ債權者カ本國人ナルトキハ當該郡守又ハ府尹ノ同意ヲ得テ日本理事官之ヲ裁定ス

債務者及債權者ノ雙方カ外國人ナルトキハ日本理事官之ヲ裁定シ當該郡守又ハ府尹ニ通知スヘキモノトス

附 則

第十二條 此ノ規則ノ施行ニ關スル細則ハ法部大臣之ヲ定ム

第十三條 此ノ規則ハ光武十一年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

土地建物典當執行規則施行細則

第二條 土地建物典當執行規則第四條第一號ニ依リ通知スヘキ事項及同規則第六條第一項ニ依リ届出ヘキ事項左ノ如シ

一 競賣ノ日時及目的物

二 競賣ノ場所

附 錄

三 競賣ニ依リ辨濟ヲ受ケムトスル債權額
四 當事者ノ氏名、住所及族籍

第二條 債權ハ土地建物典當執行規則第四條第二號ニ依リ競賣ノ施行前少クトモ二週日以上前條ニ掲ケタル事項ヲ競賣ノ目的タル土地又ハ建物ニ就キ之ヲ揭示シ且同時ニ其ノ所在地慣行ノ例ニ依リ之ヲ公告スヘシ若何等ノ慣例ナキ場合ニハ典當ノ證明ヲ爲シタル官廳及其ノ所在地ノ洞長又ハ統首ノ門前ニ揭示公告スヘシ

第三條 債權者ハ競賣ヲ爲スニ當リ左ノ吏員中ノ一人ノ立會ヲ求ムヘシ

一 統首又ハ洞長

二 面長又ハ其ノ他ノ公吏

前項ノ場合ニ於テ債權者ハ立會タル吏員ニ對シ日當一日金一圓外ニ其ノ所在地ヨリ競賣執行地ニ至ル往復旅費ヲ支拂フヘシ

第四條 債權者カ前條ニ依リ吏員ノ立會ヲ求メタルモ事故ノ爲メニ其ノ立會ヲ得ル能ハサルトキハ競賣ノ目的タル土地又ハ建物ノ所在地ニ就キ丁年以上ノ男子二人ノ立會ヲ求ムヘシ

前項ノ立會人ニハ前條ノ立會人ト同一ノ日當ヲ支拂フヘシ

第五條 競賣ヲ開始シタルモ競買ヲ申出ルモノナキトキ又ハ競買ノ申出アルモ其ノ金額カ債權額及競賣ノ實費額ニ達セサルトキハ債權者ハ競賣ヲ中止スルコトヲ得此ノ場合ニハ其ノ旨ヲ債務者ニ通知シ且典當ノ證明ヲ爲シタル官廳ニ届出ヘシ

第六條 債權者カ競賣ヲ中止シタル後更ニ之ヲ開始セムトスルトキハ其ノ旨ヲ二週日前ニ債務者ニ通知シ且典當ノ證明ヲ爲シタル官廳ニ届出ヘシ

第七條 債權者ハ競賣ヲ終リタルトキハ始末書ヲ作製スヘシ

始末書ニハ競賣ノ顛末ヲ記載シ且左ノ事項ヲ明確ニスヘシ

一 競賣ヲ行ヒタル債權者ノ氏名、住所及族籍

二 競賣ニ付シタル土地又ハ建物ノ表示

三 競賣ノ場所及日時

四 立會人ノ官職、氏名、住所及族籍

五 債務者カ立會タルヤ否

六 土地建物典當執行規則第四條第一號ノ通知同規則第六條第一項ノ届出及本細則第二條ノ揭示公告ヲ爲シタル日

七 競賣申込人ノ氏名、住所及其ノ申込金額

八 競落人ノ氏名、住所、族籍及競落金額

九 土地建物典當執行規則第八條ニ依リ債權者カ競賣ノ目的タル土地又ハ建物ヲ取得シタルトキハ其ノ旨競賣ノ開始及完結ノ日時

十 競賣ノ開始及完結ノ日時

十一 其ノ他必要ナル事項

前項ノ始末書ニハ競賣ヲ行ヒタル債權者及立會人之ニ署名捺印シ且土地建物典當執行規則第四條第一號ノ通知同規則第六條第一項ノ届出及本細則第二條ノ揭示公告ヲ爲シタルコトヲ證スル書面其ノ他競賣ノ執行ニ關スル一切ノ證憑書ヲ添附スヘシ

第八條 前條ノ始末書ハ四通競落人ナキ場合ハ三通ヲ作り一通ハ債權者之ヲ保存シ一通ハ債務者一通ハ競落人ニ交付シ一通ハ典當ノ證明ヲ爲シタル官廳ニ提出スヘシ

債權者ノ保存スル始末書ニハ證憑書類ノ本書ヲ添付シ其ノ他ノ始末書ニハ立會人ノ認證シタル證憑書類ノ謄本ヲ添附スヘシ

第九條 債權者カ作製スヘキ計算書ニハ左ノ事項ヲ明確ニスヘシ

一 競賣ニ依リ得タル代金

- 二 競賣ニ依リ辨濟ヲ受ケムトスル債權ノ原本ノ金額
- 三 競賣ニ依リ辨濟ヲ受ケムトスル利子ノ金額及其ノ利率
- 四 前二號ノ外競賣ニ依リ辨濟ヲ受ケムトスル債權アラハ其ノ金額
- 五 競賣ニ關スル實費
- 六 債權額及競賣ノ實費ヲ競賣ニ依リ得タル金額ヨリ控除シタル殘額

第十條 左ノ費用ハ競賣ノ實費トス
 一 土地建物典當執行規則第四條第一號ノ通知同規則第六條第一項ノ届出及本細則第二條ノ揭示公告ノ費用

二 立會人ニ支拂フヘキ日當及旅費

三 債權者カ債務履行地ヨリ競賣執行地ニ至ル往復旅費及競賣ノ開始ヨリ終結ニ至ル滞在日當

四 計算書及始末書作製ノ費用

五 其ノ他競賣ノ執行ニ關シ必要缺クヘカラサル費用

前項第三號ノ滞在日常ハ一日金一圓トス

第十一條 土地建物典當執行規則第九條ニ依リ認證ヲ求メムトスル者ハ申請書二通ヲ作り當該官廳ニ提出ス

同規則第九條第一號ノ場合ニハ申請書ニ流質契約及債務者カ債務履行ノ期日ヲ過クルモ償還ヲ爲ササルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

同規則第九條第二號及第三號ノ場合ニハ申請書ニ競賣始末書ヲ添附スヘシ

第十二條 前條ニ依リ認證ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ之ヲ調査シ其ノ眞實ナルコトヲ認メタルトキハ土地建物證明臺帳中賣買、贈與及交換ノ欄内ニ其ノ旨ヲ記載シ同時ニ申請書ノ各通ニ認證ヲ爲シ其ノ一通ハ申請人ニ交付シ他ノ一通ハ當該官廳ニ保存スルモノトス

第十三條 競賣ノ執行ニ關シ異議アル者ハ土地建物典當執行規則第十一條ニ依リ當該官廳ノ裁定ヲ求ムヘシ

此ノ場合ニハ左ノ事項ヲ具備シタル申請書ヲ提出スヘシ

一 裁定ヲ求メムトスル事項及其ノ理由

二 當事者ノ氏名、住所及族籍

前項ノ場合ニハ裁定ヲ求ムル事項一件毎ニ金二圓ノ手数料ヲ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

第十四條 前條ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ其ノ相手方ヲ審訊シタル後裁定スヘシ此ノ場合ニ於テ必要

ト認メタルトキハ當該官廳ハ競賣ノ停止ヲ命スルコトヲ得

土地建物典當執行規則第十一條第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ裁定及處分ハ豫メ當該理事官ニ協議シ其ノ同意ヲ得タル後之ヲ爲スモノトス

第十五條 競賣ノ執行ハ第十三條ノ申請アリタルニ拘ラス續行スルモノトス但シ當該官廳ヨリ停止ノ命令アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

附 則

第十六條 本細則ハ光武十一年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●清津土地規則

四十一年三月
 統告第五十二號

明治四十一年三月二十六日韓國政府ニ於テ公布シタル清津土地規則譯文左ノ如シ
 勅令第十五號

清津土地規則

第一條 本規則ハ咸鏡北道富寧郡清津ニ適用ス

第二條 清津ノ境界ハ附屬圖面ノ如ク清津境界ナル文字ヲ彫刻シタル石標ヲ以テ之ヲ指示ス石標ハ境界線ノ兩端ニ在ル滿潮點ニ各一箇ヲ置キ他ハ其ノ角點ニ置ク

第三條 清津ノ土地ヲ分チテ一等地及二等地ノ二種トス各種地區間ノ境界ハ石標又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ指示ス

第四條 清津ノ土地ニ賦課スル租稅其ノ他ノ公課ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外其ノ地ヲ管轄スル理事官ニ納付スヘシ

第五條 清津ノ土地ニ賦課スヘキ地租額ハ左ノ如シ
一等地 一箇年一坪ニ對シテ 金 貳拾錢
二等地 一箇年一坪ニ對シテ 金 五錢

第六條 地租ハ毎年一月十日以内ニ其ノ年ノ一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一箇年分ヲ前納スヘシ

前項ニ掲クル期日以後ニ清津官有地賣下規則ニ依リ競賣ニ付シタル土地ニ在リテハ地租ハ同規則第五條ニ掲クル賣買契約書作成ノ月ヨリ起算シテ同年十二月迄ノ分ヲ該契約書作成ノ日ヨリ十日以内ニ月割ヲ以テ前納スヘシ

第七條 前條ノ期間内ニ地租ヲ納付セサルトキハ一箇年二割四分ノ比例ヲ以テ利子ヲ徵收ス

第八條 地租ヲ納付スヘキ日ヨリ六箇月後ニ至リテ尙且地租及利子ヲ納付セサルトキハ二箇月以内ニ在リテ

三十日前ニ豫告ヲ爲シ該地區ヲ競賣ニ付スヘシ

前項ノ場合ニ在リテハ競落金ハ順次ニ之ヲ競賣費用、競賣當日マテノ地租及利子並公課ニ充テ尙且剩餘アルトキハ之ヲ舊所有者又ハ其ノ承繼人ニ交付スヘシ

第九條 本規則ノ施行ニ必要ナル規定ハ清津ヲ管轄スル理事官ニ於テ之ヲ定ム

●清津官有地賣下規則

四十一年三月
統告第五十三號

明治四十一年三月二十八日韓國政府ニ於テ公布シタル清津官有地賣下規則譯文左ノ如シ
勅令第十七號

清津官有地賣下規則

第一條 本規則ハ咸鏡北道富寧郡清津ニ適用ス

第二條 清津ニ在ル官有地ノ賣下ハ清津ヲ管轄スル理事官ニ於テ之ヲ掌ル

第三條 官有地ノ賣下ハ競賣ノ方法ニ依ル

第四條 競落人ハ競賣終了後即時其ノ競落價額ノ五分一ヲ契約保證金トシテ納付スヘシ

第五條 競落人契約保證金ヲ納付シタルトキハ別記書式ニ依リ賣買契約書二通ヲ作成シ當該官廳及競落人之ニ署名捺印シタル後各其ノ一通ヲ保有スヘシ

第六條 競落價額ハ賣買契約書作成ノ日ヨリ十日以内ニ納入スヘシ

第七條 競落人第四條及第六條ニ掲ケタル義務ヲ怠ルトキハ賣買ヲ無効トシ尙且第六條ニ掲ケタル義務ヲ怠

リタル場合ニ在リテハ契約保證金ヲ沒收ス

第八條 土地ヲ取得シタル者第五條ニ掲ケタル賣買契約書作成ノ日ヨリ三箇年以内ニ該地區ヲ利用セサルト

キハ右契約ヲ無効トシ當該地區ヲ競賣ニ付スヘシ

前項競落金ハ第三條ニ依リテ賣下ケタルトキハ競落人ノ支拂ヒタル金額ニ達スル迄之ヲ前項ニ掲ケタル土

地取得者ニ返還シ尙且剩餘アルトキハ之ヲ沒收ス

第九條 本規則ノ施行ニ必要ナル規定ハ清津ヲ管轄スル理事官ニ於テ之ヲ定ム

(書式)

賣買契約書

清津ヲ管轄スル日本理事廳理事官誰某ハ清津官有地賣下規則ニ依リ韓國政府ヲ代表シ何國人誰某ニ金幾圓ノ價額ヲ以テ咸鏡北道富寧郡清津幾等地第幾號幾坪ノ面積ヲ有スル土地ヲ賣渡シタルモノトス
明治何年何月何日清津理事廳ニ於テ本書二通ヲ作り各自署名捺印ス

理事官 何

某

● 地方費法

四十二年七月
統告第六十二號

買受人 何

某

三〇

地方費法

- 第一條 漢城府及各道ニ於テ公共事業ノ爲地方費ヲ設ク
- 地方費ハ地方費ニ屬スル財産並其ノ收入、地方費支辨ノ事業ニ屬スル收入及賦課金ヲ以テ之ニ充ツ
- 第二條 地方費ヲ以テ支辨シ得ル費目ハ左ノ如シ
但シ地方費ノ支辨ニ屬スルモノト國費ノ支辨ニ屬スルモノトノ區分ハ内部大臣度支部大臣ト協議シ内部令ヲ以テ之ヲ定ム

 - 一 應舎ノ建築及修繕ニ關スル經費
 - 二 土木ニ關スル經費
 - 三 衛生、病院、救恤及慈善ニ關スル經費
 - 四 勸業ニ關スル經費
 - 五 教育及學藝ニ關スル經費

- 前項各號ノ外法令ニ依リ地方費ノ支辨ニ屬スル經費及地方公共上必要ノ事業ニ關スル補助費
- 第三條 地方費ニ充ツル賦課金ノ種類ハ從來地方ニ於テ徵收シタル諸稅中ニ就テ之ヲ定ム
- 第四條 賦課金ノ課目、課率、納期其ノ他賦課ニ關シ必要ナル規定ハ内部大臣及度支部大臣ノ認可ヲ得テ漢城府尹及觀察使府令又ハ道令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五條 前條ノ府令又ハ道令ニ依リ賦課金ヲ賦課徵收スルハ國稅ノ例ニ依リ財務署長之ヲ行フ
- 第六條 漢城府尹及觀察使ハ地方費ノ支辨ニ屬スル事業ノ爲管内ノ一部ニ對シ内部大臣ノ認可ヲ得テ夫役及現品ヲ賦課スルコトヲ得

- 第七條 地方費ノ支辨ニ屬スル事業ノ爲寄附金ヲ受ケタルトキハ寄附者ノ指定シタル用途ニ使用スヘシ
 - 第八條 漢城府尹及觀察使ハ特別ノ事情アル者ニ對シ賦課金及夫役、現品ノ減免又ハ延期ヲ爲スコトヲ得
 - 第九條 漢城府尹及觀察使ハ每會計年度ニ地方費ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ其ノ前年十月末日迄ニ内部大臣ニ提出シテ認可ヲ受クヘシ
既定ノ豫算ハ内部大臣ノ認可ヲ得テ追加又ハ更定スルコトヲ得
 - 第十條 漢城府尹及觀察使ハ前條ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ要領ヲ告示スヘシ
 - 第十一條 漢城府尹及觀察使ハ每會計年度地方費ノ歲入歲出豫算ニ對スル決算ヲ調製シ年度經過後五箇月以内ニ内部大臣ニ報告シ並其ノ要領ヲ告示スヘシ
 - 第十二條 地方費ノ會計ニ關スル規程ハ内部大臣之ヲ定ム
- 附 則
- 第十三條 第九條ノ期限ハ本法施行ノ年度ニ限リ其ノ年八月末日迄トス
 - 第十四條 光武十年勅令第八十一號地方稅規則ハ之ヲ廢止ス

● 屠獸規則

四十二年八月
統告第八十三號

屠獸規則

- 第一條 食用ニ供スル牛、馬、羊、豚及犬ノ屠殺、解體ハ屠場以外ニ於テ爲スコトヲ得ス
地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ内部大臣ノ認可ヲ得相當ノ期間内前項ノ規定ニ依ラサラシムルコトヲ得
- 第二條 屠場ヲ設ケムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ業務ヲ開始セサルトキハ前項ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

附 錄

三一

六箇月間連續シテ業務ヲ休止シタルトキ亦同シ

第三條 地方長官ハ前條ノ許可ニ對シ期限ヲ附スルコトヲ得

第四條 屠場營業者屠場ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人連署シ地方長官ニ請願シテ許可ヲ受クヘシ

第五條 屠獸検査、屠獸検査員、検査料、屠殺解體料並屠場取締ニ關シ必要ナル規定ハ内部大臣ノ認可ヲ得

地方長官之ヲ定ム

第六條 地方長官ハ衛生上危害アリ又ハ公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ屠場ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

第七條 第一條、第二條及第六條ニ依ル停止命令ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ三月以下ノ禁獄ニ處ス

附則

第八條 漢城府ニ於ケル屠場ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第九條 本法ハ隆熙三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 開國五百年法律第一號卮肆規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但シ卮肆規則ニ依リ卮肆營業ノ准許ヲ得タル者ハ隆熙三年内ニ限リ本法第二條ノ許可ヲ要セス其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

第十一條 本法公布前屠場設立ノ准許ヲ受ケタル者ハ本法施行ノ日ヨリ四箇月以内ニ地方長官ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ認許ヲ受ケサルモノハ其ノ效力ヲ失フ

● 巡查配置請願規則並同費用ノ件

四十一年十二月 純告第二百四號

韓國政府ハ隆熙二年十二月十七日内部令第七號ヲ以テ巡查配置請願規則並同日内部告示第四十四號ヲ以テ巡查配置請願規則第三條ノ費用ニ關スル件ヲ公布セリ其ノ譯文左ノ如シ

巡查配置請願規則

第一條 巡查ノ配置ヲ請願セムトスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察官署ヲ經テ各道ニ在リテハ内部ニ漢

府ニ在リテハ警視廳ニ願出ツヘシ其ノ巡查ヲ増員シ若ハ配置期間ヲ延長セムトスルトキ亦同シ

一 配置ヲ要スル事由

二 巡查ノ員數(韓國人巡查日本人巡查ノ別ヲ記スヘシ)

三 配置ノ場所

四 配置ノ期間

五 請願者ノ住所氏名(會社銀行等ニ在リテハ事務所所在地及其ノ代表者氏名)

第二條 巡查ノ配置請願期間ハ六箇月以上トス但シ特別ノ理由アリト認ムルトキハ三箇月以上ノ期間許可スルコトアルヘシ

第三條 請願巡查ノ費用ハ別ニ定ムル所ニ依リ之ヲ前納スヘシ

舍宅料ヲ支給スル地方ニ在リテハ其ノ舍宅料ニ付テモ亦前項ニ同シ但シ請願者ニ於テ適當ノ舍宅ヲ充ツルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 旅費日當ヲ要スル場合ハ一般巡查ノ規定ニ依リ之ヲ納付スヘシ

第五條 請願者ニ於テ特別ノ事由ニ因リ期間内ニ巡查配置ノ廢止若ハ減員ヲ請ハムトスルトキハ三十日以前ニ所轄警察官署ヲ經テ各道ニ在リテハ内部ニ漢城府ニ在リテハ警視廳ニ願出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ殘月數ニ對スル既納費用ハ之ヲ還付シ一箇月未滿ノ端日數ニ對シテハ之ヲ還付セス

第六條 巡查配置ノ請願ヲ許可シタル場合ト雖官ノ都合ニ依リ之ヲ取消シ又ハ配置ヲ停止スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ翌日ヨリ起算シ日割ヲ以テ既納費用ヲ還付ス

第七條 本令ハ官公署ヨリ特別ニ巡查配置ノ要求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 本令ニ依リ配置スル巡查ハ之ヲ定員外トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

巡查配置請願規則第三條ノ費用ニ關スル件

巡查配置請願規則第三條ノ費用ハ左ノ通定ム

- 一 日本人巡查一人 月額金四十六圓(特別手當ヲ支給スル者ニ在リテハ其ノ支給額ヲ加徴ス)
- 一 韓國人巡查一人 同 金十五圓(同上)
- 一 舍宅料及旅費ハ其ノ支給額ヲ徴ス

●浮流水雷拾得者ニ對シ行賞ノ件

四十年七月 統告第九十六號

明治四十年六月二十六日韓國政府ニ於テ公布シタル浮流水雷拾得者ニ對シ行賞ノ件告示譯文左ノ如シ

告示

日露戰役ノ時沈設セシ水雷往往本國領海ニ浮流スル爲渡航及漁業者ニ危險ヲ及ホシ妨害甚シキカ故其ノ不虞ノ危害ヲ注意除去スル事ニ關シ已ニ沿海各地方ヘ訓令シ置キタル處自今本國領海内ニ於テ水雷ヲ發見シ所轄官廳ヘ届出ツル者有之時ハ内外國人ヲ問ハス水雷一箇ニ對シ金壹百圓ヲ賞與スルニ付發見届出ノ者ハ所轄官廳ニ申出ツルト同時ニ賞與金請求書ヲ提出スヘシ

光武十一年六月二十六日

內 部

第二章 度支部主管事項

●國稅徵收法

四十二年三月 統告第十七號

韓國政府ハ隆熙三年二月二十六日法律第五號ヲ以テ國稅徵收法ヲ公布セリ其ノ譯文左ノ如シ

國稅徵收法

第一章 總 則

第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ規定ヲ設クルモノノ外此ノ法律ニ依ル

第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス但シ左ノ各號ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

- 一 國稅滯納處分著手前ニ於テ他ノ公課ニ對シ督促狀ヲ發シ滯納處分ニ著手シ又ハ強制執行若ハ競賣開始アリタルトキハ其ノ督促手数料、滯納處分費、強制執行費用及競賣費用
- 二 第三者カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ納稅者ノ財産上ニ典當權ヲ有スルコトヲ證明シタルトキハ該物件ノ價格ヲ限度トシタル其ノ債權

第三條 國稅ノ督促手数料及滯納處分費ハ國稅其ノ他一切ノ公課及債權ニ先チ之ヲ徵收ス但シ第二條第一號ノ手数料及費用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 納稅者左ノ場合ニ該當スルトキハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得

- 一 國稅其ノ他公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
- 二 強制執行ヲ受クルトキ
- 三 競賣ノ開始アリタルトキ
- 四 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 五 法人カ解散ヲ爲シタルトキ
- 六 納稅者脫稅ヲ謀ルノ行爲アリト認メタルトキ

第五條 相續開始ノ場合ニ於テハ國稅及其ノ督促手数料、滯納處分費ハ相續財團又ハ家督相續人、遺產相續人ヨリ之ヲ徵收ス

第六條 共有物又ハ共同事業ニ對スル國稅及其ノ督促手数料、滯納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔

附 錄

三五

第七條 納税者カ納税地ニ居處ヲ有セサルトキハ代理人ヲ定メ納税ニ關スル事項ヲ處理セシムヘシ但シ特別ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八條 納税ノ告知、督促及滞納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居處ニ送達ス

書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居處ニ於テ書類ノ領收ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國內ニ住所、居處ヲ有セサルトキ若ハ其ノ住所、居處不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公示ス

前項ノ公示ヲ爲シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第二章 徵收

第九條 面ハ度支部大臣ノ指定ニ依リ面内各種ノ國稅ヲ徵收シ之ヲ國庫ニ納入スヘシ

政府ハ面カ國庫ニ納入シタル金額ニ應シ度支部大臣ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ給ス

第十條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ財務官吏又ハ面長ハ納税者ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ告知スヘシ

第十一條 面ハ財務署長ノ認許シタル公錢領收員ヲシテ國稅ノ領收及納入ヲ取扱ハシムルコトヲ要ス

第十二條 公錢領收員ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ度支部大臣ニ稅金納入ノ免除ヲ請願スルコトヲ得

前項ノ請願アリタルトキハ度支部大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第十三條 公錢領收員故ナク其ノ領收シタル稅金ヲ國庫ニ納入セサルトキハ第二條、第三條及滞納處分ニ關スル規定ヲ準用ス

第十四條 納税者納期ヲ過キテ稅金ヲ完納セサルトキハ財務官吏ハ更ニ期限ヲ指定シ督促書ヲ發スヘシ

督促書ヲ發シタルトキハ督促手數料トシテ稅金額百分ノ一ニ相當スル金額ヲ徵收ス但シ錢位未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

督促手數料ハ最少額ヲ金十錢トス

第三章 滞納處分

第十五條

左ノ場合ニ於テハ財務官吏ハ納税者ノ財産ヲ差押フヘシ

一 納税ノ督促ヲ爲スモ指定期限迄ニ督促手數料及稅金ヲ完納セサルトキ

二 第四條ニ依リ納税ノ告知ヲ受ケ稅金ヲ完納セサルトキ

第十六條 差押處分ヲ爲ストキハ財務官吏ハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證票ヲ示スヘシ

第十七條 差押フヘキ財産ノ價格ニシテ督促手數料、滞納處分費及第二條ニ依リ控除スヘキ金額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滞納處分ノ執行ヲ止ム

第十八條 滞納者ノ財産中典當ニ供シタル物件アルトキハ其ノ典當ニ供シタル時期ノ如何ニ拘ラス權利者ハ財務官吏ニ對シ典當物ノ交付ヲ拒絕スルコトヲ得ス

第十九條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

一 滞納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上闕クヘカラサル物件

二 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及墓碑、墓地

三 系譜其ノ他滞納者ノ家ニ必要ナル日記書類及信章

四 職務上必要ナル制服、祭服、法衣

五 勳章其ノ他名譽ノ章票

六 滞納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具

七 發明又ハ著作ニ係ルモノニシテ未タ公ニセサルモノ

第二十條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル果實ニ及フモノトス

滞納處分ハ裁判上ノ假差押又ハ假處分ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラルルコトナシ

第二十一條 財務官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滞納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル門戶筐匣

ヲ開カシメ若ハ自ラ之ル開クコトヲ得
滞納者ノ財産ヲ占有スル第三者其ノ財産ノ交付ヲ拒ミタルトキ亦同シ
第三者ノ家屋、倉庫及篋匣ニ滞納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ財務官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得

前二項ニ依リ搜索スルハ日出ヨリ日没マテトス

第二十二條 財務官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滞納者又ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家族、雇人、成年者若ハ警察官吏ヲシテ立會ハシムヘシ

第二十三條 通貨、有價證券其ノ他動産ノ差押ハ財務官吏占有シテ之ヲ爲ス但シ差押物件運搬ヲ爲スニ困難ナリト認ムルトキハ面長、滞納者又ハ第三者ヲシテ保管セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ封印其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ

第二十四條 債權ヲ差押ヘタルトキハ財務官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル債務者ハ財務官吏ニ對シ其ノ債務ヲ履行スルノ義務ヲ有ス其ノ義務ノ消滅前債權者ニ爲シタル債務ノ履行ハ無効トス

債權及所有權以外ノ財産權ノ差押ヲ爲ストキハ財務官吏ハ之ヲ其ノ權利者ニ通知スヘシ

第二十五條 財務官吏ノ差押ヘタル財産ニ付第三者力其ノ所有權ヲ主張シ還付ヲ請求セムトスルトキハ賣却決行ノ五日前述ニ所有者タル證據ヲ具シ財務官吏ニ申出ツヘシ

第二十六條 滞納者財産ノ差押ヲ免カルル爲故意ヲ以テ其ノ財産ヲ讓與シタルトキハ政府ハ之カ取消ヲ求ムルコトヲ得但シ讓受人又ハ轉得者情ヲ知ラサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 差押ヘタル有價證券、動産、不動産及第二十四條ニ依リ債務者ヨリ給付ヲ受ケタル物件ハ通貨ヲ除クノ外公賣ニ付ス

公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格豫定價格ニ達セサルトキハ其ノ豫定價格ヲ以テ政府ニ於テ買上

クルコトヲ得

豫定價格三十圓未満ノ物件ハ隨意契約ヲ以テ賣却スルコトヲ得

債權及所有權以外ノ財産權ニ付テハ前三項ノ規定ヲ準用ス

第二十八條 滞納者及財務官吏ハ直接ト間接トヲ問ハス其ノ賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十九條 滞納處分費ハ財産ノ差押、保管、運搬、公賣ニ關スル費用及通信費トス

第三十條 物件ノ賣却代金、差押ヘタル通貨及第二十四條ニ依リ債務者ヨリ給付ヲ受ケタル通貨ハ督促手数料、滞納處分費及税金ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ交付ス

賣却シタル物件カ典當權ノ目的物タルトキハ其ノ代金ヲ以テ先ツ督促手数料、滞納處分費及税金ヲ控除シ次ニ其ノ債務額ニ充ツル額ヲ債權者ニ交付シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ交付ス但シ第二條第二號ニ掲ケタル典當權ノ目的物タル物件ニ關シテハ其ノ代金ヲ以テ先ツ督促手数料及滞納處分費ヲ徴シ次ニ其ノ債務額ニ充ツル額ヲ債權者ニ交付シ次ニ税金ヲ控除シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ交付ス

第三十一條 滞納處分ヲ結了シ若ハ中止シタルトキハ納稅義務及督促手数料、滞納處分費納付ノ義務ハ消滅ス

第四章 罰則

第三十二條 惡意ヲ以テ納稅ヲ拒絕スルカ又ハ教唆煽動シテ納稅ヲ拒絕セシメタル者ハ答刑五十以下ニ處ス

第三十三條 左ノ場合ニ於テハ其ノ犯人ヲ二年以下ノ役刑及ハ禁獄ニ處ス
一 滞納者又ハ滞納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契約ヲ爲シタルトキ

二 差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏、費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ
情ヲ知リテ前項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虚偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

第三十四條 本法施行ニ關スル細則ハ度支部大臣之ヲ定ム

附則

附錄

第三十五條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

光武十年勅令第六十號租稅徵收規程ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●國稅徵收法施行細則

四十二年三月
統告第十八號

韓國政府ハ隆熙三年三月一日度支部令第六號ヲ以テ國稅徵收法施行細則ヲ公布セリ其ノ譯文左ノ如シ
國稅徵收法施行細則

第一條 左ノ國稅ハ面ニ於テ之ヲ徵收スヘシ但シ特ニ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 地稅
- 二 戶稅
- 三 家屋稅
- 四 船稅
- 五 鹽稅
- 六 酒稅
- 七 煙草稅
- 八 人蔘稅

國稅徵收法第九條第二項ノ面交付金ノ比例ハ國庫ニ納入シタル金額ノ百分ノ二トス

第三條 國稅徵收法第四條ニ依リ徵收スルコトヲ得ル國稅ハ左ノ諸稅トス

- 一 納稅告知ヲ行ヒタル諸稅
- 二 當該年分ノ酒稅及煙草稅
- 三 製造斤數査定濟ノ鹽稅及收獲間數査定濟ノ人蔘稅
- 第三條 納稅者カ納稅代理人ヲ定メ若ハ之ヲ變更シタルトキハ其ノ姓名及住所ヲ連署ヲ以テ所管財

務署ニ申告スヘシ

納稅代理人其ノ住所、居所若ハ姓名ヲ變更シタルトキハ其ノ旨ヲ所管財務署ニ申告スヘシ

第二條 於テ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ前二項ノ申告ハ其ノ面長ヲ經由スヘシ

第四條 國稅徵收法ニ依ル書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ニ依ルヘシ

第五條 納稅ノ告知、督促及滯納處分ニ關スル公示ハ財務署ニ之ヲ揭示スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ財務署以外ノ適當ナル場所ニ揭示シ又ハ他ノ方法ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得

第六條 財務官吏國稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅者ニ對シ別記第一號書式ニ依リ納入告知書ヲ發スヘシ但シ收入官吏ニ納付セシムル場合ニ在リテハ口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得

第一條 第一項ノ國稅ニシテ其ノ納稅者ノ納稅額多額トナリ直接ニ金庫又ハ國庫金取扱郵便官署ニ稅金ヲ納付セシムルノ便利ナルコトヲ認メタルトキハ財務官吏ハ前項ニ依リ納入ノ告知ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ財務官吏ハ納稅者ノ住所又ハ居所、姓名及稅額並直接ニ納入告知ヲ爲シタル旨ヲ當該面ニ通知スヘシ

第七條 面ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ付テハ財務官吏ハ別記第二號書式ニ依リ其ノ面ニ納額告知書ヲ發スヘシ

前項ノ告知アリタルトキハ面長ハ別記第三號書式ノ面收納簿ニ記載シ各納稅者ニ對シ別記第四號書式ノ納稅告知書ヲ發スヘシ

前項ノ面收納簿ハ其ノ要件ヲ記載シタル他ノ帳簿ヲ以テ代用シ納稅ノ告知ハ地方慣例ニ依リ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第八條 國稅徵收法第四條ニ依リ納期ノ到ラサル稅金ヲ徵收セムトスルトキハ納期日ヲ定メ第六條又ハ第七條第一項ノ告知ヲ爲スト同時ニ納期線上ノ事由ヲ通知スヘシ

納稅告知ヲ爲シタル後國稅徵收法第四條ニ依リ納期日前ニ之ヲ徵收セムトスルトキハ財務官吏ハ納期日ノ

變更ヲ納税者ニ通知スヘシ其ノ國稅ニシテ面ニ於テ徵收スヘキモノナルトキハ其ノ旨面ニモ通知スヘシ

第九條 納税者納入ノ告知又ハ督促ヲ受ケタルトキハ其ノ期限内ニ現金ヲ指定ノ場所ニ納付スヘシ

納税者納稅告知書ヲ受ケタル者ナルトキハ前項ニ依リ納付ノ際現金ト共ニ之ヲ提出スヘシ

税金、督促手数料及滯納處分費ハ郵便爲替又ハ銀行爲替ヲ以テ納付スルコトヲ得

第十條 公錢領收員税金ヲ徵收シタルトキハ領收證ヲ納税者ニ交付シ面收納簿ニ納入年月日及金額ヲ記入ス

ヘシ但シ納税者ノ面前ニ於テ面收納簿ニ領收濟ノ記入ヲ爲シ且ツ納税者カ領收證ノ交付ヲ求メサルトキハ

之ヲ交付セサルコトヲ得

公錢領收員ノ徵收シタル税金ハ別記第五號書式ノ現金納付書ヲ添附シ金庫又ハ國庫金取扱郵便官署ニ納付

シ其ノ領收證ヲ受クヘシ

第十一條 納期限ヲ過クルモ税金ヲ納付セサル者アルトキハ面長又ハ公錢領收員ハ即時之カ督促ヲ爲スヘシ

督促ヲ受クルモ尙滯納スル者アルトキハ納期末日ヨリ十五日以内ニ別記第六號書式ノ滯納報告書ヲ所管財

務署長ニ提出スヘシ

前項ノ報告ヲ爲シタル後異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度之ヲ報告スヘシ

第十二條 公錢領收員國稅徵收法第十二條ニ依リ税金納入ノ免除ヲ請願セムトスルトキハ所管財務署長ヲ經

テ度支部大臣ニ願書ヲ提出スヘシ

財務署長前項ノ請願書ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ具シ所管財務監督局長ニ送付スヘシ

財務監督局長前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ此ノ處分ニ關スル意見ヲ付シ度支部大臣ニ稟申スヘシ

第十三條 國稅徵收法第十四條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ財務官吏ハ別記第七號書式ニ依リ納

稅者ニ對シ督促書ヲ發スヘシ

督促手数料ニ督促書毎ニ一度ヲ以テ計算ス

第十四條 隆熙二年法律第十號第一條但書ニ該當スル場合ニ於テ小作人其ノ他土地使用者滯納シタルトキハ

直接土地所有者ニ對シ前條第一項ノ督促書ヲ發スルコトヲ得

第十五條 國稅徵收法第十六條ニ規定シタル證票ハ別記第八號書式ニ依ルヘシ

第十六條 差押フヘキ財産所管區域外ニ在ルトキハ財務官吏ハ其ノ財産所在地ノ財務官吏ニ滯納處分ノ引繼

ヲ爲スヘシ

第十七條 差押フヘキ財産數人ノ共有ニ係ルトキハ滯納者ニ屬スル持分ニ付滯納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メ

ナキモノハ持分相均シキモノトシテ處分スヘシ

第十八條 財務官吏財産ヲ差押ヘタルトキハ差押調書二通ヲ作り立會人ト共ニ之ニ署名捺印シ其ノ一通ハ立

會人ニ交付スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ

差押調書ハ別記第九號書式ニ依リ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 滯納者ノ姓名及住所ハ居所

二 差押財産ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並所在ヲ明ニスル事項

三 差押ノ事由

四 調書ヲ作りタル場所及年月日

前二項ノ規定ハ債權ノミノ差押ニハ之ヲ適用セス

第十九條 財務官吏債權ノ差押ヲ爲ストキハ債務者ニ對シ別記第十號書式ニ依リ債權差押ノ通知書ヲ發スヘ

シ

典當權ノ設定セラレタル財産ヲ差押フルトキハ財務官吏ハ督促手数料、滯納處分費及税金額其ノ他必要ト

認ムル事項ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ

國稅ニ對シ先取權ヲ有スル債權者前項ノ通知ヲ受ケ其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ送達ヲ受ケタル日ヨ

リ七日以内ニ土地家屋證明規則ニ依リ證明書其ノ他公正の性質ヲ有スル證據書類ヲ添附シ其ノ事實ヲ證明

スヘシ

第二十條 裁判上ノ假差押又ハ假處分ヲ受ケタル財産ヲ差押ノルトキハ之ヲ執行裁判所、執行官吏又ハ財産保管者ニ通知スヘシ

第二十一條 左ノ各號ノ場合ニ在リテハ財務官吏ハ差押ヲ解除スヘシ

- 一 差押物件滞納者ノ權利ニ屬セサルコト判明シタルトキ
 - 二 賣却執行前日迄ニ滞納者又ハ第三者ヨリ督促手數料、滞納處分費及税金ヲ完納シタルトキ
 - 三 差押ヲ爲シタル後國稅徵收法第十七條ニ依リ滞納處分ノ執行ヲ止ムヘキ事實ヲ發見シタルトキ
- 第二十二條 國稅徵收法第二十七條ニ依ル公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ爲スヘシ

- 公賣ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ公示スヘシ
- 一 滞納者ノ姓名及住所若ハ居所
 - 二 公賣財産ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並所在ヲ明ニスル事項
 - 三 入札又ハ競賣ノ場所及日時
 - 四 開札ノ場所及日時
 - 五 保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額
 - 六 代金納付ノ期限

競賣ノ方法ニ依リ財産ヲ公賣スルトキハ競賣人ヲ選ビテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十三條 財産公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ豫定價額百分ノ十以內ノ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ

落札人又ハ買受人其ノ義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金ハ政府ノ所得トス

第二十四條 公賣ハ公示ノ初日ヨリ七日ヲ過キタル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不相應ナル保存費ヲ要スルモノ又ハ著シク其ノ價格ヲ減損スルノ虞アルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 財務官吏ハ公賣ニ付スヘキ財産ノ價格ヲ豫定シ之ヲ封書トシテ公賣ノ場所ニ置クヘシ

第二十六條 入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テハ買受人ハ其ノ住所、姓名、各買受財産ノ種類、數量及入札價額ヲ記セル入札書ヲ封緘シテ提出スヘシ

落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二人以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同キトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム

第二十七條 公賣財産ノ買受人ハ財務官吏ノ發シタル納入告知書ヲ添附シ其ノ代金ヲ收入官吏ニ納付スヘシ

第二十八條 財産ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ買受價格豫定價格ニ達セサルトキハ更ニ公賣ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 公賣財産ノ買受人代金納付ノ期限迄ニ其ノ代金ヲ完納セサルトキハ財務官吏ハ其ノ賣買ヲ解除シ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第三十條 前二條ニ依リ再公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第二十四條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第三十一條 賣却シタル財産ニ付滞納者ヲシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ財務官吏ハ滞納者ニ代リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 國稅徵收法第四條ニ該當スル場合ニ於テハ國稅ノ滞納處分及同條第六號ノ場合ヲ除クノ外財務官吏ハ當該官廳、公共團體、執行裁判所、執行官吏、強制管理人、破産主任者又ハ清算人ニ督促手數料、滞納處分費及滞納税金ノ交付ヲ請求スヘシ但シ他ニ差押フヘキ財産アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ妨グス

第三十三條 滞納處分ヲ終了シタルトキハ財務官吏ハ別記第十一號書式ノ計算書ヲ作り之ヲ滞納者ニ交付スヘシ

賣却シタル財産ニ對シ典當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記録ノ閱覽ヲ財務官吏ニ請求スルコトヲ得

附則

本令ハ國稅徵收法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

第一號書式

納告知書

第「何」號	度支部主管	「何」年度	「何」郡何面	「何」某納
款「何」項	「何」	「何」年	「何」條	
一金「幾何」 右「何」年「何」月「何」日限リ「何」金庫(何財務署)ニ納付スヘシ 隆熙「何」年「何」月「何」日 「何」財務署長「姓名」印				

領收畢通知書

第「何」號	度支部主管	「何」年度	「何」郡何面	「何」某納
款「何」項	「何」	「何」年	「何」條	
一金「幾何」 「何」年「何」月「何」日領收 「何」財務署長 座下 (收入官吏官姓名「何」金庫「印」)				

領受證書

第「何」號	「何」年度	「何」郡何面	「何」某納
項「何」	「何」年	「何」條	
一金「幾何」 「何」年「何」月「何」日領收 (收入官吏官姓名「何」金庫「印」)			

備考

- 一 金庫又ハ財務署ニ納付セシムルモノハ本書式ニ依ル告知書ヲ發スヘシ
- 二 領收畢通知書及領收證書中ノ領受年月日及金庫名又ハ收入官吏姓名ヲ除クノ外ハ總テ財務署ニ於テ記入スヘシ

第二號書式

納額告知書

第「何」號	度支部主管	「何」年度	「何」
款	項	「何」年	「何」條
面			
一金「幾何」			
右「何」年「何」月「何」日限リ「何」金庫(何郵便局所)ニ納付スヘシ			
隆熙「何」年「何」月「何」日			
「何」財務署長「姓名」印			

備考

一 納税者一人別ニ其ノ納額ヲ通知スル必要アルトキハ別紙ニ記載シテ添付スヘシ
第三號書式 「何」年度「何」稅 面收納簿

年 月 日	摘要	調定額	收納額	未納額
三年一月二十五日	「何」號 何年第一期分	五、〇〇〇		五、〇〇〇
二月二十日	「何」號		五、〇〇〇	
四月二十日	「何」號 何年第二期分		五、〇〇〇	五、〇〇〇
「何」里(洞)「何」 某				

五月十日			二、〇〇〇	
五月二十五日	滯納報告			三、〇〇〇
「何」里(洞)「何」 某				

備考

一 本簿ハ稅目毎ニ別冊又ハ口座ヲ分チテ調製シ一年度間使用スヘシ
二 稅目毎ニ合計ヲ上ケ毎日調定額、收納額並未納額ヲ明記スヘシ

第四號書式

納稅告知書

第「何」號	「何」	稅「何」	年	條	「何」里(洞)「何」某「納
一金「幾何」					
右「何」年「何」月「何」日限リ公錢領收員ニ納付スヘシ					
隆熙「何」年「何」月「何」日					
「何」面長 何 某「印					

附錄

證收領面

第「何」號「何」	稅	「何」年	條「何」里(洞)	「何」某「納
「金」幾何		隆熙「何」年「何」月「何」日領收		

五〇

第五號書式

書付給金現

第「何」號	度支部主管	「何」年	度「何」	「何」財務署
款「何」項		「何」年「何」條		
「金」幾何				
右給付ス				
隆熙「何」年「何」月「何」日				

「何」面公錢領收員何某印

書告報畢收領

第「何」號	度支部主管	「何」年	度「何」	「何」面公錢領收員何某納
款「何」項		「何」年「何」條		
「金」幾何				
「何」年「何」月「何」日領收				

「何」郵便局(所)印

書知通畢收領

第「何」號	度支部主管	「何」年	度「何」	「何」面公錢領收員何某納
款「何」項		「何」年「何」條		
「金」幾何				
「何」年「何」月「何」日領收				

「何」金庫印

「何」財務署長 座下

「何」郵便局(所)印

附錄

五二

領收證書

第「何」號	「何」年「何」度	「何」面公錢領收員「何」某納
項「何」	「何」年「何」月「何」日領收	
一、金、幾何		
「何」年「何」月「何」日領收		
「何」金庫 「何」郵便局所 印		

裏面ヲ熟覽スヘシ
(裏面)

注意

- 一 金額ハ現ニ納付スル金額ヲ明瞭ニ記載スヘシ
- 二 各欄ニ記載スル事項ハ納額告知書ノ如ク記載スヘシ
- 三 金庫又ハ郵便局所名及領收年月日ヲ除キ他ノ事項ハ四枚共總テ公錢領收員之ヲ記入スヘシ
- 四 本書ニ現金ヲ添附シテ納額告知書ニ指定セル金庫又ハ郵便局所ニ納付シ領收證ヲ受クヘシ
- 五 領收證ハ年度毎ニ税別(項名別)ニ編綴シテ保存スヘシ

第六號書式

隆熙 年 月 日

「何」財務署長官姓名 座下

「何」面長「何」某「印」

滯納報告書

計	地 稅	年 度	納 期	稅 額	滯納事由	納 稅 者		
						居 住 地	姓 名	名
	同	隆熙三年度	二月二十八日	二、〇〇〇	貧 困	何	洞
	同	同	同	五、〇〇〇	怠 慢	何	郡	何
	同	光武十年條	二月二十五日	一、〇〇〇	何

第七號書式

附 錄

三三

第 號 督 促 書

「何」郡「何」面「何」洞「何」某
 滯納税金
 内
 一金「幾何」
 金「幾何」
 金……………
 一金「幾何」
 右「隆熙」「何」年「何」月「何」日限り當財務署ニ納付スヘシ
 若此ノ期限ヲ過キ完納セサルトキハ即時財産差押ノ處分ヲ行フ事
 隆熙「何」年「何」月「何」日
 「何」財務署長「官」姓名「印」
 督促手数料
 「何」年度「何」期「何」税
 「何」年條……………

第八號書式

用紙厚紙 縦(長)二寸五分横(廣)二寸五分

表
 第「何」號
 國稅滯納者
 財産押收證票
 「財務」印

裏
 「何」財務署
 「官」姓名

第九號書式

差 押 調 書

一 通貨 金「幾何」
 一 「何」 「幾」箇
 「何」道「何」郡「何」面「何」洞 天(字號)
 一 番「幾」斗落
 此結數 「幾何」
 本地ハ「何」道「何」郡「何」面「何」洞「何」某ニ一箇年小作料幾何ニテ「何」年「何」月「何」日ヨリ「何」年「何」月「何」日マテ貸付シタルモノ
 (以下前例ニ依リ列記ス可シ)
 右ハ「何」道「何」郡「何」面「何」洞「何」某「何」税「何」年「何」期分金「幾何」滯納ニ付「何」月「何」日「何」本人(又ハ「本人不在ノ故ニ何某」)立會ノ後前記ノ財産ヲ差押ヘタルモノナリ
 隆熙「何」年「何」月「何」日「何」處ニ於テ此調書ヲ作ル

「何」財務署
 「官」姓名「印」
 「何」郡「何」面「何」洞
 立會人「何」某「印」

第十號書式

債權差押通知書

「何道何郡何面何洞
債權者 何 某」
「何道何郡何面何洞
債務者 何 某」

徵收金額

一金幾何

税金

金幾何

督促手數料及滯納處分費

前記金額ヲ徵收スル爲隆熙何年何月何日(返済ノ期限ナキ債務ノ場)債務者カ支拂フヘキ金幾何又ハ金幾何内金幾何ヲ差押フ依リ隆熙何年何月何日迄ニ本官ニ支拂フモノトス此ノ通知ヲ受ケタル後債權者ニ對シ支拂ヲ爲スモ其ノ支拂ハ無効トス

右通知候也

隆熙何年何月何日

「何」財務署長

「官」姓名「洞」

「何道何郡何面何洞

「何」某「座下

備考

一 債務者カ官廳タルトキハ其ノ支拂命令官ノ官姓名法人タルトキハ其ノ法人名ヲ記入スルモノトス

第十一號書式

計算書

「金」幾何

收入額

「何道何郡何面何洞

「何」某

「金」幾何

押收通貨

「金」幾何

何々公賣代金

「金」幾何

支拂額

「金」幾何

督促手數料

「金」幾何

滯納處分費

「金」幾何

債權者何某ニ交付額

「金」幾何

元金

「金」幾何

自何年何月何日利子

「金」幾何

滯納税金

「金」幾何

何税何年何期分

「金」幾何

何税何年何期分

「金」幾何

滯納者ニ還付スヘキ分

「金」幾何

隆熙何年何月何日

何財務署長「官」姓名「洞」

○紅蔘專賣法、人蔘稅法、紅蔘專賣法施行細則、人蔘稅法施行細則

五八

竝人蔘ノ特別耕作區域

四十二年八月
統告百二十號

改正

四十二年
統告一六〇號

韓國政府ハ隆熙二年七月二十日法律第十四號ヲ以テ紅蔘專賣法ヲ、同年同月同日法律第十五號ヲ以テ人蔘稅法ヲ、同年同月二十一日度支部令第十八號ヲ以テ紅蔘專賣法施行細則ヲ、同年同月同日度支部令第十七號ヲ以テ人蔘稅法施行細則ヲ、同年同月三十日度支部令第二十二號ヲ以テ人蔘ノ特別耕作區域指定ノ件ヲ公布セリ其ノ譯文左ノ如シ

紅蔘專賣法

- 第一條 紅蔘ノ製造ハ政府ニ專屬ス
- 第二條 紅蔘ハ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ販賣シ又ハ輸出スルコトヲ得ス
- 第三條 人蔘ハ政府ノ免許ヲ得タル者ニ非サレハ之ヲ耕作スルコトヲ得ス
- 第四條 紅蔘製造ノ原料タルヘキ水蔘ハ政府之ヲ收納ス
- 第五條 政府ハ紅蔘製造ノ原料ニ充ツヘキ人蔘ノ特別耕作區域ヲ指定スルコトヲ得
- 第六條 人蔘耕作者ハ毎年左ノ事項ニ付政府ニ申請シテ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更シ又ハ耕作ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ
 - 一 蔘苗圃ノ位置、間數
 - 二 成苗ヲ定植スヘキ蔘圃ノ位置間數及成苗ノ根數
 - 三 收穫スヘキ蔘圃ノ位置、間數及人蔘ノ根數
- 第七條 相續ニ因ルノ外人蔘ノ耕作ヲ承繼セムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ
- 第八條 政府ハ收穫前ニ水蔘ノ收穫量目及根數ヲ査定ス

第九條 人蔘耕作者ハ政府ノ許可ヲ受クルニ非サレハ前條ノ査定前ニ人蔘ヲ收穫スルコトヲ得ス

第十條 人蔘耕作者ノ收穫シタル水蔘ハ總テ之ヲ政府ニ納付スヘシ納付ノ期日及場所ハ政府之ヲ定ム

前項ニ依リ人蔘耕作者ノ納付シタル水蔘ニシテ政府ノ收穫ニ適セサルモノハ紅蔘ヲ製造スヘカラサル措置ヲ施シ之ヲ元納付者ニ還附ス

第十一條 政府ハ其ノ收納シタル水蔘ニ對シ賠償金ヲ交付ス

第十二條 人蔘耕作者正當ノ事由ナクシテ政府ノ査定シタル量目又ハ根數以上ノ水蔘ヲ納付セサルトキハ政府ハ其ノ不足額ニ對シ第十三條第二項ノ規定ニ準シ算定シタル金額ノ八倍ヲ納付セシムルコトヲ得

第十三條 人蔘耕作者私ニ耕作間數ヲ減少シ又ハ耕作ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ耕作地又ハ廢作地ニ生産スヘキ水蔘ノ價格ニ相當スル金額ヲ納付セシムルコトヲ得

前項水蔘ノ價格ハ其ノ年ニ於ケル近傍類似蔘圃ノ水蔘收納額及之ニ對スル賠償金額ヲ標準トシテ之ヲ算定ス

第十四條 第六條及第八條乃至第十三條ノ規定ハ特別耕作地域内ニテ人蔘ヲ耕作スル者ニ限リ之ヲ適用ス

第十五條 人蔘耕作者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ政府ハ耕作ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十六條 政府ハ蔘圃、乾燥場、貯藏場其ノ他必要ト認ムル場所ニ立入り物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ナル處置ヲ行フコトヲ得

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル現品ハ之ヲ沒收ス

- 一 第二條ニ違背シ紅蔘ヲ販賣シ又ハ輸出シタル者
- 二 第三條ニ違背シ免許ヲ受ケスシテ人蔘ヲ耕作シタル者
- 三 第六條、第七條及第九條ニ違背シタル者

附 錄

五九

四 政府ニ納付スヘキ水蔘ヲ他ニ讓渡シ、讓受ケ、消費シ又ハ隠蔽シタル者
第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 人蔘耕作者ニシテ許可ヲ受ケサル土地ニ人蔘ヲ耕作シタル者
二 人蔘耕作者ニシテ正當ナル事由ナクシテ政府ノ指定シタル納付期日ニ水蔘ヲ納付セサル者

第十九條 私ニ紅蔘ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル
現品及製造器具器械ハ之ヲ沒收ス

第二十條 本法ノ犯罪ニ係ル現品ヲ他ニ讓渡シ若ハ消費シタルトキ又ハ其ノ現品ニシテ他ニ所有者アル爲沒
收スルコトヲ得サルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第二十一條 當該官吏ノ尋問ニ對シ虚偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ妨害シタル者ハ十圓以上百圓以
下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 當該官吏本法ノ犯罪ヲ調査シ其ノ心證ヲ得タルトキハ犯人ニ對シ罰金追徵ニ相當スル金額沒收
ニ該當スル物品及書類送達其ノ他附帶ノ費用ヲ指定ノ場所ニ納付スヘキ旨ノ通告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ通告ニハ期間ヲ指定シ該期間ニ履行セサルトキハ告發スヘキ旨ヲ記載スヘシ
第二十三條 犯人前條ノ通告ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ對シ訴訟ヲ受クルコトナシ

第二十四條 人蔘耕作者ハ其ノ代理人、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本
法ニ基キ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス第二
條ノ規定ニ違反シ紅蔘ヲ販賣シ又ハ輸出スル者ニ對シテモ亦同シ

第二十五條 本法施行ノ爲必要ナル細則ハ度支部大臣之ヲ定ム

附則
本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行ノ際人蔘ヲ耕作スル者ハ本法施行ノ日ヨリ三箇月内ニ政府ニ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲シタル者ハ第三條ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

人蔘稅法

第一條 人蔘耕作者ニハ本法ニ依リ人蔘稅ヲ課ス

第二條 人蔘稅ハ毎年收穫スヘキ蔘圃ニ對シ金十錢トス

第三條 蔘苗ノミヲ育成シ之ヲ販賣スル者ニハ前條ノ人蔘稅ヲ課セス

第四條 人蔘耕作者ハ毎年左ノ事項ヲ定メ政府ニ申告スヘシ其ノ變更又ハ耕作ヲ廢止シタルトキ亦同シ但シ
紅蔘專賣法第六條ニ依リ許可ヲ受ケヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 蔘苗圃ノ位置、間數

二 成苗ヲ定植スヘキ蔘圃ノ位置、間數及成苗ノ根數

三 收穫スヘキ蔘圃ノ位置、間數及人蔘ノ根數

第五條 人蔘稅ノ納期ハ毎年十一月末日迄トス

第六條 政府ハ毎年收穫前ニ其ノ收穫スヘキ蔘圃ノ間數ヲ査定ス

第七條 人蔘耕作者ハ前條ノ査定前ニ於テ人蔘ヲ收穫スルコトヲ得ス但シ政府ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ
限ニ在ラス

第八條 第六條ノ査定後災害盜難其ノ他避クヘカラサル事由ニ因リ蔘圃ノ收穫ヲ著シク減少シタルトキハ人
蔘稅ヲ免除スルコトヲ得

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ニ違背シ申告ヲ怠リタル者

二 第七條ニ違背シタル者

第十條 人蔘ヲ耕作スル者詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ蔘圃ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其
ノ間數ノ人蔘稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十一條 人蔘ヲ耕作スル者故意ニ事故ヲ作成シ人蔘税ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ間數ノ人蔘税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五圓ヲ下ルコトヲ得ス

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法ハ紅蔘專賣法第五條ニ依リ政府ノ指定スル特別耕作區域ニハ之ヲ施行セス

紅蔘專賣法施行細則

第一條 人蔘耕作ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ度支部ニ差出スヘシ

前項耕作ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シテハ第二號書式ノ免許證ヲ交付スヘシ

紅蔘專賣法附則第二項ニ依リ申告シタル者ニ對シテモ亦同シ

第二條 前條ノ免許證ハ人蔘耕作者ニ於テ其ノ耕作ヲ廢止シ又ハ免許ヲ取消シタル場合ニ於テハ之ヲ度支部ニ返納スヘシ

第三條 紅蔘專賣法第六條ニ掲クル專項ニ對シテハ人蔘耕作者ハ度支部大臣ノ定ムル期間内ニ於テ度支部ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

第四條 前條ノ許可ヲ得タル者ニ對シテハ左ノ書式ノ許可證ヲ交付スヘシ

一 播種ヲ許可シタルトキ 第三號書式

二 移植ヲ許可シタルトキ 第四號書式

三 收穫ヲ許可シタルトキ 第五號書式

許可ヲ受ケタル事項ヲ變更シタル場合ニハ舊許可證ト引換ニ新許可證ヲ交付スヘシ

第五條 前條ノ許可證ハ證書不用ニ歸シタルトキハ之ヲ度支部ニ返納スヘシ

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ人蔘耕作ノ免許ヲ爲サス又ハ耕作ニ關シ必要ナル制限ヲ付ス

ルコトアルヘシ

一 人蔘ニ關スル法令ニ違反シタル者

二 人蔘耕作ノ成績不良ナル者

三 人蔘耕作取締上不便ト認ムル地方ニ耕作セムトスル者

四 耕作地積五十間ニ充タサル者

第七條 人蔘耕作者免許證又ハ許可證ヲ亡失シタルトキハ即時事由ヲ具シ之カ再下付ヲ度支部ニ申請スヘシ

第八條 左ノ事項ハ度支部大臣ノ指示スル處ニ從フヘシ

一 蔘苗圃ノ設備及其ノ管理

二 播種、移植及收穫ノ時期

三 蔘圃每一間ノ植付根數並根間ノ距離

四 其ノ他一般耕作方法

五 病蟲害ノ豫防及驅除方法

六 水蔘ノ作畝及運搬方法

第九條 成苗ノ定植ヲ了リタルトキハ殘存ノ蔘苗ハ當該官吏ノ承認ヲ經テ相當ナル處置ヲ行フヘシ

第十條 人蔘耕作者ハ其ノ耕作地毎ニ耕作者ノ姓名ヲ記シタル標木ヲ立ツヘシ

第十一條 紅蔘專賣法第八條ニ依リ水蔘ノ收穫量目及根數ヲ査定セムトスルトキハ度支部大臣ハ其ノ期日ヲ定メ豫メ之ヲ公示スヘシ

第十二條 人蔘耕作者ハ災害盜難其ノ他ノ事故ニ因リ耕作人蔘ニ損害ヲ受ケタルトキハ即時其ノ事由ヲ具シ度支部ニ申告スヘシ

第十三條 水蔘ヲ政府ニ納付スル場合ニハ其ノ年次、片數毎ニ區分調理スヘシ

第十四條 收穫ニ際シ腐蝕根、未熟根等アルトキハ當該官吏ノ承認ヲ經テ相當ナル處置ヲ行フヘシ

第十五條 水蔘ヲ納付スヘキ期日及場所ハ度支部大臣之ヲ定メ豫メ公示スヘシ
 第十六條 人蔘耕作者納付ノ爲水蔘ヲ運搬スルトキハ耕作許可證ヲ携帯スヘシ
 前項ノ許可證ハ水蔘ヲ納付スル際之ヲ度支部ニ提出シ納付根數、量目、賠償金額、還付根數等ノ記入ヲ受
 クヘシ

第十七條 人蔘耕作者ハ其ノ耕作間數ノ減少又ハ耕作廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ現存スル人蔘ニ對シテハ當
 該官吏ノ承認ヲ經テ相當ナル處置ヲ行フヘシ紅蔘專賣法第十五條ニ依リ耕作ノ免許ヲ取消シタルトキ亦同
 シ

附則

第十八條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

人蔘耕作免許請願	
一 耕作地位置 何郡 何面 里洞 二 耕作地積 本圃 何間 苗圃 何間 人蔘ヲ耕作致度候間免許被下度候 年月日	住所 姓 名 右 姓 名 度支部大臣宛

第二號書式

第 號 人蔘耕作免許證 年月日 度支部印	住所 姓 名 度支部
-------------------------------	------------------

第三號書式

一 隆熙年月日 第 號 播種許可證	住所 姓 名
----------------------------	-----------

許可事項

附錄

苗圃位置	苗圃間數	摘
計		要

第四號書式

面 三

- 注意
- 一 許可事項ノ變更ヲ申請スル場合ニハ其ノ申請書ニ本證ヲ添附スヘシ
 - 二 本證ハ官吏臨檢ノ際何時ニテモ提出スル様保管スヘシ

隆熙 年月日 第 號

移植許可證

住所 姓 名

面 一

許可事項

苗圃位置	蔘圃位置	移植間數	同上根數	同上經年數	移植事由
計					

注意

- 一 許可事項ノ變更ヲ申請スル場合ニハ其ノ申請書ニ本證ヲ添附スヘシ
- 二 本證ハ官吏臨檢ノ際何時ニテモ提出スル様保管スヘシ

第五號書式

面 一

隆熙 年月日 第 號

收穫許可證

住所 姓 名

附 錄

許可事項

計	蔘圃位置	收穫間數	經年次	根數	根數	定目	摘	要

面二	面三	面四
納付月日	根數	目賠償金
		還付根數
		摘
		要

注意

一 許可事項ノ變更ヲ申請スル場合ニハ其ノ申請書ニ本證ヲ添付スヘシ

二 査定スル際ハ本證ヲ當該官吏ニ提出シ其ノ査定數量ノ記入ヲ受クヘシ

三 納付ノ爲メ水蔘ヲ運搬スルトキハ本證ヲ携帶スヘシ

四 納付ノ際ハ實印ヲ携帶シ本證ヲ提出シ其ノ月日、量目、根數、賠償金、還付根數ノ記入ヲ受クヘシ

五 本證ハ官吏臨檢ノ際何時ニテモ提出スル様保管スヘシ

人蔘税法施行細則

第一條 人蔘耕作者ハ度支部大臣ノ定ムル期限内ニ人蔘税法第四條ニ掲載セル事項ヲ所轄財務署ニ申告スヘシ但シ人蔘税法第三條ニ該當スル者ハ其ノ旨ヲ併セテ申告スヘシ

第二條 人蔘税ハ人蔘税法第六條ニ依ル査定間數ニ依リ之ヲ徵收ス

第三條 前條間數査定ヲ行ハムトスルトキハ財務署長ハ豫メ其ノ期日ヲ定メ之ヲ公示スヘシ

第四條 人蔘耕作者ニ於テ人蔘税法第八條ニ該當スル場合ニハ其ノ事由ヲ具シ所轄財務署ニ申告スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

人蔘ノ特別耕作區域

- 京畿道
- 開城郡
- 長湍郡
- 豐德郡
- 黃海道
- 金川郡
- 兎山郡
- 平山郡
- 瑞興郡
- 鳳山郡

地稅ニ關スル件

韓國政府ハ隆熙二年六月二十九日法律第十號ヲ以テ地稅ニ關スル件ヲ公布セリ其ノ譯文左ノ如シ

第一條 地稅ハ結價ニ依リ土地所有者ヨリ之ヲ徵收ス但シ地方ノ習慣又ハ契約ニ依リ小作人其ノ他土地使用者ニ於テ納稅スヘキ場合ニ在リテハ先ツ其ノ使用者ヨリ徵收シ其ノ使用者滯納ノ場合ニ在リテハ土地所有者ヨリ之ヲ徵收ス

第二條 地稅ノ結價ハ新貨幣ニ換算低減シ全國ヲ通シテ別表ノ如ク之ヲ定ム

第三條 未定價及未定數ノ地稅ニ在リテハ從來元ヲ以テ定メタルモノハ一元ニ付金五十錢、兩ヲ以テ定メタルモノハ一兩ニ付金十錢ノ比例ニ換算シテ之ヲ徵收ス但シ錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツルモノトス

附則

本令ハ隆熙二年戊申條地稅ヨリ之ヲ施行ス

別表	舊結價	新結價	
一六〇〇〇	八〇〇〇	五・三三四	二・六〇〇
一三・三三四	六・六〇〇	四・二六六	二・一〇〇
一一・七三四	五・三〇〇	三・九三二	二・一〇〇
一〇・六六六	四・二〇〇	三・七三四	一・三〇〇
九・〇六六	四・〇〇〇	三・二〇〇	一・〇〇〇
八・八九〇	三・七〇〇	二・八六六	一・〇〇〇
八・五三四	三・七〇〇	二・〇八〇	一・〇〇〇
八・〇〇〇	三・二〇〇	一・八六六	一・〇〇〇
七・四六六	三・二〇〇	一・三三四	五〇〇
七・一〇〇	三・二〇〇	一・〇六六	二〇〇
六・四〇〇	三・二〇〇	〇・六六六	二〇〇

●地稅及戶稅ノ納期ニ關スル件

四十二年三月 統告第十六號

韓國政府ハ隆熙三年二月二十六日勅令第二十號ヲ以テ地稅及戶稅ノ納期ニ關スル件ヲ公布セリ其ノ譯文左ノ如シ

第一條 地稅ハ左ノ納期ニ依リ每期總額ノ十分ノ五ヲ徵收ス

一 平安南北及咸鏡南北ノ四道

第一期 其ノ年二月

第二期 同十一月

二 前號ニ掲載セサル各道

第一期 其ノ年十二月

第二期 翌年二月

第二條 戶稅ハ其ノ年四月及九月ノ兩期ニ分チ每期總額ノ十分ノ五ヲ徵收ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●漁業稅法

四十二年三月 統告第二十五號

韓國政府ハ隆熙三年三月十八日法律第十號ヲ以テ漁業稅法ヲ公布セリ其ノ譯文左ノ如シ

漁業稅法

第一條 漁業法ニ依リ漁業ヲ營ム者ニハ本法ニ依リ漁業稅ヲ課ス

免許漁業者其ノ漁業權ヲ擔保ニ供シ又ハ他ニ貸付スルモ漁業稅ハ免許漁業者ニ於テ納付スヘシ

第二條 漁業稅ハ漁業法ニ掲クル漁業ノ種別ニ從ヒ毎年左ノ稅率ニ依リ之ヲ徵收ス

一 第一種、第二種、第四種及第五種ノ免許漁業

採捕物價格一百圓迄毎ニ

金二圓

二 第二種免許漁業

區劃水面一千坪迄毎ニ

金一圓

附錄

- 三 第一種許可漁業(漁業法第九條第一號ノ漁業)
 - 一 曳網類 一漁具毎ニ 金十圓
 - 一 小地曳網類 同 金三圓
- 四 第二種許可漁業(漁業法第九條第二號ノ漁業)
 - 一 汽力ニ依ル底曳網類 一隻毎ニ 金百五十圓
 - 汽船總噸數百噸以上ノモノ 同 金七十五圓
 - 同百噸未満ノモノ 同 金六圓
 - 一 風力又ハ潮流ニ依ル底曳網類 一漁具毎ニ 金三圓
 - 一 小打瀬網類 一漁具毎ニ 金十二圓
- 五 第三種許可漁業(漁業法第九條第三號ノ漁業)
 - 一 捲網類 一漁具毎ニ 金四圓
 - 一 繰網類 同 金二圓
 - 一 小手繰網類 同 金十五圓
- 六 第四種許可漁業(漁業法第九條第四號ノ漁業)
 - 潜水器一臺毎ニ 金十圓
- 七 第五種許可漁業(漁業法第九條第五號ノ漁業)
 - 一 佃附漁業 一漁業毎ニ 金五圓
 - 一 漬場、築磯漁業 同 金四圓
- 八 第一種申告漁業
 - 一 漁船毎ニ 金四圓

九 第二種申告漁業

- 一 漁船毎ニ 金三圓
- 十 第三種申告漁業
 - 一 漁船ヲ使用スルモノ 一漁船毎ニ 金一圓
 - 一 漁船ヲ使用セサルモノ 一漁業者毎ニ 金五十錢

前項第一號ノ採捕物價格ハ假令金額ニ依ル但シ二箇年以上ノ免許期間ヲ有スル免許漁業者ノ二年目以後ニ於ケル採捕物價格ハ前年中ノ採捕物價格ニ依ルコトヲ得

度支部大臣ハ未タ何人モ漁業法第二條ニ規定スル漁業ヲ營ミタルコトナキ水面ニ於テ新ニ第二種免許漁業ノ免許ヲ受ケケル者ニ對シ五年以内ノ期間ヲ限リ第一項第二號ノ稅率ヲ減少スルコトヲ得

免許漁業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ漁業ヲ爲ササルコト其ノ年ノ全部ニ互リタルトキハ當該年分ノ漁業稅ヲ免除ス

- 一 漁業法第六條ニ依リ漁業權ヲ停止セラレタルトキ
- 二 農商工部大臣ノ認可ヲ得テ漁業ニ著手セサルカ又ハ休業シタルトキ
- 三 漁業法第七條第一項第一號ノ期間以内ノ休業ヲ爲シ前年中ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告シタルトキ
- 第三條 左ノ漁業稅ハ免許狀、許可狀又ハ鑑札ヲ交付スルトキ之ヲ納付スヘシ
 - 一 免許漁業者ニ在リテハ免許初年分ノ稅額
 - 二 許可及申告漁業者ニ在リテハ許可狀又ハ鑑札ノ有効期間ニ相當スル全稅額
- 二箇年以上ノ期間ヲ有スル免許漁業者ノ二年目以後ニ於ケル漁業稅ノ納期ハ毎年四月末日限トス
- 第四條 漁業者廢業其ノ他ノ事故ニ因リ免許狀、許可狀又ハ鑑札ノ效力ヲ失フモ既納ノ稅金ハ還付セス
- 第五條 免許漁業者ハ毎年一月三十一日限リ前年中ニ於ケル採捕物ノ種類、數量及價格ヲ政府ニ申告スヘシ
- 第六條 二箇年以上ノ期間ヲ有スル免許漁業者ニシテ韓國内ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ漁場所在地ヲ

管轄スル財務署所管内ニ納税代理人ヲ定メ免許狀ヲ受ケタル際政府ニ申告スヘシ代理人ヲ變更タシルトキ亦同シ
 第七條 財務官吏ハ漁具、漁船又ハ漁業ニ關スル書類ノ検査ヲ爲スコトヲ得
 第八條 漁業税ヲ脱税シタル者ハ脱税額五倍ノ罰金ニ處ス
 第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 虚欺ヲ以テ第二條第四項第三號ノ申告ヲ爲シタルトキ
- 二 第五條又ハ第六條ノ申告ヲ怠リ又ハ詐リタルトキ
- 三 財務官吏ノ職務執行ヲ拒ミ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキ但シ刑法大全ニ正條アルモノハ其ノ規定ニ依ル

附則

本法ハ漁業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 光武十年勅令第八十三號水産税規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 漁業法第十六條第四項ニ依リ漁業ヲ營ムコトヲ得ル者ニ對シテハ其ノ期間内ニ限り水産税規則ハ尙其ノ效力ヲ有ス但シ漁業法ニ依リ免許、許可又ハ鑑札ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 漁業法第十六條第二項ニ依リ漁業ヲ營ム者ニハ本法ニ依ル漁業税ヲ課セス

●漁業税法施行細則

四十二年三月
 統告第二十六號 改正 四三年
 告示三號

韓國政府ハ隆熙三年三月十九日度支部分第十一號ヲ以テ漁業税法施行細則ヲ公布セリ其ノ譯文左ノ如シ

漁業税法施行細則

- 第一條ノ一 税法第二條第三號乃至第五號中ノ漁具種別ハ左ノ各號ニ依ル
 - 一 第三號中ノ小地曳網類トハ網ノ全長(身網、荒手網ヲ合スル浮子附ノ長)百五十尋以下ノモノヲ謂フ
 - 二 第四號中ノ小打瀬網類トハ肩幅(船ノ幅員最廣部分)七尺未滿ノ漁船ニ於テ使用スルモノヲ謂フ
 - 三 第五號中ノ小手線網類ハ二人以下乗組ノ漁船ニ於テ使用スルモノヲ謂フ

漁業税法施行細則

- 第一條ノ二 税法第二條第三項ニ依リ税率ノ減少ヲ得ムトスル者ハ未タ何人モ漁業法第二條ニ規定スル漁業ヲ營ミタルコトナキ水面ナルコトヲ證明シ免許出願官廳ヲ經由シテ度支部大臣ニ請願スヘシ
- 第二條 税法第二條第四項第三號ニ依リ漁業税ノ免除ヲ得ムトスル者ハ休業ノ始期及終期ヲ記載シタル申告書ヲ休業ノ際度支部大臣ニ提出スヘシ
- 第三條 税法第五條ノ申告書ハ漁場ヲ所管スル財務署ニ提出スヘシ
- 第四條 税法第六條ノ申告書ハ代理人ト連署シ度支部大臣ニ宛テ免許狀ノ交付ヲ爲ス官廳ニ提出スヘシ
 代理人ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク度支部大臣ニ申告スヘシ
- 第五條 税法第二條第二項但書ニ依ルヘキ場合ニ於テハ財務署長ハ漁業者ノ前年中ニ於ケル採捕物價格ヲ決定シ毎年納期前之ヲ漁業者ニ通知スヘシ但シ漁業者ノ申告シタル採捕物價格ヲ是認セシモノニ付テハ通知ヲ要セス
- 第六條 漁業税ハ別記様式ノ納付書ニ收入印紙ヲ貼附シテ免許狀、許可狀又ハ鑑札ヲ交付シタル官廳ニ提出スヘシ
- 税法第三條第二項ノ納期ニ於テ納付スヘキ場合ニ於テハ所管財務署長ヨリ送付スル納入告知書ニ添附ノ納付書ニ收入印紙ヲ貼附シテ當該財務署ニ提出スヘシ
- 前二項ノ場合ニ於テハ納付者ハ印紙ノ彩紋ト納付書ノ紙面トニ互リ明白ニ印章ヲ捺スヘシ
- 第七條 漁業税ヲ滯納スル者ニ對シテハ財務官吏ハ國稅徵收法ニ依リ督促書ヲ發シ又ハ滯納處分ヲ爲スコトヲ得
- 第八條 府尹又ハ郡守ニ於テ申告漁業ノ鑑札ヲ交付スルトキハ之ト引換ニ第六條ノ納付書ヲ提出セシメ遲滞ナク所管財務署ニ送付スヘシ

附則

本令ハ漁業税法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

申告漁業ノ場 合業ノ場	漁業ノ種別	業者ノ數	稅	率	鑑札有效期間
	(第一)(二)(三)種 申告漁業)	(一)一艘ニ付 又ハ二人ニ付 五十錢	(隆熙何年何月何日ヨリ何年何月何日)		
免許及許可漁業ノ場 合業ノ場	漁業ノ種別	採捕物區劃水面數具ノ種類	稅	率	漁業期間
	(第一種免許漁業) (五千圓)	(捲網類)	(百圓ニ付一圓)	(隆熙何年何月何日ヨリ何年何月何日)	
	(第三種許可漁業)		(二)一漁業十二圓)		
漁業稅納付書					
一金何圓					
但隆熙何年分(隆熙何年ヨリ何年マテ何箇年分)					
右納付候也					
年月日					
度支部大臣閣下					
住所					
姓 名 印					
印紙 印紙 印紙					

備考 漁業ノ種別以下ノ各欄ハ免許狀、許可狀又ハ鑑札ノ交付ヲ爲ス官廳ニ於テ記入スルモ
ノトス

●家屋稅法、酒稅法、煙草稅法

四十二年二月
統告第十二號

韓國政府ハ隆熙三年二月十三日法律第二號ヲ以テ家屋稅法ヲ、同第三號ヲ以テ酒稅法ヲ、同第四號ヲ以テ煙草稅法ヲ公布セリ其ノ譯文左ノ如シ

家屋稅法

第一條 市街地ニ在ル家屋ヲ所有スル者ニハ本法ニ依リ家屋稅ヲ課ス

本法施行地域ニハ戶稅ヲ課セス

第一項市街地ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第二條 本法ニ於テ家屋ト稱スルハ永久使用ノ目的ヲ以テ築造セル建物ヲ謂フ

第三條 家屋稅ハ一構毎ニ左ノ等級、課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

等級 課稅標準及稅率

- 一等 三十間以上 甲種金八圓 乙種金五圓
 - 二等 十間以上 甲種金五圓 乙種金三圓
 - 三等 四間以上 甲種金三圓 乙種金二圓
 - 四等 四間未滿 甲種金二圓 乙種金一圓
- 甲種トハ石造、煉瓦造又ハ瓦葺ノ家屋ヲ謂ヒ乙種トハ甲種ニ屬セサル家屋ヲ謂フ
層上ノ間數ハ二間ヲ一問トシ計算ス
間ヲ以テ計算シ難キ構造ノ家屋ハ方六尺ヲ一問トシ計算ス
一間未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第四條 左ニ掲クル家屋ニハ家屋稅ヲ課セス

- 一 帝室有家屋

二 官有家屋

三道、郡、面、村、里、洞其ノ他公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル家屋但シ家賃ヲ收ムル家屋ハ此ノ限ニ在ラス

四 收利ヲ目的トセス直接祭祀、宗教、慈善、教育又ハ學藝ノ用ニ供スル家屋

第五條 家屋税ノ毎年四月現在家屋ニ依リ之ヲ賦課ス

第六條 家屋税ハ左ノ二期ニ分納スヘシ

第一期 五月三十一日限 税額二分ノ一

第二期 十一月三十日限 税額二分ノ一

第七條 左ノ場合ニ在リテハ家屋税ヲ減免スルコトヲ得但シ既納ノ税金ハ之ヲ還付セス

一 極貧ニシテ納税ノ資力ナシト認メタルトキ

二 家屋ノ全部又ハ一部滅失シタルトキ

第八條 財務官吏ハ家屋税ノ調査上必要アルトキハ納税義務者ト認ムル者ニ對シ訊問ヲ爲シ又ハ家屋内ニ臨檢スルコトヲ得

第九條 家屋ノ構造若ハ間數ヲ變更シ又ハ家屋ヲ新築、滅失シ若ハ讓受ケタルトキハ其ノ旨ヲ家屋所在地ヲ管轄スル財務署ニ申告スヘシ

第十條 前條ノ申告ヲ爲サス、虚偽ノ申告若ハ答辨ヲ爲シ又ハ財務官吏ノ職務執行ヲ拒ミ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ脱税シタル者ハ其ノ脱税金一時ニ徴收ス

附則

本法ハ隆熙三年分ヨリ之ヲ施行ス

市街地ニ家屋ヲ所有スル者ハ隆熙三年三月三十一日迄ニ家屋ノ所在、構造及間數ヲ一構毎ニ家屋所在地ヲ管轄スル財務署ニ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

酒税法

第一條 酒類ヲ製造スル者ニハ本法ニ依リ酒税ヲ課ス

第二條 本法ニ於テ酒類ト稱スルハ左ノ三類トス

第一類 釀成酒

清酒、藥酒、白酒、濁酒、過夏酒其ノ他釀造製成シタル酒類

第二類 蒸餾酒

燒酒其ノ他蒸餾製成シタル酒類

第三類 混成酒

釀成酒又ハ蒸餾酒ニ他物ヲ混和製成シタル酒類其ノ他釀成酒又ハ蒸餾酒ニ非サル酒精含有飲料

第三條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

前項ニ依リ免許ヲ與ヘタル者ニハ證票ヲ交付ス

第四條 酒類製造者ハ製造場見易キ所ニ常ニ證票ヲ掲ケ置クヘシ

第五條 酒類製造者ハ毎年十一月末日迄ニ翌年ニ製造スヘキ酒類及造石數ヲ定メ製造場ヲ管轄スル財務署ニ申告スヘシ

第六條 酒税ハ酒類製造場一箇所毎ニ造石額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ毎年之ヲ納付スヘシ

第一類 釀成酒

五石迄 金一圓

十石迄 金二圓

二十石迄 金四圓

附錄

五十石迄

金十圓

百石迄

金二十圓

百石ヲ超過スルモノハ五十石迄ヲ増ス毎ニ金十圓ヲ加フ

第二類 蒸餾酒

一石迄

金一圓

二石迄

金二圓

五石迄

金五圓

十石迄

金十圓

二十石迄

金二十圓

五十石迄

金五十圓

五十石ヲ超過スルモノハ三十石迄ヲ増ス毎ニ金二十圓ヲ加フ

第三類 混成酒

二石迄

金六圓

五石迄

金十五圓

十石迄

金三十圓

二十石迄

金六十圓

五十石迄

金百五十圓

五十石ヲ超過スルモノハ三十石迄ヲ増ス毎ニ金九十圓ヲ加フ

第七條 酒税ノ納期ヲ左ノ二期トス

第一期 五月 税額二分ノ一

第二期 十一月 税額二分ノ一

第八條 證票ヲ受クル者ハ證票料金十錢ヲ納付スヘシ

證票ノ再交付ヲ受クルトキ亦同シ

第九條 財務官吏ハ酒類製造者又ハ酒類販賣者ノ所持ニ係ル酒類、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造又ハ販賣上必要ナル建築物、材料、器械其ノ他ノ物件ヲ検査シ、訊問ヲ爲シ又ハ逋税ノ虞アリト認めタルトキハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十條 第三條ノ免許ヲ受ケシテ酒類ヲ製造シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 酒類製造者カ其ノ製造石數ヲ詐ハリ其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ脱税シ若ハ脱税セムトシタルトキハ其ノ金額ノ二倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第十二條 前二條ニ該當スル者ニ對シテハ脱税ニ係ル税金ハ納期ニ拘ラス即時徴收スルコトヲ得

第十三條 酒類製造者財務官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ忌避スルカ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其ノ刑法大全ニ正條アルモノハ該規定ニ依ル

附則

本法ハ隆熙三年分ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ヨリ繼續シテ酒類ヲ製造スル者ハ本法公布ノ日ヨリ九十日以内ニ本法ニ依リ免許ヲ受クヘシ

煙草税法

第一條 煙草耕作者又ハ煙草販賣業者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ

其ノ耕作又ハ販賣業ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第一項ニ依リ免許ヲ與ヘタル者ニハ證票ヲ交付ス

第二條 煙草税ヲ分チ煙草耕作税及煙草販賣税ノ二種トス

第三條 煙草耕作税ハ左ノ種別ニ從ヒ煙草耕作者ヨリ之ヲ徴收ス

第一種耕作(植付根數九百以下ノモノ)一箇年金五十錢

附錄

第二種耕作(植付根數九百ヲ超過スルモノ)一箇年金二圓
第四條 煙草販賣稅ハ左ノ種別ニ從ヒ煙草販賣業者ヨリ之ヲ徵收ス

第一種販賣(卸賣スル者)一箇年金十圓

第二種販賣(小賣スル者)一箇年金二圓

第五條 煙草稅ハ毎年左ノ納期ニ徵收ス

一 煙草耕作稅 十一月

一 煙草販賣稅 一月

第六條 證票ヲ受クル者ハ證票料金十錢ヲ納付スヘシ

證票ノ再交付ヲ受クルトキ亦同シ

第七條 證票ハ店前其ノ他見易キ所ニ常ニ掲ケ置クヘシ

第八條 財務官吏ハ煙草耕作地又ハ煙草販賣業者ノ店舗ニ入り訊問又ハ檢査ヲ爲スコトヲ得

第九條 免許ヲ受ケスシテ煙草ヲ耕作シ又ハ煙草ノ販賣ヲ爲シタル者ハ一圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 煙草耕作者又ハ煙草販賣業者第三條又ハ第四條ノ種別ヲ詐ハリ其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ脫稅シ若ハ

脫稅セムトシタルトキハ其ノ金額ノ二倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第十一條 前二條ニ該當スル者ニ對シテハ脫稅ニ係ル稅金ハ納期ニ拘ラス即時徵收スルコトヲ得

第十二條 煙草耕作者又ハ煙草販賣業者財務官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ二圓以上

二十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其ノ刑法大全ニ正條アルモノハ該規定ニ依ル

附則

本法ハ隆熙三年分ヨリ之ヲ施行ス但シ隆熙三年分煙草販賣稅ハ免許ノ際之ヲ徵收ス

本法施行前ヨリ繼續シテ煙草ヲ耕作シ又ハ販賣業ヲ營ム者ハ本法公布ノ日ヨリ九十日以内ニ本法ニ依リ免許ヲ受クヘシ

●家屋稅法施行細則、酒稅法施行細則、煙草稅法施行細則

四十二年二月 改正 四二一年
統告第十三號 統告一三三號

韓國政府ハ隆熙三年二月十八日度支部令第二號ヲ以テ家屋稅法施行細則ヲ、同令第三號ヲ以テ酒稅法施行細則ヲ、同令第四號ヲ以テ煙草稅法施行細則ヲ公布セリ其ノ譯文左ノ如シ

家屋稅法施行細則

第一條 家屋稅法第九條ニ依リ申告ヲ爲スヘキ者ハ家屋ノ所在、構造、間數及變更滅失シタル事由ヲ記載シタル申告書ヲ即時所轄財務署ニ提出スヘシ但シ讓受ノ場合ニ在リテハ讓渡人ノ住所、姓名及權利移轉ノ事由ヲ附記スヘシ

第二條 家屋稅法第七條ニ依リ家屋稅ノ減免ヲ得ムトスル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ所轄財務署ニ提出スヘシ

附則

本令ハ家屋稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

酒稅法施行細則

第一條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ其ノ住所、姓名、製造場ノ位置及製造スル酒類ノ種類ヲ記載シタル免許申請書ヲ所轄財務署ニ提出スヘシ其ノ免許ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第二條 財務署長ハ酒類製造免許申請者ニシテ納稅ノ資力ナシト認メタルトキハ免許ヲ與ヘサルコトヲ得但シ相當ノ保證人又ハ擔保物ヲ提供シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 酒類製造ノ免許ヲ與ヘタルトキハ第一號書式ノ證票ヲ交付ス

第四條 酒稅法第五條ニ依ル申告書ニハ酒類ノ製造方法及製造期間ヲ併記スルコトヲ要ス

新ニ酒類ヲ製造セムトスル者ハ免許申請書ト共ニ酒類ノ造石數、酒類ノ製造方法及製造スル期間ヲ申告ス

ルコトヲ要ス

第五條 酒類製造者廢業セムトスルトキハ所轄財務署ニ免許ノ取消ヲ請求シ同時ニ證票ヲ返納スヘシ

第六條 證票ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ遲滞ナク之カ再交付ヲ所轄財務署ニ請求スヘシ

附則

第七條 酒税法附則第二項ニ依リ免許ヲ受ケムトスル者ハ免許申請ト同時ニ隆熙三年ニ製造スヘキ酒類、製造ノ方法及期間並造石數ヲ申告スヘシ

第八條 本令ハ酒税法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號様式

六寸

第 號	
一 製造者住所姓名	
二 製造場位置	
三 酒類ノ種類	
右免許ス	
年 月 日	
何財務署 署印	

煙草税法施行細則

第一條 煙草ヲ耕作スルカ又ハ煙草販賣業ヲ營マムトスル者ハ其ノ住所、姓名及煙草税法第三條又ハ第四條ノ種類ヲ記載シタル免許申請書ヲ所轄財務署ニ提出スヘシ免許ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第二條 前條ニ依リ免許ヲ與フルトキハ煙草耕作者ニハ第一號書式、煙草販賣業者中一定ノ店舗ニ於テ煙草

ヲ販賣スル者ニハ第二號書式ニ依リ一定ノ店舗ヲ有セス煙草ヲ行商スル者ニハ第三號書式ニ依リ免許證票ヲ交付ス

第三條 煙草ヲ耕作スルカ又ハ煙草販賣業ヲ營マムトスル者ハ免許申請書ト共ニ耕作場又ハ販賣場ノ位置及植付煙草ノ根數ヲ申告スヘシ其ノ申告シタル事項ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク申告スルヲ要ス

第四條 煙草耕作者又ハ煙草販賣業者ニシテ其ノ耕作又ハ販賣業ヲ廢止セムトスルトキハ所轄財務署ニ免許ノ取消ヲ請求シ同時ニ證票ヲ返納スヘシ

第五條 證票ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ遲滞ナク之カ再交付ヲ所轄財務署ニ請求スヘシ

第六條 煙草耕作者ハ其ノ耕作地一箇所毎ニ耕作者ノ住所、姓名及耕作ノ種類ヲ記シタル標木ヲ建ツヘシ

附則

本令ハ煙草税法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

六寸

第 號	
一 耕作ノ種類	
一 耕作者ノ住所姓名	
右免許ス	
年 月 日	
何財務署 署印	

附錄

六寸

四寸

第三號書式

(厚紙)	第 號
	一 販賣ノ種別 一 販賣者ノ住所姓名 右免許ス
年 月 日	
何財務署 署印	

(厚紙)	第 號
	煙草行商準牌 一 行商者住所姓名
年 月 日	
何財務署 署印	

三寸

二寸

●家屋稅法ニ依ル市街地指定

四十二年四月
統告第三十一號

韓國政府ハ隆熙三年三月三十一日勅令第四十三號ヲ以テ家屋稅法ニ依リ市街地指定ニ關スル件ヲ公布セリ其ノ譯文左ノ如シ

京畿道

- 漢城府 府內
- 水原郡 邑內、晴湖面內烏山洞、南部面內山樓洞
- 果川郡 郡內面、北部面
- 安城郡 東里面、西里面
- 金浦郡 郡內面
- 陽川郡 郡內面
- 南陽郡 陰德里面
- 通津郡 郡內面
- 開城郡 東部面、西部面、南部面、北部面
- 喬桐郡 東面
- 朔寧郡 郡內面
- 江華郡 府內面
- 高陽郡 神穴面內舊把撥里
- 驪州郡 州內面
- 利川郡 邑面
- 楊平郡 南終面內分院洞

忠清南道

- 廣州郡 城內面
- 始興郡 下北面內永登浦里
- 長湍郡 長西面內、皐浪浦里
- 仁川府 府內面、多所面
- 洪州郡 邑內
- 結城郡 邑內
- 沔川郡 邑內
- 唐津郡 邑內
- 牙山郡 邑內
- 溫陽郡 邑內
- 新昌郡 邑內
- 天安郡 邑內
- 木川郡 邑內
- 恩津郡 邑內、金浦面江景、花枝山面論山
- 魯城郡 邑內
- 稷山郡 邑內
- 平澤郡 邑內

附錄

懷德郡 邑內、山內面、外城面內大田
 公州郡 邑內
 藍浦郡 邑內
 保寧郡 邑內
 鰲川郡 邑內
 瑞山郡 邑內
 泰安郡 邑內
 鴻山郡 邑內
 德山郡 邑內
 海美郡 邑內
 禮山郡 邑內
 大興郡 邑內
 全義郡 邑內
 燕岐郡 邑內、北一面砧山
 舒川郡 邑內
 庇仁郡 邑內
 定山郡 邑內
 青陽郡 邑內
 石城郡 邑內
 扶餘郡 邑內
 韓山郡 邑內

林川郡 邑內
 連山郡 邑內
 鎮岑郡 邑內
 忠清北道
 槐山郡 邑內
 延豐郡 邑內
 清州郡 邑內、西江外一下面鳥致院
 文義郡 邑內
 沃川郡 邑內
 堤川郡 邑內
 丹陽郡 邑內
 永春郡 邑內
 報恩郡 邑內
 青山郡 邑內
 懷仁郡 邑內
 陰城郡 邑內
 忠州郡 邑內
 清風郡 邑內
 鎮川郡 邑內
 清安郡 邑內
 永同郡 邑內

黃澗郡 邑內

全羅南道

光州郡

城南面內南內、西內、北內、射丁、孤村、
 不動坊面內瑞南、方樹、浩然、錦溪、湫
 作、西外、奇禮坊面內城底、後里、柿里、
 普通、中村、陋巷、公須坊面內上村、下
 村、瑞陽面內考竹、屏洞、毛弄、中洞、泥
 洞、大街、溪洞、峙洞、官前

羅州郡

東部面內果院里、幪廳里、右邊洞、左邊
 洞、南山洞、古洞、倉洞、立石里、內部里、
 竹林里、月大洞、紙砧里、鶴橋里、西部面
 內州司里、朴丁洞、北門洞、明堂洞、西門
 里、錦溪里、川邊洞、長洞、永村里、校村
 里

長城郡

邑西面內上草里、中草里、下草里、上豐
 里內、三中豐里、三豐里、壽山里、太山
 里、邑東面、內福山里
 那始面內校里、洞里、西內、南內、東內、
 東外、南外

靈岩郡

郡內面內東門里、庫內里、蓮池洞、塔洞
 里、西門里、新城里、博洞里、三仁里、南

附錄

西里、堂山里、內廂里、丁杖里、東列里、
 路上里、孝節里、南東里
 長興郡 郡內面內客洞里、東洞里、北洞里、上岐
 里、下岐里、南海里
 海南郡 郡一面內西外、南外、右道里、川邊里、東
 外里、海村、新校、舊校、門內面內南上、
 南下、西上、西下、東外、東內、南外、西
 外、船頭
 順天郡 蘇安面內西內里、南內里、東內里、北內
 里、東外里、稠谷里、清水里、橋內里、牛
 鳴里、梅谷里、長平面內豬田里、鯨內里、
 芝幕里、長泉里、長行里、長明里
 光陽郡 牛藏面內木果里、城內里、東海里、家目
 里、開城里、城隍里、城北里、新興里、枚
 村里、仁德面內新基里、南外里、七星面
 內星外里、星北里
 興陽郡 邑內面內院洞里、南溪里、幪洞、玉上、玉
 下、呂山、西門、泉谷、校村、杏亭
 元樂安郡 洛川面內邑內、東外里、西外里、南外
 里、平村里、南村里、玉山里、城北里、花
 元里

靈光郡

東部面內校村、東目、碑石、大巨、蓋井、栢山、古道、下東、宰現、下村、法聖浦內上里、中里、下里、內里、外里

咸平郡

郡東面內上朱里、西部里、下朱里、樓閣里、東部里、川邊里、郡西面內申己里、溪洞里、芋洞里、寺洞里、內大里、光交里

求禮郡

縣內面內寺洞、兒養洞、柿洞、舟岩里、北內洞、南內洞、東內洞、會洞、西內洞

同福郡

邑內面內獨上里、七田里、川邊里、西面內間里、樓門里、川邊里、外川邊里、馬內里、馬外里、東面內北右里、北內里、北外里、府中里、客內里、馬口里、紙砧里、淵洞里、得三里

潭陽郡

全羅北道

全州郡

府東面內一里、二里、三里、四里、五里、六里、府西面內一里、二里、三里、四里、五里、米庫、府南面內一里、二里、三里、四里、九石里、防川里、校洞、坤止里、隱松里、米石里、府北面內一里、二里、三里、四里、萬德面內一里、北二里、南二里、北三里、南三里、東四里、長興面內一里、二里、三

南原郡

地

泗川郡

河東郡

南海郡

宜寧郡

固城郡

務安府

濟州郡

陽洞、新昌洞、慈峙洞
中面內一徒里、二徒里、三徒里、健入里、龍潭里、拱北里、新左面內朝天里、新村里、咸德里、舊左面內金寧里、下道里、坪堡里、終建里、舊右面內頭毛里、高山里

機張郡

蔚山郡

咸陽郡

安義郡

靈山郡

昌寧郡

慶尙北道

大邱郡

邑內

附錄

九〇

里、四里、西四里、東五里、西五里、南教、西奉面內一里、二里

淳昌郡

左部面內玉川洞、銀杏亭、官北里、下前里、上前里、後里

錦山郡

郡一面內上館里、下館里、上衙仁里、下衙仁里、南衙仁里、東衙仁里、北衙仁里、西北衙里、北衙里、西衙仁里、西衙里、郡二面內上玉里、中玉里、下玉里、中館里、上里、中里、上二中里、二中里、中茶、下茶、上島、下島、中島、興村、東里、新島、東衙里

扶安郡

泰仁郡

乾先面內江東里、江西里、新基里、縣內面內一里、二里、三里、四里、五里、六里、七里、十里、十一里、雙喝里、旺林里、新基里

沃溝府

北面內大井洞、九福洞、開福洞、竹城里、新昌洞

礪山郡

北二面內月浦里

慶尙南道

晉州郡

邑內、文山面內一洞、二洞、三洞、一班城面內市場所在地、二班城面內市場所在地

漆谷郡

慶山郡

慈仁郡

永川郡

河陽郡

玄風郡

義城郡

慶州郡

邑內、江西面內市場所在地、西面內市場所在地

延日郡

北都面內浦項

新寧郡

興海郡

盈德郡

安東郡

禮安郡

尙州郡

醴泉郡

開慶郡

善山郡

星州郡

金山郡

邑內、北後面內瓮泉市場所在地
邑內、加西面內場基市場所在地
邑內
金泉面內市場所在地

仁同郡 邑内、若木面内停車場所在地
高靈郡 邑内
黃海道

海州郡 邑内
延安郡 東部面内一里、三三、下二里、上三三、下三三、西部面内一里、二里、南部面内一里、二里、三三、上四里、下四里

龍南郡 邑内
陝川郡 邑内
彥陽郡 邑内
咸安郡 邑内
昌原府 府内面内市場所在地、馬山浦、元熊川 邑

山淸郡 邑内
巨濟郡 邑内
金海郡 邑内
密陽郡 邑内、下東面内三浪里
梁山郡 邑内
東萊府 邑内、龜浦、草梁、釜山 邑内
康翎郡 邑内
平山郡 邑内

白川郡 洞、新興洞、後浦、碑石洞、龍井洞、億雨 邑内
東村面内上一里、外一里、上二里、下二里、東二里、外二里、三三、西村面内一里、二里、三三

載寧郡 邑内
信川郡 邑内
豐川郡 邑内面内一里
長淵郡 邑内
安岳郡 細洞面、板橋面内七里、八里、壽石面内 一里、二里、三三、四里

長連郡 邑内
般栗郡 邑内
瑞興郡 邑内
寧邊郡 邑内面内邑内里
熙川郡 邑内
雲山郡 北面内北鎮
秦川郡 東邑内面内邑市各洞里
定州郡 東部面内館洞、館前、西門洞、北門洞、西 部面内一里、二里

郭山郡 郡内面
博川郡 郡内面

附錄

金川郡 邑内
谷山郡 邑内面内邑内里
黃州郡 邑内
鳳山郡 邑内、沙院面内沙利院

江原道
春川郡 府内面
洪川郡 郡内面
原州郡 本部面
橫城郡 郡内面
金化郡 郡内面
伊川郡 東邑面、下邑面

鐵原郡 西邊面
襄陽郡 郡内面
杆城郡 郡内面
江陵郡 北二里面内城內、林塘前洞、林塘後洞南 一里面内南門洞、錦鶴前洞、錦鶴後洞 郡内面
金城郡 郡内面
平安南道
平壤郡 大興面、隆興面、外川面、内川面、平川 面、隆德面
三和府 舊邑内、東里面、西里面、元塘面内芝山

義州府 城內、城外東部、城外西部、光城面 邑内
鐵山郡 邑内
龍川府 楊下面内楊市 邑面

宣川郡 邑面
楚山郡 邑内
江界郡 邑内
咸鏡南道
安邊郡 邑内
德源府 元山港、元山里 邑内
永興郡 邑内
定平郡 邑内

咸興郡 邑内
洪原郡 邑内、西甫青面内執三三
北青郡 邑内、下甫青社內新昌里、南陽社內新浦 里
利原郡 南社內遮湖里 邑内
端川郡 邑内

江西郡 邑内
成川郡 邑内面
肅川郡 邑内

安州郡 城內
 永柔郡 邑內
 順川郡 郡內面
 中和郡 邑內
 平安北道
 咸鏡北道
 城津府 城津港、邑內

吉州郡 邑內
 明川郡 邑內
 鏡城郡 邑內
 富寧郡 清津港
 穩城郡 邑內
 鐘城郡 邑內、古邑面
 會寧郡 邑內

● 鑛業用器具機械ノ輸入税並銅及金銀銅鑛石ノ輸出税免除ニ關

スル件 四十二年八月
 統告第百二十七號

韓國政府ハ隆熙二年八月十九日法律第二十一號ヲ以テ鑛業用器具機械ノ輸入税並銅及金銀銅鑛石ノ輸出税免
 除ニ關スル件ヲ公布セリ其ノ譯文左ノ如シ

鑛業用器具機械ノ輸入税並銅及金銀銅鑛石ノ輸出税免除ニ關スル件

金(砂金ヲ含ム)、銀、銅ノ鑛業ニ必要ナル機械、器具、爆發藥及化學藥料ノ輸入税並銅及金銀銅鑛石ノ輸出税
 ハ其ノ鑛業者ノ輸出入ニ係ル場合ニ限り當分ノ間之ヲ免除ス但シ現ニ特許ヲ受ケタルモノニ付テハ其ノ特許ニ依ル
 前項ノ機械、器具、爆發藥及化學藥料ヲ輸入後他ノ目的ニ使用シタルトキハ輸入税ヲ追徵ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 清津港ヲ經テ問島及琿春地方ニ輸出入スル貨物ノ關稅免除ニ

關スル件 明治四十二年五月
 統告第百四十八號

咸鏡北道清津港ヲ經テ問島及琿春地方ニ輸出入スル貨物ノ關稅ハ之ヲ免除ス
 本法ノ施行ニ關スル細則ハ度支部大臣之ヲ定ム

● 問島及琿春地方免稅貨物取扱規程

四十二年十二月
 統告第百二十八號

韓國政府ハ隆熙三年十二月九日度支部令第三十二號ヲ以テ問島及琿春地方免稅貨物取扱規程ヲ公布セリ其ノ
 譯文左ノ如シ

問島及琿春地方免稅貨物取扱規程

- 第一條 問島若ハ琿春地方ヲ仕向地トシ清津ニ輸入スル貨物ニシテ隆熙三年五月法律第十九號ニ依リ免稅ノ
 取扱ヲ受ケムトスル者ハ輸入ノ際問島若ハ琿春地方ヲ仕向地トスル貨物タルコトヲ明記シタル輸入申告書
 ヲ清津稅關支署ニ提出シ免稅ヲ受クヘシ
- 第二條 前條ノ貨物ニ對シ稅關ニ於テ必要ト認メタル場合ニハ輸入税ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ
 ルヘシ
- 第三條 第一條ニ依リ免稅ヲ受ケタル貨物ノ輸入者ハ輸入免狀ニ記載セル通過地稅關監視署ニ就キ該貨物ヲ
 問島若ハ琿春地方ニ搬出シタル旨ノ證明ヲ受クヘシ
- 前項ノ證明ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク該證明書ヲ清津稅關支署ニ提出スヘシ
- 第四條 第一條ニ依リ貨物ヲ輸入シタル者輸入免稅ヲ受ケタル日ヨリ二箇月以内ニ前條ノ證明書ヲ清津稅關
 支署ニ提出セサルトキハ輸入税ヲ徵收スヘシ但シ擔保アル場合ハ該擔保ヲ以テ輸入税ニ充當スヘシ
- 第五條 問島及琿春地方ヨリ清津港ヲ經テ輸出スル貨物ニシテ隆熙三年五月法律第十九號ニ依リ免稅ノ取扱
 ヲ受ケムトスル者ハ通過地ニ於ケル最初ノ稅關監視署ニ就キ該地方ヨリ輸出スル貨物タルコトノ證明ヲ受
 クヘシ

第六條 前條ノ證明書ハ該貨物輸出ノ際輸出申告書ニ添付シ清津稅關支署ニ提出スヘシ

附錄

附則

本令ハ隆熙四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●舊白銅貨幣公納使用ニ關スル件

四十二年五月
統告第四十六號

通用ヲ禁止シタル舊白銅貨幣ハ本年十二月三十一日迄公納ニ使用スルコトヲ得

附則

本令ハ隆熙三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●帝室債務ニ關スル件及宮内府所屬及慶善宮所屬財產ノ移屬及

帝室債務ノ整理ニ關スル件

四十一年八月
統告百二十一號

韓國政府ハ隆熙二年五月四日法律第九號ヲ以テ帝室債務ニ關スル件ヲ、同年六月二十九日勅令第三十九號ヲ以テ宮内府所管及慶善宮所屬財產ノ移屬及帝室債務ノ整理ニ關スル件ヲ公布セリ其ノ譯文左ノ如シ

帝室債務ニ關スル件

第一條 帝室債務ニ關シテハ開國五百四年法律第二號會計法第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第二條 前條ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル帝室債務ニ關シテモ亦之ヲ準用ス

第三條 本法施行前ニ生シタル帝室債務ニ付テハ隆熙二年九月三十日迄ニ債權者ハ宮内府大臣ニ請求スヘシ但シ其ノ請求スヘキ期限未タ到來セサルモノニ在リテハ其ノ事由ヲ申告スヘシ
前項ノ期限内ニ請求又ハ申告ナキトキハ債權ハ其ノ效力ヲ失フ

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

宮内府所管及慶善宮所屬財產ノ移屬及帝室債務ノ整理ニ關スル件

第一條 宮内府所管及慶善宮所屬ノ不動產ハ之ヲ國ニ移屬ス但シ宮殿、太廟ノ基址及本朝ノ陵、園、墓ノ内
該字内ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 漁磯、淤稅其ノ他宮内府ニ於テ從來徵收スル諸稅ハ之ヲ國ニ移屬ス

第三條 帝室債務ノ整理ニ關スル事務ハ度支部大臣之ヲ掌理ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●韓國銀行條例

四十二年七月
統告第七十號

韓國銀行條例

第一章 總則

第一條 韓國銀行ハ株式會社トシ其ノ本店ヲ京城ニ置ク

第二條 韓國銀行ハ政府ノ認可ヲ受ケ要地ニ支店代理店ヲ設立シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスボンデンス」ヲ
締結スルコトヲ得

政府ニ於テ支店代理店ヲ必要ナリトスルトキハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三條 韓國銀行ノ存立時期ハ設立登記ノ日ヨリ五十年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第四條 韓國銀行ノ資本金ハ一千萬圓トシ之ヲ十萬株ニ分チ一株ノ金額ヲ百圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ資
本金ヲ增加スルコトヲ得

第五條 韓國銀行ノ株式ハ總テ記名ト爲シ韓日兩國人ニ限リ所有スルコトヲ得

第六條 政府ハ韓國銀行ノ株式ノ内三萬株ヲ引受クヘシ

政府ハ前項ニ依リ引受ケタル韓國銀行ノ株式ヲ離權スルコトヲ得ス

第七條 本條例ニ規定スルモノノ外日本國株式會社ニ關スル規定ヲ準用ス

附錄

第二章 重役

第八條 韓國銀行ニ總裁一人、理事三人以上、監事二人以上ヲ置ク

第九條 總裁ハ韓國銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

總裁事故アルトキハ理事ノ一人其ノ職務ヲ代理シ總裁副員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

理事ハ總裁ヲ補佐シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ韓國銀行ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ韓國銀行ノ業務ヲ監査ス

第十條 總裁ハ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ選舉シタル二倍ノ候補者中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ三年トス

監事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二年トス
第十一條 總裁及理事ハ何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 株主總會

第十二條 通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ總裁之ヲ召集ス

第十三條 臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲何時ニテモ總裁之ヲ召集スルコトヲ得

第十四條 監事ノ全員又ハ總株金ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主總會ノ召集ヲ總裁ニ請求スルコトヲ得

總裁前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ臨時株主總會ヲ召集スヘシ

第十五條 株主總會ニ於ケル株主ノ議決權ハ其ノ所有株數一株ニ付一箇トス但シ十一株以上ハ十株ヲ増ス毎ニ一箇ヲ加フ

第十六條 株主總會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得ス但シ法定代理人ハ此

ノ限ニ在ラス

第十七條 定款ノ變更ハ總資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第四章 營業

第十八條 韓國銀行ハ左ノ業務ヲ營ムモノトス

第一 爲替手形其ノ他商業手形ノ割引

第二 平常取引スル諸會社銀行又ハ商人ノ爲手形金ノ取立

第三 爲替及荷爲替

第四 確實ナル擔保アル貸付

第五 諸預リ金及當座貸越勘定

第六 金銀貨貴金屬及諸證券ノ保護預リ

第七 地金銀ノ賣買及貨幣ノ交換

公共團體ニ對シ政府ノ認可ヲ受ケ無擔保貸付ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ外營業ノ都合ニ依リ國債證券、地方債券其ノ他政府ノ指定スル確實ナル有價證券ヲ買入ルルコトヲ得

韓國銀行ハ政府ノ認可ヲ受ケ他銀行ノ業務代理ヲ爲スコトヲ得

第十九條 韓國銀行ハ營業ノ爲必要ナル物件ヲ買入レ又ハ債務辨濟ノ爲引受ケタル物件ヲ所有スルノ外動産及不動産ヲ買取ルコトヲ得ス

第二十條 韓國銀行ハ國庫金ヲ預リ其ノ出納ニ關スル事務ヲ無償ニテ取扱フ義務アルモノトス

政府ハ韓國銀行ヲシテ貨幣整理事務及國債元利金ノ出納ニ關スル事務ヲ取扱ハシムヘシ

第二十一條 韓國銀行ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ政府ノ命令ニ基ク場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五章 銀行券

第二十二條 韓國銀行ハ銀行券ヲ發行スルコトヲ得但シ銀行券ノ様式及種類ニ關シテハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ銀行券ハ韓國銀行本店及支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ金貨若ハ日本銀行兌換券ト引換フルモノトス但シ支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其ノ引換ヲ延期スルコトヲ得

第二十三條 韓國銀行ハ銀行券發行高ニ對シ同額ノ金貨地金銀及日本銀行兌換券ヲ置キ其ノ仕拂準備ニ充ツヘシ但シ銀地金ハ仕拂準備總額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

前項準備ニ依ルノ外韓國銀行ハ特ニ二千萬圓ヲ限リ國債證券其ノ他確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシテ銀行券ヲ發行スルコトヲ得

市場ノ狀況ニ由リ前二項ノ外更ニ銀行券ノ發行ヲ必要トスルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ國債證券其ノ他確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシテ之ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ノ命スル所ニ依リ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ

第二十四條 韓國銀行ヨリ發行スル銀行券ハ公私ノ取引ニ無制限ニ通用スルモノトス

第二十五條 韓國銀行ハ銀行券ノ發行額及仕拂準備ニ關スル毎週平均高表ヲ官報ニ公告スヘシ

第二十六條 銀行券ノ製造發行損券引換及銷却等ノ手續ハ別ニ之ヲ定ム

第二十七條 銀行券ノ偽造變造ニ係ル罪ハ刑法偽造紙幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第六章 準備金及納付金

第二十八條 韓國銀行ハ每營業年度準備金トシテ資本ノ闕損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第二十九條 株主ヘノ利益配當額拂込資本ニ對シ年百分ノ十二ヲ超過スルトキハ韓國銀行ハ該超過額ノ二分ノ一ヲ政府ニ納付スヘシ

第七章 政府ノ監督及補助

第三十條 政府ハ韓國銀行ノ業務ヲ監督ス

第三十一條 韓國銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三十二條 韓國銀行ハ株主ニ配當金ヲ分配セムトスルトキハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 政府ハ必要ナリト認ムルトキハ銀行券ノ種類發行高貸付割引ノ金額及方法又ハ其ノ利子歩合爲替料及正貨準備若ハ保證準備ニ關シ制限ヲ付スルコトヲ得

第三十四條 政府ハ韓國銀行ノ營業上本條例定款又ハ監督上政府ノ發シタル命令ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事項アリト認ムルトキハ之ヲ制止シ尙情狀ニ依リ役員ヲ解職スルコトヲ得

第三十五條 韓國銀行ハ政府ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第三十六條 政府ハ特ニ韓國銀行監督官ヲ置キ韓國銀行ノ業務ヲ監視セシム

第三十七條 韓國銀行監督官ハ何時ニテモ韓國銀行ノ金庫帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

韓國銀行監督官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ韓國銀行ニ命シ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

韓國銀行監督官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第三十八條 韓國銀行ノ利益配當金ニシテ政府持株以外ノ株式ニ對シ每營業年度ニ於テ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄ハ政府持株ニ配當ヲ爲スコトヲ要セス

第三十九條 韓國銀行ノ利益配當金ニシテ政府持株以下ノ株式ニ對シ每營業年度ニ於テ年百分ノ六ノ割合ニ達セサルトキハ政府ハ創立初期ノ末日ヨリ五年間ヲ限リ之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ

第四十條 政府ハ韓國銀行創立ノ際其ノ營業費ヲ補助スル爲百二十萬圓ヲ限リ無利子ニテ貸下クヘシ前項貸下金ハ貸下ノ日ヨリ五年間据置キ以後十年賦ニテ償還セシムルモノトス

第八章 罰則

- 第四十一條 韓國銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ總裁若ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル理事ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス其ノ事犯ニシテ理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ
- 一 第二十一條ノ規定ニ反シ本條例ニ記載ナキ又ハ政府ノ命令ニ基カサル業務ヲ營ミタルトキ
- 二 第二十三條ノ規定ニ反シ銀行券ヲ發行シタルトキ
- 三 第二十八條ノ規定ニ反シ準備金ヲ積立テサルトキ
- 四 本條例ニ依リ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ其ノ認可ヲ受ケサルトキ
- 第四十二條 前條ノ過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス其ノ命令ニ對シテハ十四日以内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

附則

- 第四十三條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第四十四條 韓國銀行ノ設立ニ關スル一切ノ事務ハ之ヲ日本政府ニ委託ス
- 第四十五條 第十五條第十六條及第十七條ノ規定ハ之ヲ創立總會ニ準用ス
- 第四十六條 創立初度ノ理事及監事ハ任期ヲ除ク外第十條ノ條件ニ拘ラス政府之ヲ命ス
- 第四十七條 韓國銀行ハ政府ノ定ムル所ニ從ヒ株式會社第一銀行ノ權利義務ヲ承繼スルモノトス
- 第四十八條 前條承繼前株式會社第一銀行ノ發行シタル銀行券ハ韓國銀行ニ於テ發行シタルモノト看做ス
- 第四十九條 第四十七條ニ依ル承繼ト同時ニ韓國銀行ハ政府ノ定ムル所ニ從ヒ承繼ノ日ニ於ケル保證準備ニ相當スル金額ヲ限り無利子二十年賦償還ヲ以テ株式會社第一銀行ニ貸付クヘシ

第三章 農商工部主管事項

鑛業法

三十九年七月 統告第六十七號

改正

四〇年統告一〇四號、四一年統告六九號、四一年統告一〇八號

明治三十九年七月十二日韓國政府ニ於テ公布シタル鑛業法譯文左ノ如シ

鑛業法

- 第一條 鑛業トハ鑛物ノ採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ
- 鑛物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第二條 未タ採掘セサル鑛物、廢鑛及鑛滓ハ國ノ所有トス
- 第三條 鑛業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ採掘セントスル鑛物ノ種類ヲ明記シ鑛區圖ヲ添ヘ農商工部大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 鑛業出願人ハ出願地ニ其ノ採掘セントスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ
- 第四條 鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ面積ハ石炭ニ在リテハ五萬坪以上其ノ他ノ鑛物ニ在リテハ五千坪以上トシ共ニ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス但シ鑛利保護上又ハ鑛區ノ分合上已ムヲ得サル場合ニハ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得
- 第五條 皇城及離宮ノ周圍三百間以内又ハ皇陵園墓ノ火巢以内ノ場所ハ鑛區ト爲スコトヲ得ス又所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 陸海軍所轄ノ城堡、要港、火藥庫及各官廳ノ周圍三百間以内ノ場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鑛區ト爲シ又ハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第六條 鐵道、軌道、道路、運河、河湖、沼池、堤塘、社寺境内地、公園地、墳墓及建物ヨリ地表地下トモ其ノ周圍五十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳ノ許可又ハ所有者若ハ關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鑛物ヲ採掘シ又ハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾ヲ拒ミタルトキハ鑛業權者ハ農商工部大臣ノ判定ヲ請求スルコトヲ得
- 第七條 農商工部大臣ハ公益上其ノ他ノ事由ニ依リ必要アリト認ムルトキハ鑛業ヲ許可セズ
- 第八條 鑛業ヲ出願スル者同一ノ地ニ就キ二人以上アルトキハ願書到達ノ日ノ先ナル者ニ之ヲ許可ス同日ニ

到達シタルモノニ付テハ農商工部大臣ニ於テ適當ト認ムル者ニ之ヲ許可ス

第九條 鑛業權者鑛區ノ合併分割又ハ訂正ヲ爲サントスルトキハ農商工部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

鑛區ノ位地形狀鑛利ヲ害スル場合ニハ農商工部大臣ハ其ノ訂正ヲ命スヘシ

第十條 鑛業權ハ相續、讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ得

鑛業權ノ讓渡及其ノ抵當權ノ設定ハ農商工部ノ登錄ヲ經ルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十一條 相當ノ鑛業ヲ爲サス又ハ危險ノ虞アリ若ハ公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ農商工部大臣ハ其ノ改良若ハ豫防ヲ命シ又ハ鑛業ノ停止ヲ命スヘシ

第十二條 農商工部大臣ハ左ノ場合ニ於テ鑛業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

一 詐偽又ハ錯誤ニ依リ許可ヲ與ヘタルコトヲ發見シタルトキ

二 正當ノ理由ナクシテ一箇年以上休業シ又ハ許可ヲ得タル日ヨリ一箇年以内ニ事業ニ著手セサルトキ

三 (削除)

四 鑛業公益ヲ害スト認ムルトキ

五 (削除)

六 納税期限内ニ鑛産税又ハ鑛區税ヲ納付セサルトキ

七 (削除)

八 指定シタル期限内ニ罰金ヲ納付セサルトキ

第十三條 鑛業ノ許可ヲ取消サレ又ハ鑛業權消滅シ又ハ廢業シタルトキ農商工部大臣ニ於テ地表又ハ坑内ノ安全ヲ保ツ爲必要ト認ムル構造物ハ之ヲ除去スルコトヲ得ス

第十四條 鑛業出願又ハ鑛業ノ爲他人ノ土地ニ立入り測量又ハ調査ヲ必要トスル者ハ農商工部大臣ニ其ノ認

可ヲ請求スルコトヲ得

認可書ヲ携帶スル者ニ對シテハ其ノ土地所有者又ハ關係人之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ測量若ハ調査ノ爲ニ損

害ヲ及ホシタルトキハ請求者ハ其ノ賠償ヲ爲スヘシ

第十五條 鑛業權者鑛業上ノ必要アルトキハ土地所有者又ハ關係人ニ土地ノ貸渡ヲ強要スルコトヲ得但シ毎

年借地料ヲ前拂スルニ非サレハ其ノ土地ヲ使用スルコトヲ得ス

土地ノ使用ノ爲ニ所有者又ハ關係人ニ損害ヲ及ホシタルトキハ鑛業權者ハ其ノ賠償ヲ爲スヘシ

第十六條 鑛業權者ニ於テ貸渡ヲ受ケタル土地ヲ三箇年以上使用スルノ目的アルカ又ハ三箇年以上之ヲ使用

シタルトキハ土地使用者ハ鑛業權者ニ其ノ土地ノ買取ヲ強要スルコトヲ得

土地ノ一部ノ買取ニ依リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ

買取ヲ強要スルコトヲ得

第十七條 第十四條乃至第十六條ノ規定ニ依ル土地貸渡、借地料、土地買取、賣買價格又ハ損害賠償ニ付協

議調ハサルトキハ農商工部大臣ニ其ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

判定ニ要スル費用ノ負擔者及負擔額ハ農商工部大臣之ヲ定ム

第十八條 鑛業ニ關スル出願、請求又ハ届出ヲ爲ス者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ手数料ヲ納付スヘシ

第十九條 鑛業權者ハ鑛産税及鑛區税ヲ納付スヘシ

鑛産税ハ鑛産物ノ價格ノ百分ノ一トシ鑛區税ハ鑛區一千坪毎ニ一箇年五十錢トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ一

千坪ト看做ス

許可後滿一箇年間ニ係ル鑛區税ハ前項ノ金額ノ半額トス

第二十條 鑛産税ハ前年分ヲ毎年三月中ニ納付スヘシ但シ鑛業權ノ消滅若ハ讓渡ノ場合ニ於テハ即納スヘシ

鑛區税ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ但シ許可ノ年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ即納スヘシ

既納ノ鑛區税ハ之ヲ還付セス

第二十一條 (削除)

第二十二條 鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ採掘シタル者又ハ詐偽ノ所爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ五十圓以上

罰金ニ處スルコトヲ得

既納ノ鑛區税ハ之ヲ還付セス

第二十一條 (削除)

第二十二條 鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ採掘シタル者又ハ詐偽ノ所爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ五十圓以上

罰金ニ處スルコトヲ得

一千圓以下ノ罰金ニ處シ探掘シタル鑛物ハ之ヲ沒收ス既ニ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徵ス

第二十三條 第五條、第六條第一項及第十三條ノ規定ニ違背シタル者「第九條第二項及第十一條ノ命令ニ從ハサル者又ハ鑛業ニ供用スル土地ヲ其ノ目的外ニ利用シタル者」ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 前二條ノ處分ハ農商工部大臣之ヲ行フ

第二十五條 (削除)

第二十六條 本法ヲ施行スルニ必要ナル命令ハ農商工部大臣之ヲ定ム

第二十七條 第三條第一項第七條第十一條第十二條及第二十九條ノ處分ハ日本統監ノ同意ヲ經ルコトヲ要ス

第二十八條 本法發布前ニ許可ヲ受ケ現ニ鑛業ニ從事スル内國人ハ本法施行後二箇月以内ニ本法ニ依リ出願スヘシ

前項ノ出願ニ關シテハ事業ノ程度ニ依リ本法第八條ノ規定ニ拘ラス特ニ許可ヲ與フルコトアルヘシ

第二十九條 本法ノ規定ニ依ル處分ノ爲ニ本法發布前ニ現ニ鑛業ニ從事スル内國人ニ損害ヲ與フルト認ムルトキハ農商工部大臣ハ鑛業權者ヲシテ相當ノ補償ヲ爲サシムヘシ

第三十條 本法發布前ニ鑛業權ノ特許ヲ得現ニ鑛業ニ從事スル外國人ハ其ノ特許條件ニ抵觸スルモノヲ除外本法ノ規定ヲ遵守スヘシ

附則

第三十一條 本法ハ光武十年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條 本法ニ抵觸スル法令ハ總テ之ヲ廢止ス

鑛業法施行細則

三十九年七月 統計第七十三號

改正

四一年 統計一九號

改正

四九年 統計一〇九號

明治三十九年七月二十八日韓國政府ニ於テ公布シタル鑛業法施行細則譯文左ノ如シ

鑛業法施行細則

第一條 鑛物トハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、滿俺鑛、黑鉛、石炭、石油及硫黃ヲ謂フ但シ砂鑛ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 鑛業法及本令ニ規定セル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス 鑛業權者、土地所有者又ハ關係人カ鑛業法及本令ニ依リ爲シタル一切ノ行爲ハ其ノ承繼人ニ對シテモ効力ヲ有ス

第三條 鑛業ニ關スル願書、請求書、届書又ハ圖面ニ様式ノ定アルモノハ之ニ據ルヘシ

第四條 鑛業法第八條ノ願書ハ農商工部ニ到着シタル日ヲ以テ到達ノ日トス

第五條 手数料ノ納付ハ收入印紙ヲ以テスルコトヲ要ス但シ國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ代用スルコトヲ得

既納ノ手数料ハ還付セス

第六條 書面又ハ圖面不完備ナルトキハ農商工部大臣ハ其ノ修正又ハ補充ヲ命スヘシ

第七條 國內ニ住所ヲ有セサル鑛業出願人又ハ鑛業權者若ハ其ノ代理人ハ假住所ヲ國內ニ定メ農商工部大臣ニ届出ツヘシ

鑛業出願人又ハ鑛業權者若ハ其ノ代理人不在ニシテ且ツ之ニ代リ書類ヲ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達スヘキ書類ノ全文又ハ要旨ヲ三日間官報ニ掲載スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ掲載ヲ了リタル日ヨリ十四日ヲ經過スルトキハ書類ノ送達ヲ受ケタルモノト看做フ前項ノ届出ナキトキ亦同シ

第八條 鑛業ヲ爲サントスル者ハ其ノ願書ニ鑛區圖及探掘セントスル鑛床ニ關スル説明書ヲ添付スヘシ但シ鑛物ノ標品ヲ以テ説明書ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ願書到達ノ日ヨリ十日以内ニ到達スルヲ妨ケス

鑛業出願地ノ訂正ヲ爲サントスル者ハ其ノ願書ニ理由書並新舊出願地ノ關係ヲ明示セル圖面ヲ添付スヘシ

鑛區ノ合併、分割又ハ訂正ヲ爲サントスル者ハ其ノ願書ニ理由書並合併、分割又ハ訂正スヘキ區域ノ關係ヲ明示セル圖面及鑛業許可狀ヲ添付スヘシ但シ抵當權ノ設定アル場合ニ於テハ抵當權者ノ承諾書又ハ之ニ代ハルヘキ書面ヲ添付スヘシ

第九條 前條ノ願書ハ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

第十條 鑛業法第四條但書ニ依リ出願地又ハ鑛區ノ面積百萬坪ヲ超ユルトキハ願書ニ理由書ヲ添付スヘシ

第十一條 代理人ニ依リ出願スルトキハ委任狀又ハ其ノ他權限ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

第十二條 共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ農商工部大臣ニ届出ツヘシ其ノ届出ナキトキハ農商工部大臣之ヲ指定ス

第十三條 共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者カ代表者ニ依リテ鑛業出願ノ取下又ハ第八條第二項、第三項ノ請願及第二十二條ノ登録請求若ハ其ノ取下又ハ廢業ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ決議書又ハ之ニ代ハルヘキ書面ヲ添付スヘシ

第十四條 第八條ノ出願ヲ爲ス者ハ左ノ手数料ヲ納付スヘシ

一 鑛業ノ出願

百圓

二 鑛業出願地訂正願

増區又ハ増減區願

五十圓

減區願

二十圓

三 鑛區ノ合併、分割又ハ訂正願

増區又ハ増減區願

五十圓

合併若ハ分割願

四十圓

減區願

二十圓

第十五條 第八條ノ出願ニ係ル區域ノ位置、形狀鑛利ヲ害スト認ムルトキハ農商工部大臣ハ其ノ訂正ヲ命ス

ヘシ

第十六條 第八條ノ出願地カ他人ノ鑛區ニ接近スル場合ニ於テ鑛業監督上中間ニ相當ノ距離ヲ置クノ必要アリト認ムルトキハ農商工部大臣ハ出願地ノ訂正ヲ命スルコトヲ得

第十七條 鑛區内ニ異種ノ鑛物ノ存在ヲ發見シタルトキハ農商工部大臣ハ鑛業權者ニ對シ其ノ鑛業ノ出願ヲ命スルコトヲ得

第十八條 鑛業出願人又ハ鑛業權者農商工部大臣ヨリ圖面又ハ書類ノ差出ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日内ニ之ヲ差出スヘシ

鑛業出願人又ハ鑛業權者農商工部大臣ヨリ實地調査ノ爲立會ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日ニ立會スヘシ代理人ヲシテ立會セシムルトキハ委任狀又ハ其ノ他權限ヲ證スル書面ヲ携帶セシムヘシ

第十九條 農商工部大臣第八條ノ出願ヲ許可スヘキモノト決定シタルトキハ其ノ旨ヲ出願人ニ通知スヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ三十日以内ニ登録ヲ農商工部大臣ニ請求スヘシ前項ノ請求ヲ爲ス者ハ出願ノ種類ニ從ヒ第十四條第一號又ハ第三號ノ金額ト同一額ノ登録手数料ヲ納付スヘシ

出願人前項ノ手数料ヲ納付シタルトキハ農商工部大臣ハ鑛業許可狀ヲ下付シ又ハ其ノ訂正ヲ爲スヘシ

第二十條 左ノ場合ニ於テハ願書、請求書及届書ヲ受理セス

一 第八條及第二十二條ノ規定ニ違背シ願書或ハ請求書ニ圖面、説明書、理由書若ハ承諾書又ハ之ニ代ハルヘキ書面ヲ添付セス又ハ期限内ニ標品ヲ差出ササルトキ

二 第九條ノ規定ニ違背シ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ

三 第十條ノ規定ニ違背シ理由書ヲ添付セサルトキ

四 第十三條ノ規定ニ違背シ決議書又ハ之ニ代ハルヘキ書面ヲ添付セサルトキ

五 手数料ヲ納付セサルトキ

附 錄

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ願書、請求書及届書ヲ却下ス

一 實地調査ノ際出願人カ其ノ出願ニ係ル區域ヲ明示シ能ハサルカ又ハ調査事項ニ付相當ノ説明ヲ爲ス能ハサルトキ

二 出願人ノ指示スル區域カ願書ニ添付シタル圖面ト著シク相違スルトキ

三 第六條ノ規定ニ基ク命令ノ期限内ニ修正若ハ補充ヲ爲ササルトキ

四 第十五條ノ規定ニ基ク命令ノ期限内ニ訂正圖ヲ差出ササルトキ

五 第十六條ノ規定ニ基ク命令ノ期限内ニ訂正圖ヲ差出ササルトキ

六 第十八條第二項ノ規定ニ依ル命令ノ期日ニ立會セサルトキ

七 第十九條ニ規定シタル期限内ニ登録手数料ヲ納付セサルトキ

第二十二條 鑛業權ノ讓渡又ハ其ノ抵當權設定ノ登録ヲ請求セムトスル者ハ該登録請求書ニ鑛業許可狀ヲ添付スヘシ但シ抵當權ノ設定有リタル場合ニハ抵當權者ノ承諾書又ハ之ニ代用スル文書ヲ添付スヘシ

前項ノ登録ヲ請求スル者ハ手数料トシテ百圓ヲ納付スヘシ

第十九條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 鑛業權ヲ相續シタル者ハ鑛業許可狀ヲ添へ直ニ農商工部大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ爲ス者ハ登録手数料トシテ百圓ヲ納付スヘシ

第十九條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 鑛業ニ關シ左ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ種類ニ從ヒ手数料ヲ納付スヘシ

一 鑛業許可狀ノ再下付請求 每一件 二十圓

二 鑛區圖謄本ノ下付請求 每一件 三十圓

三 鑛業原簿又ハ鑛區圖ノ閱覽請求 每鑛區毎一時間 一圓

四 鑛業原簿ノ謄本下付請求 用紙毎一枚 二圓

五 鑛業出願地及許可地地方別臺帳閱覽請求

每臺帳最小區劃每一時間 十圓

第二十五條 鑛業權者ハ毎年一月七月ノ兩度ニ前六箇月間ニ採掘シタル鑛產物ノ數量販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ記載シタル明細表ヲ差出スヘシ

前項ノ表ハ鑛業權ノ消滅シ若ハ移轉シ又ハ廢業シタル場合ニ於テハ直ニ之ヲ差出スヘシ

第二十六條 鑛業法第十九條第二項ニ規定セル鑛產物ノ價格ハ農商工部大臣之ヲ定ム

第二十七條 鑛業權者ハ毎年末ニ於テ坑内實測圖ヲ製シ翌年二月迄ニ農商工部大臣ニ差出スヘシ

第二十八條 鑛業權者ハ鑛區所在地ニ鑛業事務所ヲ設ケ鑛區圖及坑内實測圖ヲ備置クヘシ

第二十九條 鑛業權者自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ代理人ヲ定メ雙方連署シテ農商工部大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ代理人ハ鑛業法及本令ノ規定ニ依リテ鑛業ノ管理ニ關シ鑛業權者ノ爲スヘキ一切ノ行爲ヲ委任セラレタルモノト看做ス但シ鑛業權者ハ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第三十條 鑛業法第十二條第一號及第四號ノ場合ノ外鑛業權ヲ取消サレ又ハ廢業シタルトキ其ノ鑛業權ニ對シ抵當權ヲ有スル者ハ六十日以内ニ農商工部大臣ニ出願シテ其ノ鑛業權ヲ承繼スルコトヲ得

前項ノ出願人ハ手数料トシテ百圓ヲ納付スヘシ

第十九條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 廢業其ノ他ノ事由ニ依リ鑛業權消滅シタルトキハ鑛業權者ハ直ニ農商工部大臣ニ其ノ旨ヲ届出テ鑛業許可狀ヲ返納スヘシ

第三十二條 鑛業法第十四條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ調査ヲ爲サントスル者ハ土地ノ名稱、地目及其ノ目的ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ

前項ノ請求ヲ爲ス者ハ手数料トシテ三十圓ヲ納付スヘシ

第三十三條 鑛業法第六條第二項及第十七條ノ規定ニ依リ農商工部大臣ノ判定ヲ請求スル者ハ其ノ理由ヲ明

記シタル請求書ニ詳細ノ實測圖其ノ他關係書類ヲ添付スヘシ
農商工部大臣ノ判定ヲ請求スル者ハ手数料トシテ五十圓ヲ納付スヘシ
農商工部大臣第一項ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ對手人ニ通告シ相當ノ期日ヲ定メテ辯明書ヲ差出サ
シムヘシ

對手人住所不分明ニシテ通告スルコト能ハサルトキハ通告ノ要旨ヲ三日間官報ニ掲載シ之ヲ了リタル日ヨ
リ十四日ヲ經過スルトキハ通告アリタルモノト看做ス
對手人辯明書ヲ差出ササルトキハ農商工部大臣ハ請求書ノミニ依リ判定スルコトヲ得
本條判定ノ爲實地調査ヲ要スルトキハ農商工部大臣ハ其ノ實費以內ノ負擔ヲ請求人又ハ對手人ニ命スルコ
トヲ得

判定書ニハ理由ヲ附シテ之ヲ請求人及對手人ニ交付スヘシ

第三十四條 第十八條、第二十二條第二項、第二十五條、第二十七條、第二十八條、第二十九條第一項、第三
十一條ノ規定ニ違背シタル鑛業權者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ處分ハ農商工部大臣之ヲ行フ

附則

第三十五條 本令ハ鑛業法施行ノ日ヨリ施行ス

●鑛業法施行細則樣式

三十九年八月 改正 四一年四月
統計第八二號 統計二〇號 統計一〇九號

明治三十九年八月十一日韓國政府ニ於テ公布シタル鑛業法施行細則樣式譯文左ノ如シ

鑛業法施行細則樣式

樣式第一號

何鑛業許可願(二通)

何道府郡何面何洞

面積 何 坪

年 月 日

右箇所ニ於テ何鑛採掘御許可被成下度鑛區圖並鑛床説明書(又ハ鑛物標品)相添此段願上候也

國籍

住所(何道府郡何面何洞何戶等)
府縣郡市町村番地

出願人 氏

名 剛

農商工部大臣

殿

印紙入	印紙入	印紙入	印紙入
-----	-----	-----	-----

(注意)

- 一 圖面五葉ヲ添付スヘシ
- 一 收入印紙ハ鑛業法施行細則第十四條第一號ニ規定セル額ヲ貼付スルヲ要ス國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ手数料ヲ納付セントスル者ハ農商工部大臣ヲ受取人トシテ其ノ證書ヲ封入スヘシ
- 一 出願人カ會社ナルトキハ登記謄本又ハ之ニ代ハルヘキ書面ヲ添付スヘシ
- 一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
- 一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

様式第二號

印紙入	印紙入	印紙入	印紙入
-----	-----	-----	-----

何鐵鑛業出願地訂正願(二通)

何年何月何日出願

何道何府何面何洞 何鐵鑛業出願地 何坪

増區 何道何府何面何洞

面積 何坪

減區 何道何府何面何洞

面積 何坪

合計又ハ差引 何坪

右鐵鑛業出願地訂正御許可被成下度圖面並理由書和添此段願上候也
年 月 日

國籍

住所 (何道何府何面何洞何戸
府縣郡市町村番地等)

出願人 氏

名 圖

農商工部大臣 殿

殿

名 圖

(注意)

- 一 圖面五葉ヲ添付スヘシ
- 一 收入印紙ハ鐵鑛業法施行細則第十四條第二號ニ規定セル額ヲ貼付スルヲ要ス 國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ手数料ヲ納付セントスルモノハ農商工部大臣ヲ受取人トシテ其證書ヲ封入スヘシ
- 一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
- 一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

様式第三號

印紙入	印紙入	印紙入	印紙入
-----	-----	-----	-----

何鐵鑛區訂正願(二通)

許可第 號

原鐵鑛區 何道何府何面何洞 何鐵鑛區何坪

増區 何道何府何面何洞

面積 何坪

減區 何道何府何面何洞

面積 何坪

合計又ハ差引 何坪

右鐵鑛區訂正御許可被成下度圖面、理由書及鐵鑛業許可狀相添此段願上候也
年 月 日

國籍

住所 (何道何府何面何洞何戸
府縣郡市町村番地等)

鐵鑛業者 氏

名 圖

農商工部大臣 殿

殿

(注意)

- 一 圖面五葉ヲ添付スヘシ
- 一 收入印紙ハ鐵鑛業法施行細則第十四條第三號ニ規定セル額ヲ貼付スルヲ要ス 國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ手数料ヲ納付セントスルモノハ農商工部大臣ヲ受取人トシテ其ノ證書ヲ封入スヘシ
- 一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
- 一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

附 錄

様式第四號

印紙入	印紙入	印紙入	印紙入
-----	-----	-----	-----

何鐵鑛區合併願(二通)

一許可第 號

何道何府何面何洞 何鐵鑛區 何坪

一許可第 號

何道何府何面何洞 何鐵鑛區 何坪

合計 何坪

右鐵鑛區合併御許可被成下度圖面、理由書及鑛業許可狀相添此段願上候也

年 月 日

國籍

住 所

(何道何府何面何洞何戶等)
府縣郡市町村番地等
鑛業權者 氏

名 印

農商工部大臣 殿

(注意)

- 一 圖面五葉ヲ添付スヘシ
- 一 收入印紙ハ鑛業法施行細則第十四條第三號ニ規定セル額ヲ貼付スルヲ要ス國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ手数料ヲ納付セントスル者ハ農商工部大臣ヲ受取人トシテ其證書ヲ封入スヘシ
- 一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
- 一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

様式第五號

印紙入	印紙入	印紙入	印紙入
-----	-----	-----	-----

何鐵鑛區分割願(二通)

許可第 號

何道何府何面何洞 何鐵鑛區 何坪

此分割

一 何道何府何面何洞

面積 何坪

二 何道何府何面何洞

面積 何坪

右鐵鑛區分割御許可被成下度圖面、理由書及鑛業許可狀相添此段願上候也

年 月 日

國籍

住 所

(何道何府何面何洞何戶等)
府縣郡市町村番地
鑛業權者 氏

名 印

農商工部大臣 殿

(注意)

- 一 圖面ハ各別ニ調製シ各五葉宛添付スヘシ
- 一 收入印紙ハ鑛業法施行細則第十四條第三號ニ規定セル額ヲ貼付スルヲ要ス國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ手数料ヲ納付セントスル者ハ農商工部大臣ヲ受取人トシテ其證書ヲ封入スヘシ
- 一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
- 一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

附 録

様式第六號

印紙入	印紙入	印紙入	印紙入
-----	-----	-----	-----

鑛業權讓渡登録請求
 某道某府某面
 鑛業權許可第 號
 右鑛業權讓渡ノ登録ヲ請求ス
 年 月 日

國籍
 居住 (某道某府某面某洞幾戶等)
 (府縣郡市町村番地等)
 讓渡人 姓 名 印

農商工部大臣(姓名)閣下

國籍
 居住 (某道某府某面某洞幾戶等)
 (府縣郡市町村番地等)
 讓受人 姓 名 印

(注意)

- 一 收入印紙ハ鑛業法施行細則第二十二條第二項ニ規定シタル額ヲ貼付スルコトヲ要ス國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ手数料ヲ納付セムトスル者ハ農商工部大臣ヲ領收人トシテ其ノ證書ヲ封入スルコト
- 一 讓受人カ會社ナルトキハ登記謄本又ハ之ニ代用スル文書ヲ添附スルコト
- 一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ提出スルコト
- 一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニ在リテハ單ニ之ニ署名スルモ妨ナキコト

様式第七號

印紙入	印紙入	印紙入	印紙入
-----	-----	-----	-----

抵當權設定登録請求
 某道某府某面
 鑛業權許可第 號
 右ハ某年某月某日某證書ニ因リ債權、金額、幾圓、完済期某年某月某日、利子年又ハ月幾割、利子支拂期毎年某月トシテ定メタル抵當權設定ノ登録ヲ請求ス
 年 月 日

國籍
 居住 (某道某府某面幾戶等)
 (府縣郡市町村番地等)
 抵當權設定者 姓 名 印

農商工部大臣(姓名)閣下

國籍
 居住 (某道某府某面幾戶等)
 抵當權者 姓 名 印

(注意)

- 一 收入印紙ハ鑛業法施行細則第二十二條第二項ニ規定シタル額ヲ貼付スルコトヲ要ス國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ手数料ヲ納付セムトスル者ハ農商工部大臣ヲ領收人トシテ其ノ證書ヲ封入スルコト
- 一 抵當權者カ會社ナルトキハ登記謄本又ハ之ニ代用スル文書ヲ添附スルコト
- 一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ提出スルコト
- 一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニ在リテハ單ニ之ニ署名スルモ妨ナキコト

附 錄

様式第八號

一 抵當權設定者カ債務者ニ非サルトキハ請求書中ニ債務者ノ居住姓名ヲ記載スルコト

印紙入	印紙入	印紙入	印紙入
-----	-----	-----	-----

請願許可登録請求(一通)

何道府郡何面何洞何郷何何願

何坪

右許可登録被成下度此段及請求候也

年 月 日

國籍

住所(何道府郡何面何洞何戸等)

府縣郡市町村番地等

氏

名 副

農商工部大臣

殿

(注意)

一 鑛區ノ合併、分割又ハ訂正願ノ場合ニハ許可番號ヲ記載スヘシ

一 收入印紙ハ鑛業法施行細則第十九條第三項ニ規定セル額ヲ貼付スルヲ要ス國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ手数料ヲ納付セントスル者ハ農商工部大臣ヲ受取人トシテ其證書ヲ封入ス

ヘシ

一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ

一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

様式第九號

印紙入	印紙入	印紙入	印紙入
-----	-----	-----	-----

何鑛鑛業權相續屆(一通)

許可第 號

何道府郡何面何洞 何鑛鑛區 何坪

右鑛業權者何某死亡(其他相續原因ヲ記載)ニ因リ相續致候間相續ニ關スル證明書及鑛業許可狀相添此段及御届候也

年 月 日

國籍

住所(何道府郡何面何洞何戸等)

府縣郡市町村番地等

相續人 氏

名 副

農商工部大臣

殿

(注意)

一 收入印紙ハ鑛業法施行細則第二十三條第二項ニ規定セル額ヲ貼付スルヲ要ス國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ手数料ヲ納付セントスル者ハ農商工部大臣ヲ受取人トシ其ノ證書ヲ封入ヘシ

一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ

一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

様式第十號

印紙入	印紙入	印紙入	印紙入
-----	-----	-----	-----

抵當權者ノ鑛業權承繼願(二通)

許可第 號

何道府何面何洞 何鑛鑛區 何坪

右鑛業權承繼御許可被成下度此段願上候也

年 月 日

國籍

住所 (何道府何面何洞何戸等)
府縣郡市町村番地

抵當權者 氏

名 印

農商工部大臣

殿

(注意)

一 收入印紙ハ鑛業法施行細則第三十條第二項ニ規定セル額ヲ貼付スルヲ要ス國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ

郵便局ノ爲替證書ヲ以テ納付セントスル者ハ農商工部大臣ヲ受取人トシ其證書ヲ封入スヘシ

一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ

一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

様式第十一號(五通)

何鑛鑛區圖 縮尺 何分之一

何道府何面何洞

何里 官地又ハ民地

地目

何里 官地又ハ民地

地目

面積何坪

光武何年何月何日出願

住所

出願人 氏

名 印

住所

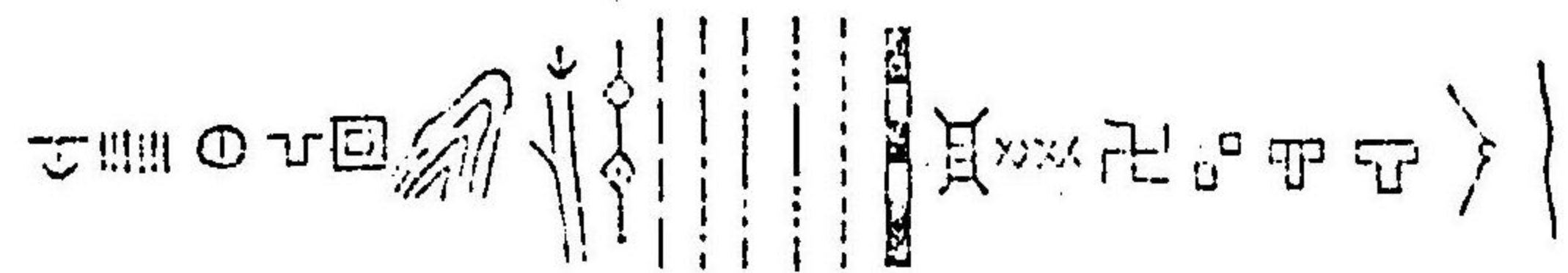
測量者 氏

名 印

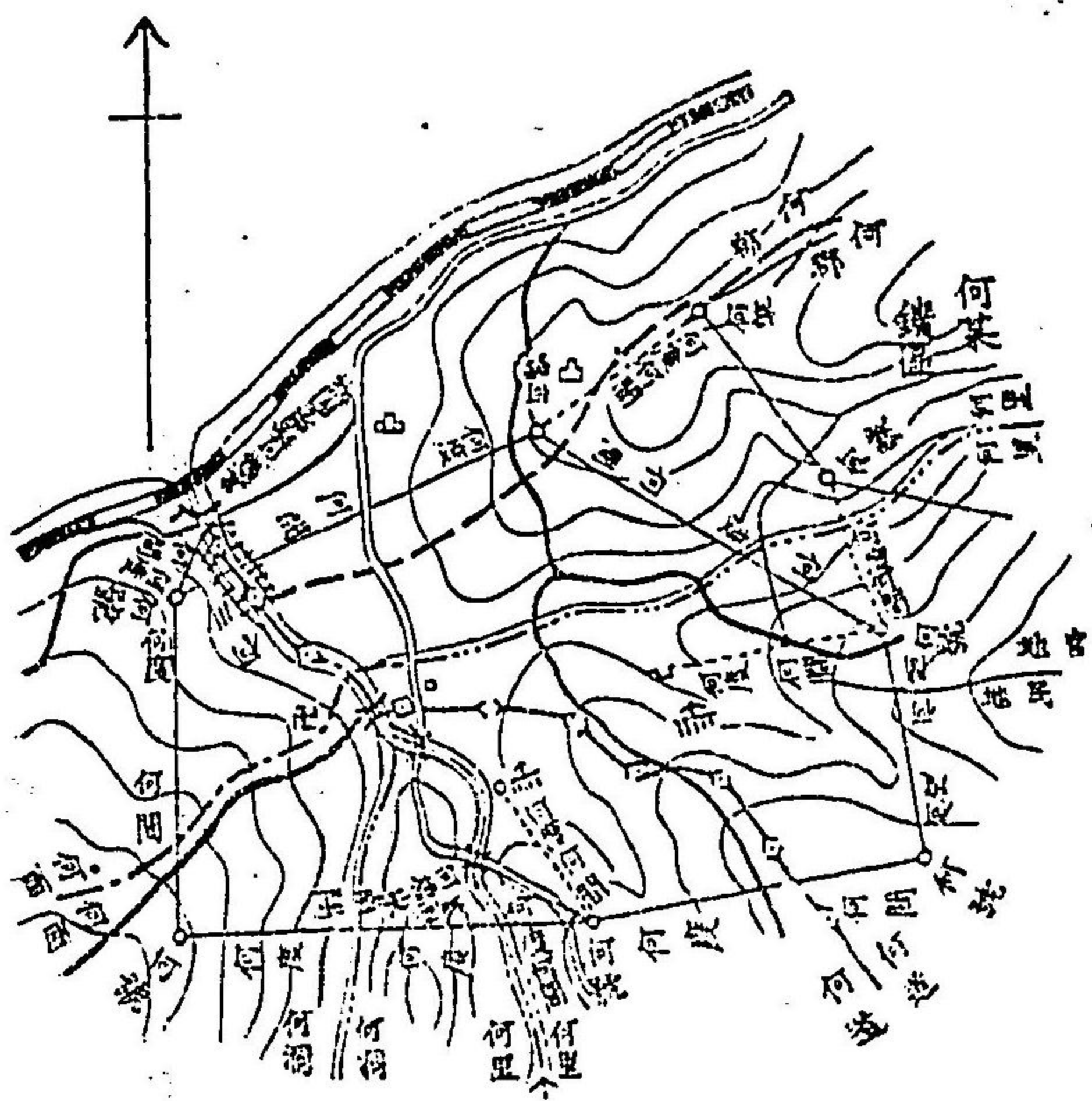
附 錄

三三

三三



符號
 走向傾斜
 礦床露頭
 標品採取場
 橫坑
 豎坑
 山口
 山川
 河道
 郡界
 面界
 洞界
 官界
 里界
 鐵道
 橋梁
 堤防
 神社
 家屋
 道標
 石標
 境界線
 鐵道境界線



(注意)

- 一 圖面用紙ハ可成禁水引美濃紙又ハ之ニ類スル用紙ヲ用ユヘシ此場合ニハ「インキ」ヲ使用スヘカラス
- 二 鉛筆ヲ使用スヘカラス
- 三 圖面ニ地目別ヲ顯スニハ左記ノ諸色ヲ用ユヘシ
 山林(淡綠色)原野(淡鼠色)田(淡藍色)畑(黃色)宅地(褐色)水(濃藍色)地形線(鼠色)
- 四 基點ハ特稱アル橋梁、家、辻、川股、標石其他近傍ニアル顯著ニシテ移動セサルモノヲ擇フヘシ
- 五 縮尺ハ三千分ノ一又ハ六千分ノ一ニ調製スヘシ
- 六 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
- 七 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

様式第十二號(五通)

何鑽訂正鑽區圖(增區減區又ハ增減區) 縮尺 何分之一

何道何郡何面何洞

原區何里官地又ハ民地地目 何坪

增區何里官地又ハ民地地目 何坪

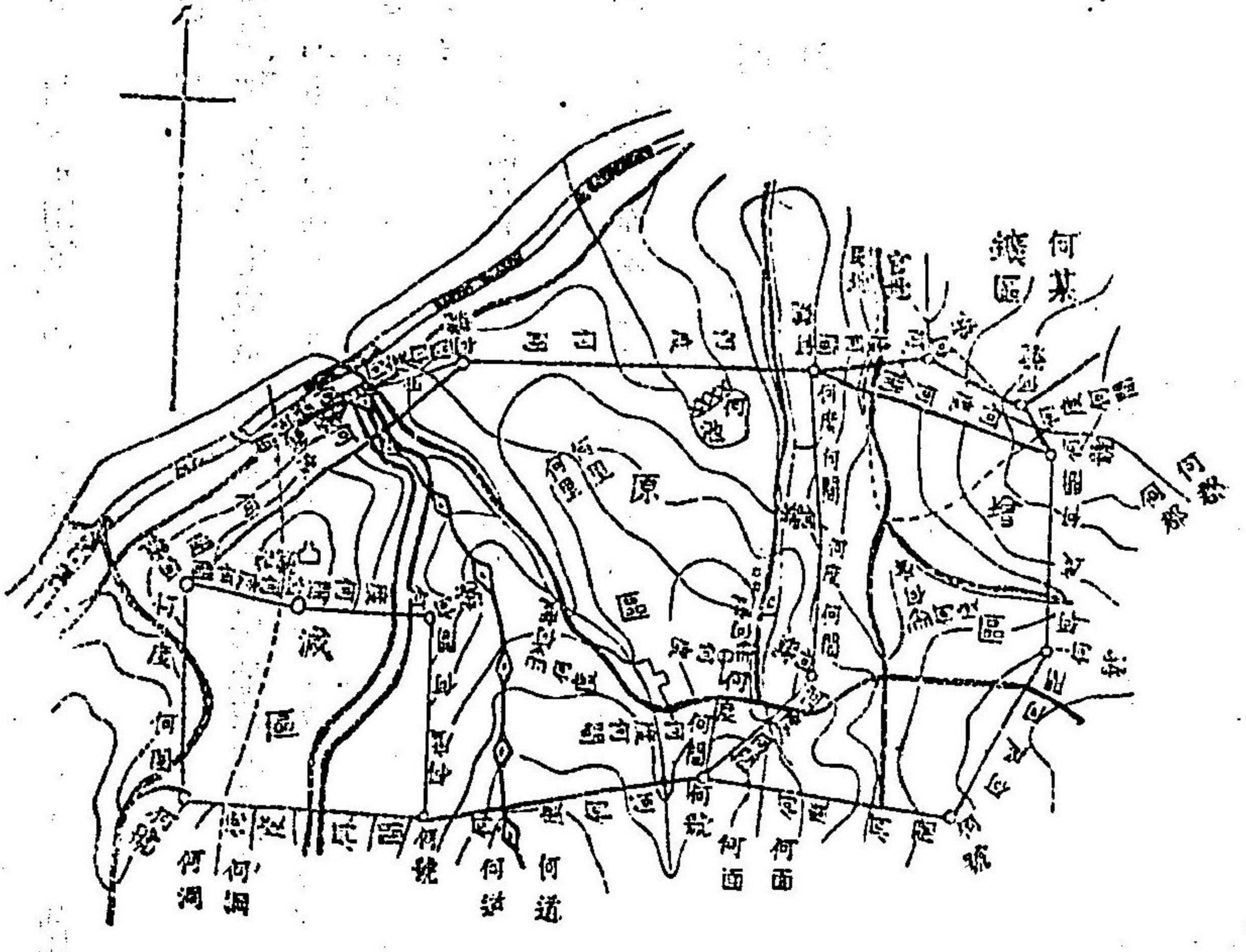
減區何里官地又ハ民地地目何坪

差引合計何坪

光武何年何月何日出願

住所 出願人 氏 名 印
 住所 測量者 氏 名 印

道	鐵	石	道	家	神	堤	橋	鐵	官	里	洞	面	郡	道	河	山	堅	橫	標	鐵	走
路	區	界	界	標	佛	防	梁	道	民	地	界	界	界	界	川		坑	坑	採	床	向
	線	線	線	石	屋	閣	道	界	界	界	界	界	界	界	川		口	口	取	露	傾
																					斜
																					號



(注意)

- 一 圖面用紙ハ可成礮水引美濃紙又ハ之ニ類スル用紙ヲ用ユヘシ此場合ニハ「インキ」ヲ使用スヘカラス
- 二 鉛筆ヲ使用スヘカラス
- 三 圖面ニ地目別及境界線ヲ顯ハスニハ左記ノ諸色ヲ用ユヘシ
 - 山林(淡綠色) 田(淡藍色) 畑(黃色) 宅地(褐色) 水(濃藍色) 地形線(鼠色) 原野(淡鼠色)
 - 鐵區境界線(原鐵區(黑色) 增區(赤色) 減區(黑色))
- 四 基點ハ特稱アル橋梁、家、辻、川股、標石其他近傍ニアル顯著ニシテ移動セサルモノヲ擇フヘシ
- 五 縮尺ハ三千分ノ一又ハ六千分ノ一ニ調製スヘシ
- 六 減區ニ係ル區域ハ無彩色ニスヘシ
- 七 許可地ノ訂正出願圖ニハ許可番號ヲ肩書スヘシ
- 八 鐵區合併出願圖ハ許可地ノ增區出願圖ニ準シ調製シ原區區域内ニ各許可番號ヲ記入ス
- 九 分割出願圖ハ減區出願圖ニ準シ調製シ他ノ一方ノ區域ハ減區部分ノ如ク無彩色ト爲スヘシ
- 十 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
- 十一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

樣式第十三號 甲

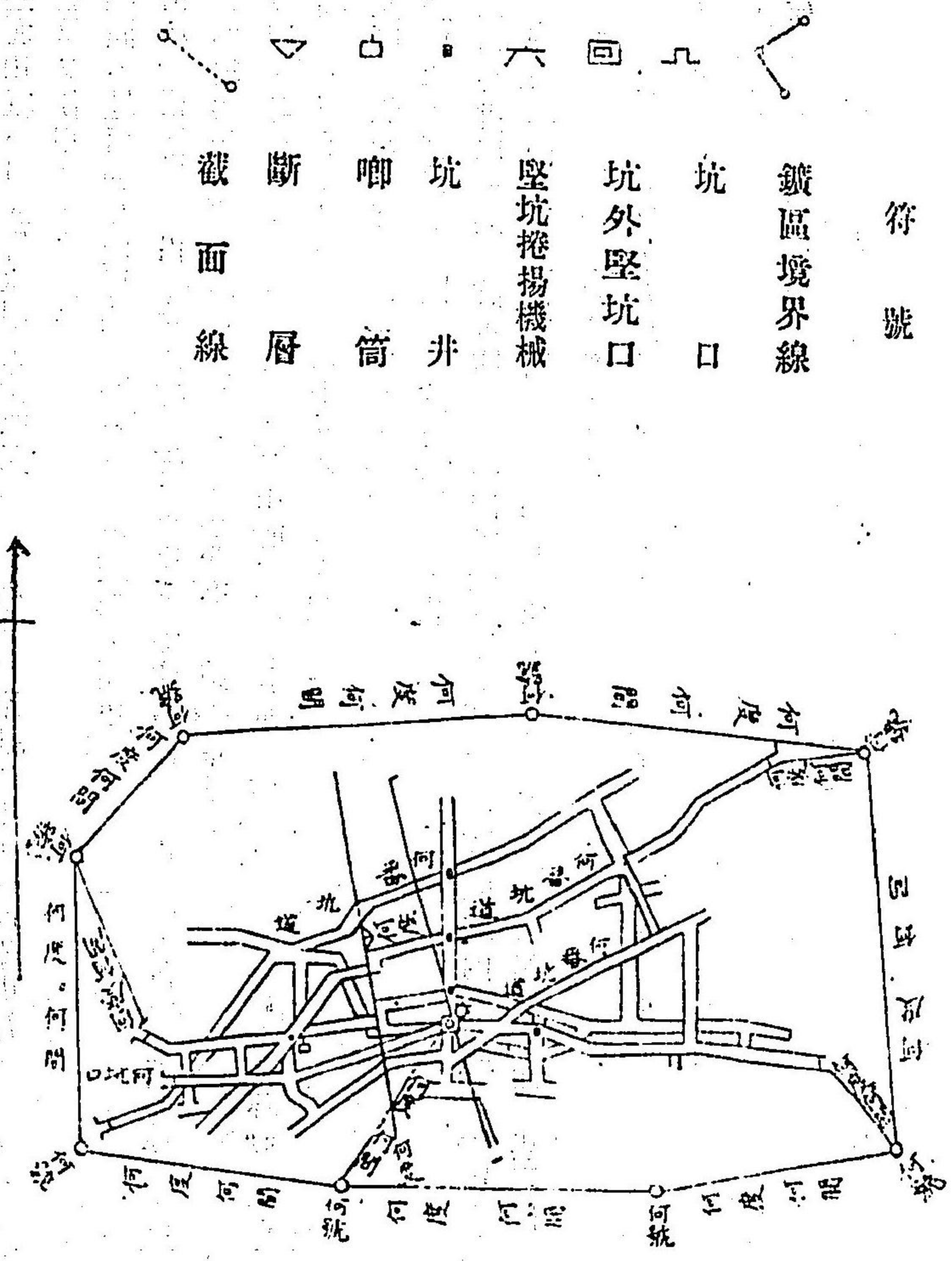
許可第何號

何道何郡何面何洞何鐵山

坑内實測平面圖 縮尺 何分之一

住所 鐵業權者 氏 名 印
 住所 測量者 氏 名 印

附錄

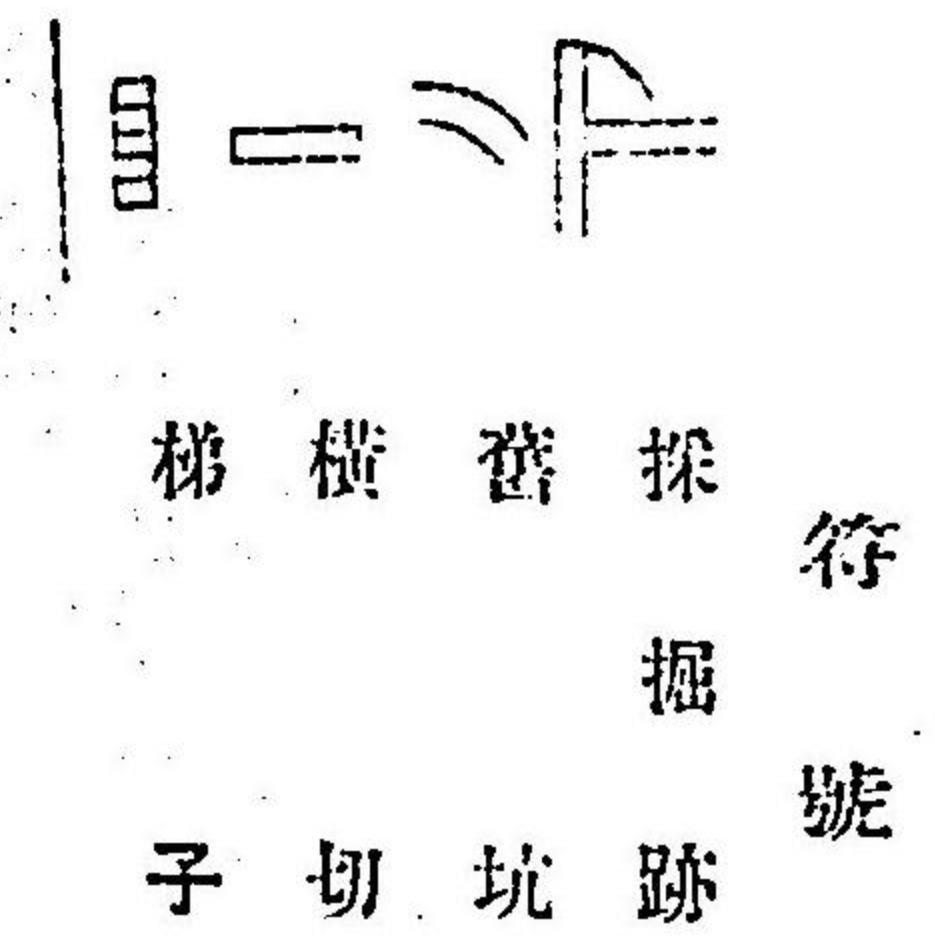


(注意)

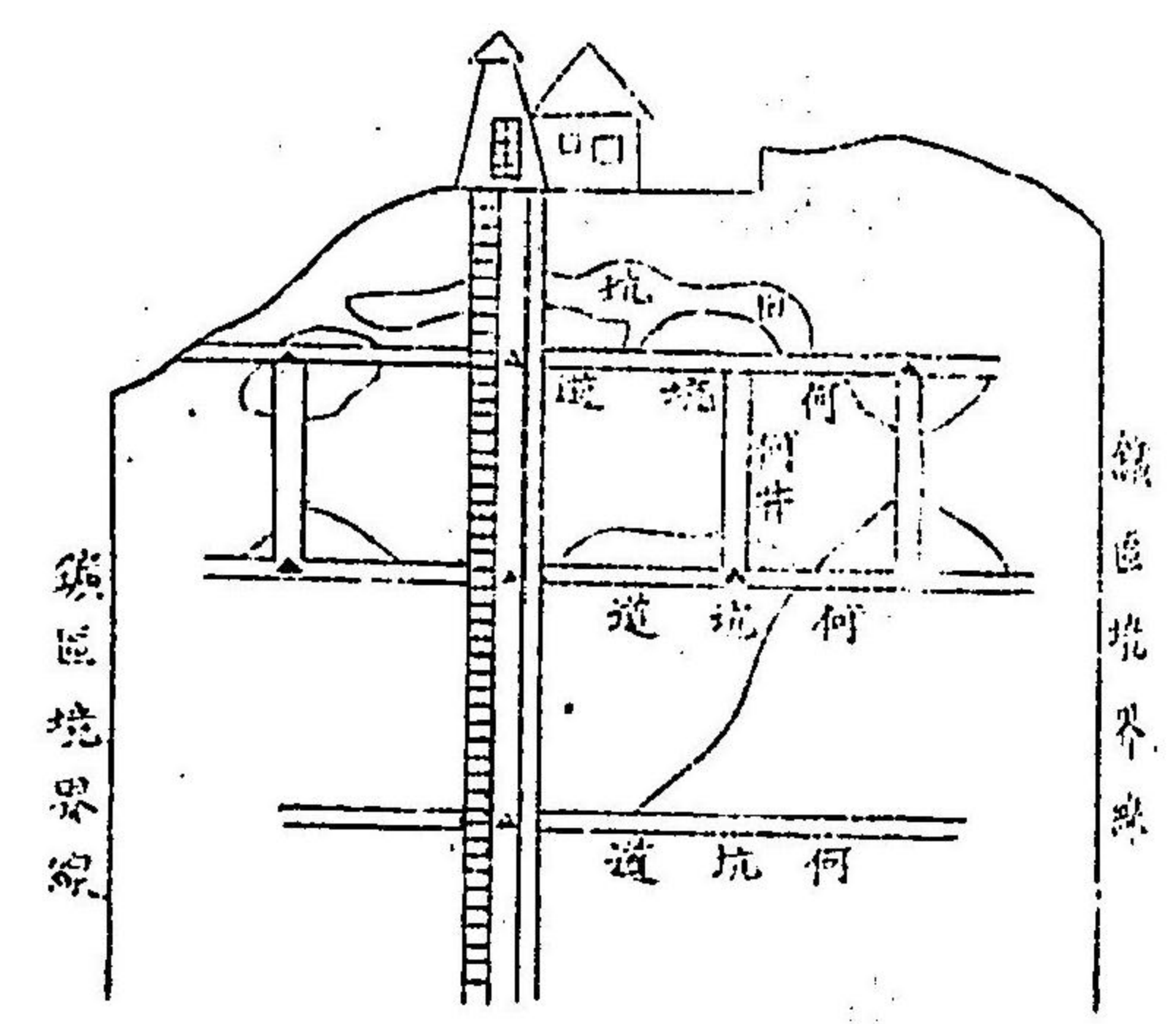
- 一 坑道ノ上下段ハ色分ヲ以テ區畫スヘシ
- 二 軌道ヲ敷設シタル坑道又ハ機械等ニシテ本國ノ尺度ニテ圖上ニ顯シ難キモノハ適宜ノ尺度ヲ用ユヘシ
- 三 圖面縮尺ハ可成千二百分ノ一ニ調製スヘシ
- 四 木造堰ハ黄色ニ煉瓦堰ハ赤色ニ色分ヲナスヘシ
- 五 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
- 六 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

樣式第十三號 乙
 許可第何號
 何道何郡何面何洞
 坑内實測截面圖 縮尺 何分之一

住所 鐵業權者 氏 名 印
 住所 測量者 氏 名 印



甲圖イロ線截面圖



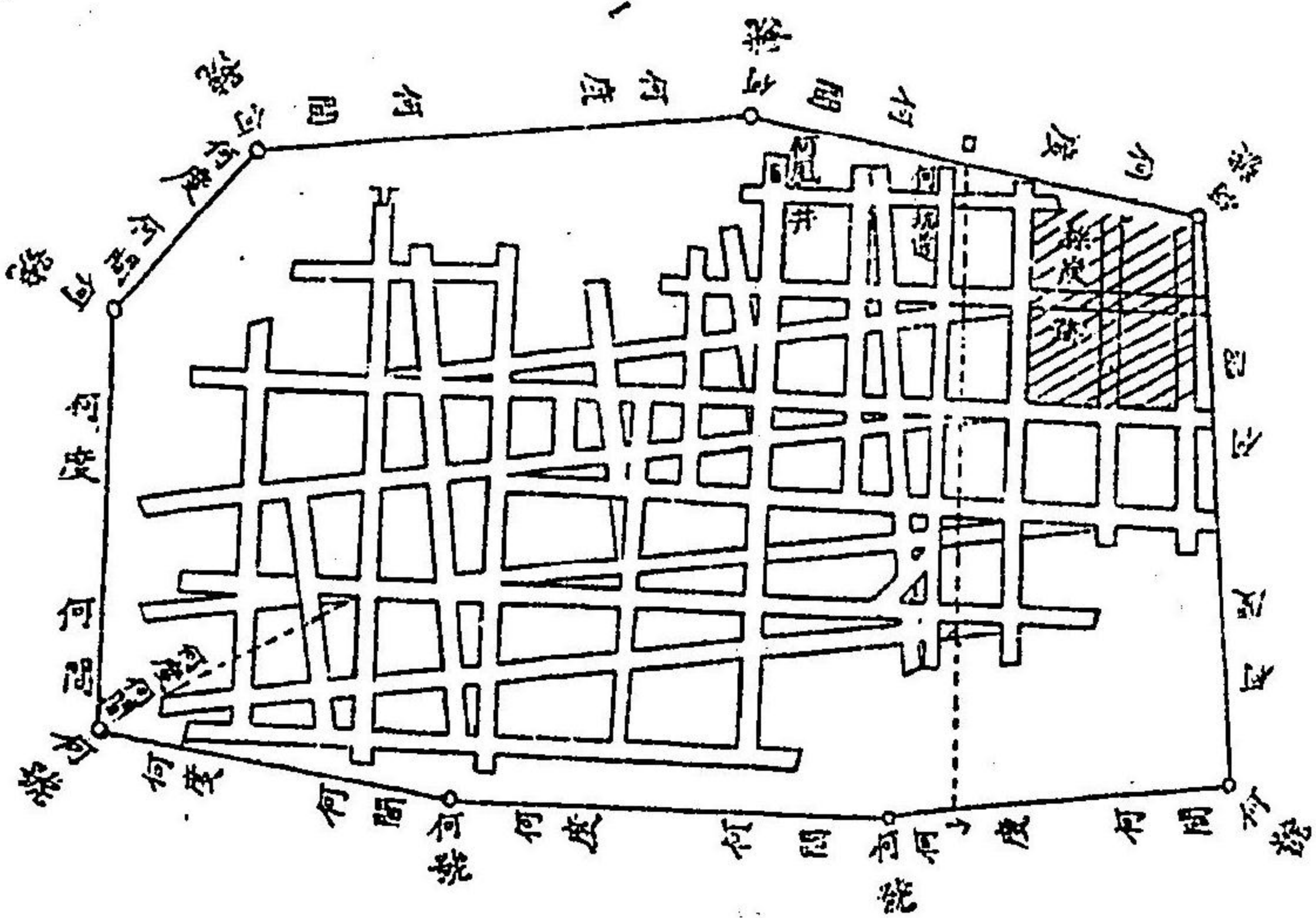
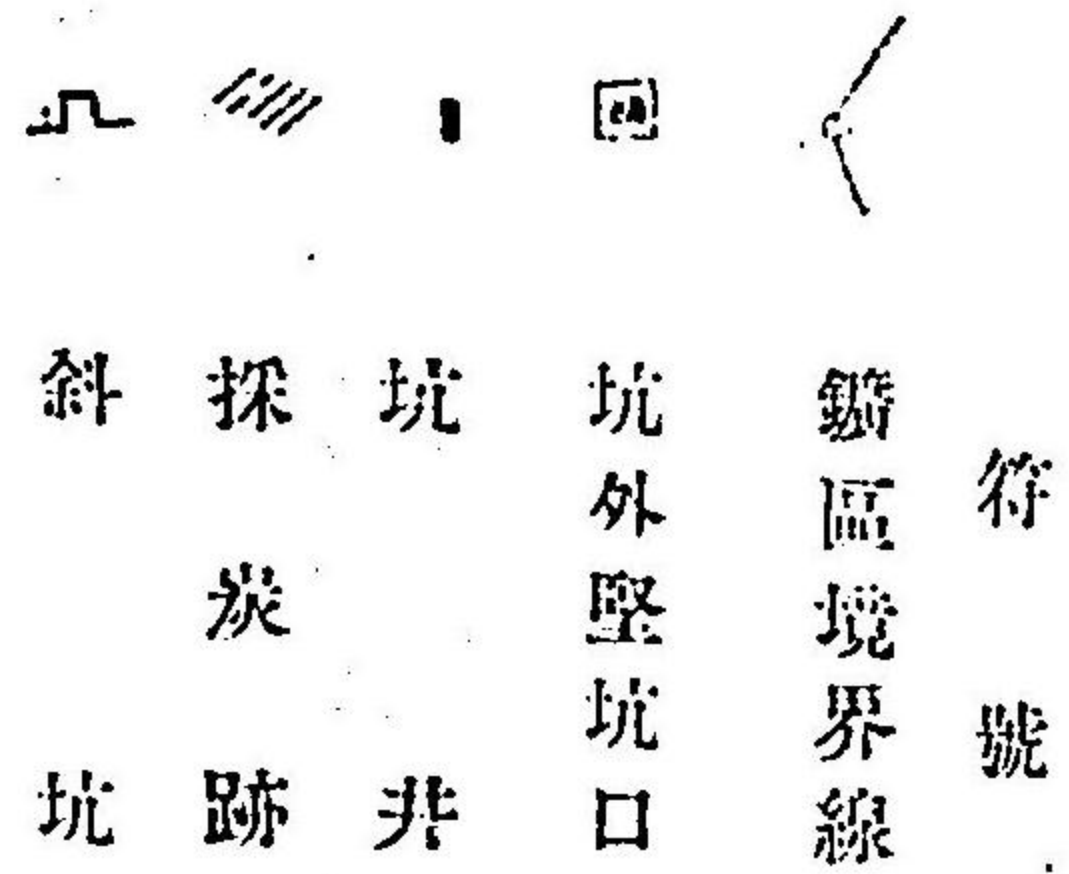
(注意)

- 一 坑道ノ上下段ハ色分ヲ以テ區畫スヘシ
- 二 軌道ヲ敷設シタル坑道又ハ機械等ニ付テ本國ノ尺度ニテ圖上ニ顯シ難キモノハ適宜ノ尺度ヲ用ユヘシ
- 三 圖面縮尺ハ可成千二百分ノ一ニ調製スヘシ
- 四 木造堰ハ黄色ニ煉瓦堰ハ赤色ニ色分ヲナスヘシ
- 五 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
- 六 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

樣式第十四號
許可第何號

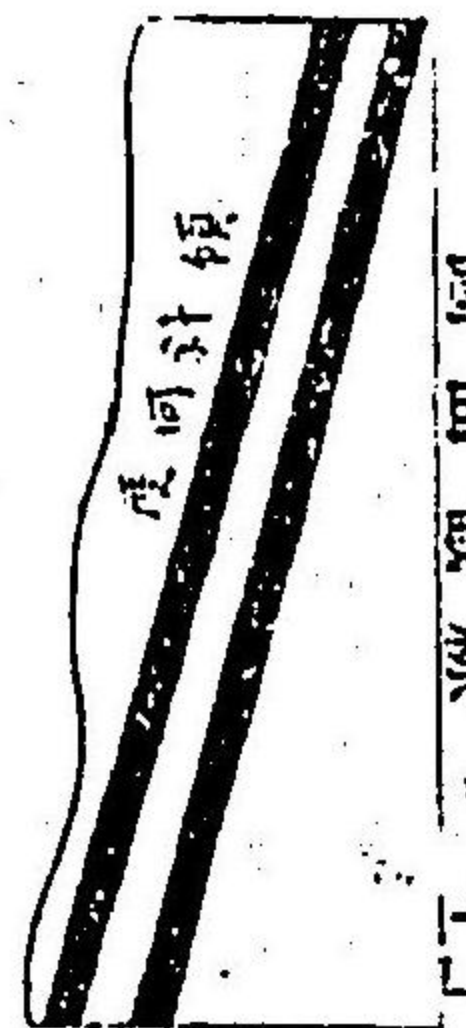
何道何郡何面何洞何炭坑
坑内實測圖 縮尺 何分之一

住	住
所	所
鑛業權者	鑛業權者
氏	氏
測量者	測量者
氏	氏
名	名
印	印



一三三

層炭何
層炭何



炭層柱狀圖 縮尺何分之一



何尺 何尺 何尺 何尺

- (注意)
- 一 平面圖ハ坑道ニ著色シ各炭層ヲ區別スヘシ
 - 二 採掘セシ部分ハ坑道ト同色ニ著色スヘシ
 - 三 炭層中ニハサミアレハ柱狀圖ニ顯ハスヘシ
 - 四 圖面縮尺ハ可成千二百分ノ一ニ調製スヘシ
 - 五 木造堰ハ黄色、煉瓦堰ハ赤色ニ色分ヲナスヘシ
 - 六 捲揚機械、唧筒、煽風器及軌道其他特種ノモノヲ設置スル場合ニハ適宜ノ符號ヲ用ヒテ之ヲ明示スヘシ
 - 七 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
 - 八 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル
- 樣式第十五號(三通)

採種	種別	越	高	採	鑛	高	選	鑛	高	元	製	鍊	高	元	數	販	賣	高	額	平	品	位	均	殘	高				
許	鑛	位置				面積				住				氏				所				名				印			
可	種	名稱				代表者				氏				所				名				印							
號	別	越	高	採	鑛	高	選	鑛	高	元	製	鍊	高	元	數	販	賣	高	額	平	品	位	均	殘	高				

附錄

一三三

光武何年鑛業明細表

事記	部ノ鍊製					部ノ鑛選					部ノ鑛			
	工數	種別	越	高	製出高	平均品位	工數	種別	越	高	精鑛高	平均品位	工數	部ノ鑛

(注意)

- 一 種別ノ欄ニハ採鑛ノ部ニ於テハ粗鑛ノ種類、名稱等(金屬鑛ニ在テハ金鑛、銀鑛等ノ如ク石炭ニ在リテハ三尺炭、五尺炭等ノ如シ)ヲ記載シ選鑛ノ部ニ於テハ精鑛ノ種類、名稱等ヲ記載シ製鍊ノ部ニ於テハ製品ノ種類、名稱等ヲ記載スヘシ
- 二 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
- 三 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニ在テハ署名スルノミニテ足ル

●農商工部所屬鑛區

四十二年 統告第五十九號

韓國政府ハ隆熙三年六月十六日農商工部告示第二十三號ヲ以テ所屬鑛區ニ關シ左記譯文ノ通告示ヲ爲シタリ
 平安南道平壤郡江東郡ハ本部所屬石炭採掘區域トシ
 黃海道殷栗郡載寧郡ハ本部所屬鐵鑛採掘區域トス

●砂鑛採取法

三十九年七月 統告第七十二號

改正

四〇年四月一年四一
 統告一〇五號七〇號一〇八號

明治三十九年七月二十八日韓國政府ニ於テ公布シタル砂鑛採取法譯文左ノ如シ

砂鑛採取法

- 第一條 砂鑛トハ砂金、砂錫及砂鐵ヲ謂フ
- 第二條 砂鑛ヲ採取セントスル者ハ農商工部大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 砂鑛採取區ニ付テハ鑛業法第五條ノ規定ヲ準用ス
- 第四條 鐵道、軌道、道路、運河、堤塘、社寺境内地、公園地及建物ノ周圍五間以内及墳墓ノ周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ地表面地下ヲ區別セズ所轄官廳ノ許可又ハ所有者若ハ關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ砂鑛ヲ採取シ又ハ砂鑛採取業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス

正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾ヲ拒ミタルトキハ砂鑛採取權者ハ農商工部大臣ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

第五條 砂鑛採取出願ノ許否ニ付テハ鑛業法第七條及第八條ノ規定ヲ準用ス

第六條 砂鑛採取權ノ移轉又ハ抵當權設定ニ付テハ鑛業法第十條ノ規定ヲ準用ス

第七條 砂鑛採取業ノ停止、改良及危險ノ豫防ニ付テハ鑛業法第十一條ノ規定ヲ準用ス

第八條 砂鑛採取權ノ取消ニ付テハ鑛業法第十二條ノ規定ヲ準用ス

第九條 砂鑛採取業ニ關シ他人ノ土地ヲ使用シ又ハ買收スル場合ニ付テハ鑛業法第十四條乃至第十七條ノ規定ヲ準用ス

第十條 砂鑛採取業ニ關スル出願、請求又ハ届出ヲ爲ス者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ手数料ヲ納付スヘシ

第十一條 砂金採取權者ハ採取稅ヲ納付スヘシ砂錫又ハ砂鐵ニ付テハ採取稅ヲ課セズ

採取稅ハ採取許可區一千坪若ハ河床延長一町毎ニ一箇年一圓トス但シ一千坪未滿又ハ一町未滿ハ一千坪又ハ一町ト看做ス

採取稅ハ毎年十二月月中ニ翌年分ヲ納付スヘシ但シ許可ノ年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ即納スヘシ

既納ノ採取稅ハ之ヲ還付セズ

第十二條 (削除)

第十三條 採取權ヲ有セスシテ砂鑛ヲ採取シタル者又ハ詐偽ノ所爲ヲ以テ採取權ヲ得タル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ採取シタル砂鑛ハ之ヲ沒收ス既ニ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス

第三條及第四條第一項ノ規定ニ違背シタル者、第七條ノ命令ニ從ハサル者又ハ砂鑛採取業ニ供用スル土地ヲ其ノ目的外ニ利用シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ處分ハ農商工部大臣之ヲ行フ

第十四條 (削除)

第十五條 本法施行ニ必要ナル命令ハ農商工部大臣之ヲ定ム

第十六條 鑛業法第二十八條乃至第三十條ノ規定ハ砂鑛採取業ニ之ヲ準用ス

第十六條ノ二 第二條、第七條、第八條ノ處分及第五條ノ規定ニ依リ鑛業法第七條ノ規定ニ準シ行フヘキ處分

並第十六條ノ規定ニ依リ鑛業法第二十九條ノ規定ニ準シ行フヘキ處分ハ日本統監ノ同意ヲ經ルコトヲ要ス

附則

第十七條 本法ハ光武十年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 本法ニ抵觸スル法令ハ總テ之ヲ廢止ス

●砂鑛採取法施行細則

三十九年八月 統告第八十三號

改正 四一一年 統告一〇九號

明治三十九年八月十一日韓國政府ニ於テ公布シタル砂鑛採取法施行細則譯文左ノ如シ

砂鑛採取法施行細則

第一條 鑛業法施行細則第二條乃至第七條ノ規定ハ砂鑛採取業ニ之ヲ準用ス

第二條 鑛業法施行細則第八條ノ規定ハ砂鑛採取業ニ之ヲ準用ス但シ鑛床説明書、理由書又ハ標品ノ提出ヲ要セス

第三條 前條ノ願書ハ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

第四條 鑛業法施行細則第十一條乃至第十三條ノ規定ハ砂鑛採取業ニ之ヲ準用ス

第五條 第二條ノ出願ヲ爲ス者ハ左ノ手数料ヲ納付スヘシ

一 採取出願 每一件 五十圓

二 採取出願地ノ訂正願

增區又ハ増減區願

減區願

每一件 三十圓
每一件 十圓

附 錄

三 採取許可區ノ訂正、合併、分割願

增區又ハ増減區願

每一件 三十圓

合併又ハ分割願

每一件 二十圓

減區願

每一件 十圓

前項第一號ノ出願ニ付テハ河床ニ在リテハ百町毎ニ其ノ他ニ在リテハ十萬坪毎ニ一件分ノ手数料ヲ納付ス

ヘシ但シ百町未満又ハ十萬坪未満ハ百町又ハ十萬坪ト看做ス

第一項第二號及第三號ノ増區及増減區願ニ付テハ其ノ増加ノ部分ノミニ付前二項ノ手数料ヲ納付スヘシ

第六條 鑛業法施行細則第十七條乃至第十九條ノ規定ハ砂鑛採取業ニ之ヲ準用ス但シ登録手数料額ハ前條第

一項第一號第三號、第二項及第三項ノ規定ニ依ル出願手数料額ニ同シ

第七條 左ノ場合ニ於テハ願書、請求書又ハ届書ヲ受理セス

一 第二條及鑛業法施行細則第二十二條ヲ準用セル第九條ノ規定ニ違背シ願書或ハ請求書ニ圖面又ハ承諾

書若ハ之ニ代ハルヘキ書面ヲ添付セサルトキ

二 第三條ノ規定ニ違背シ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ

三 鑛業法施行細則第十三條ヲ準用セル第四條ノ規定ニ違背シ決議書又ハ之ニ代ハルヘキ書面ヲ添付セサ

ルトキ

四 手数料ヲ納付セサルトキ

第八條 左ノ場合ニ於テハ願書、請求書又ハ届書ヲ却下ス

一 實地調査ノ際出願人カ其ノ出願ニ係ル區域ヲ明示シ能ハサルカ又ハ調査事項ニ付相當ノ説明ヲ爲ス能

ハサルトキ

二 出願人ノ指示スル區域カ願書ニ添付シタル圖面ト著シク相違スルトキ

三 鑛業法施行細則第六條ノ規定ヲ準用セル第一條ノ規定ニ基ク命令ノ期限内ニ修正若ハ補充ヲ爲ササル

トキ

四 鑛業法施行細則第十八條第二項ノ規定ヲ準用セル第六條ノ規定ニ依ル命令ノ期日ニ立會セサルトキ

五 鑛業法施行細則第十九條ノ規定ヲ準用セル第六條ノ期限内ニ登録手数料ヲ納付セサルトキ

第九條 鑛業法施行細則第二十二條乃至第二十五條第二十九條乃至第三十三條ノ規定ハ其ノ手数料額ニ關シ

左ニ掲クルモノヲ除ク外砂鑛採取業ニ之ヲ準用ス

(削除)

一 採取權讓渡ノ登録請求 五十圓

二 採取權ノ相續届 五十圓

三 採取權ノ相續届 五十圓

(削除)

四 抵當權設定登録請求 五十圓

五 抵當權者ノ採取權承繼出願 五十圓

六 測量又ハ調査請求 二十圓

七 測定請求 二十圓

八 採取許可狀再下付請求 十圓

九 採取許可區圖謄本下付請求 二十圓

第十條 鑛業法施行細則第十八條、第二十三條第二項、第二十五條、第二十九條第一項及第三十一條ノ規定

ニ準シ爲スヘキ行爲ヲ爲ササル採取權者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ處分ハ農商工部大臣之ヲ行フ

附則

第十一條 本令ハ砂鑛採取法施行ノ日ヨリ施行ス

砂鑛採取法施行細則様式

三十九年八月 統告第八十四號

改正

四一年 統告二一號

一〇九號

一四〇

明治三十九年八月十四日韓國政府ニ於テ公布シタル砂鑛採取法施行細則様式譯文左ノ如シ
砂鑛採取法施行細則様式

様式第一號

印紙入	印紙入	印紙入	印紙入
-----	-----	-----	-----

砂金(又ハ砂錫、砂鐵等)採取願(二通)

何道何府何面何洞

面積 何坪又ハ何町

右箇處ニ於テ砂金(又ハ砂錫、砂鐵等)採取御許可被成下度圖面相添此段願上候也
年 月 日

國籍

住所(何道何府何面何洞何戶等)

出願人 氏

名 印

農商工部大臣

殿

(注意)

- 一 圖面五葉ヲ添付スヘシ
- 一 收入印紙ハ砂鑛採取法施行細則第五條ニ規定セル額ヲ貼付スルヲ要ス國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ手数料ヲ納付セントスル者ハ農商工部大臣ヲ受取人トシテ其證書ヲ封入スヘシ
- 一 出願人カ會社ナルトキハ登記謄本又ハ之ニ代ハルヘキ書面ヲ添付スヘシ
- 一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
- 一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

様式第二號

印紙入	印紙入	印紙入	印紙入
-----	-----	-----	-----

砂金(又ハ砂錫、砂鐵等)採取出願地訂正願(二通)

何年何月何日出願

何道何府何面何洞 砂金(又ハ砂錫、砂鐵等)採取出願地

何坪又ハ何町

増區 何道何府何面何洞

面積 何坪又ハ何町

減區 何道何府何面何洞

面積 何坪又ハ何町

合計又ハ差引 何坪又ハ何町

右採取出願地訂正御許可被成下度圖面相添此段願上候也

年 月 日

國籍

住所(何道何府何面何洞何戶等)

出願人 氏

名 印

農商工部大臣

殿

(注意)

- 一 圖面五葉ヲ添付スヘシ
- 一 收入印紙ハ砂鑛採取法施行細則第五條ニ規定セル額ヲ貼付スルヲ要ス國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ手数料ヲ納付セントスル者ハ農商工部大臣ヲ受取人トシテ其證書ヲ封入スヘシ
- 一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ

附 錄

一四一

一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル
様式第三號

印紙入	印紙入	印紙入	印紙入
-----	-----	-----	-----

砂金(又ハ砂錫、砂鐵等)採取許可區訂正願(二通)
許可第 號
原區 何道何府何面何洞 砂金(又ハ砂錫、砂鐵等)採取許可區
何坪又ハ何町
增區 何道何府何面何洞
面積 何坪又ハ何町
減區 何道何府何面何洞
面積 何坪又ハ何町
合計又ハ差引 何坪又ハ何町
右採取許可區訂正御許可被成下度圖面及採取許可狀相添此段願上候也
年 月 日

國籍

所(何道何府何面何洞何戶等)
府縣郡市町村番地
採取權者 氏

名 剛

(注意)

一 圖面五葉ヲ添付スヘシ
一 收入印紙ハ砂鐵採取法施行細則第五條ニ規定セル額ヲ貼付スルヲ要ス國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ手數料ヲ納付セントスル者ハ農商工部大臣ヲ受取人トシテ其證書ヲ封入スヘシ

農商工部大臣

殿

國籍

所(何道何府何面何洞何戶等)
府縣郡市町村番地
採取權者 氏

名 剛

一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル
様式第四號

印紙入	印紙入	印紙入	印紙入
-----	-----	-----	-----

砂金(又ハ砂錫、砂鐵等)採取許可區合併願(二通)
一許可第 號
何道何府何面何洞 砂金(又ハ砂錫、砂鐵等)採取許可區
何坪又ハ何町
一許可第 號
何道何府何面何洞 砂金(又ハ砂錫、砂鐵等)採取許可區
何坪又ハ何町
合計何坪又ハ何町
右採取許可區合併御許可被成下度圖面及採取許可狀相添此段願上候也
年 月 日

國籍

所(何道何府何面何洞何戶等)
府縣郡市町村番地
採取權者 氏

名 剛

農商工部大臣

殿

(注意)

一 圖面五葉ヲ添付スヘシ
一 收入印紙ハ砂鐵採取法施行細則第五條ニ規定セル額ヲ貼付スルヲ要ス國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ手數料ヲ納付セントスル者ハ農商工部大臣ヲ受取人トシテ其證書ヲ封入スヘシ

附 錄

一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
 一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

印紙入	印紙入	印紙入	印紙入
-----	-----	-----	-----

砂金(又ハ砂錫、砂鐵等)採取許可區分割願(二通)
 許可第 號
 何道何府何面何洞 砂金(又ハ砂錫、砂鐵等)採取許可區何坪又ハ何町
 此分割
 一 何道何府何面何洞
 面積 何坪又ハ何町
 二 何道何府何面何洞
 面積 何坪又ハ何町

右採取許可區分割御許可被成下度圖面及採取許可狀相添此段願上候也

年 月 日

國籍

住 所(何道何府何面何洞何戶等)

府縣郡市町村番地

氏

名 印

農商工部大臣

殿

(注意)

- 一 圖面ハ各別ニ調製シ各五葉宛添付スヘシ
- 一 收入印紙ハ砂鐵採取法施行細則第五條ニ規定セル額ヲ貼付スルヲ要ス國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ手数料ヲ納付セントスル者ハ農商工部大臣ヲ受取人トシ其證書ヲ封入スヘシ

一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
 一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

印紙入	印紙入	印紙入	印紙入
-----	-----	-----	-----

砂金(又ハ砂錫、砂鐵等)採取權讓渡登錄請求

某道某府某面

砂鐵採取權許可第 號
 右採取權讓渡ノ登錄ヲ請求ス
 年 月 日

國籍

居住(某道某府某面某洞幾戶等)

讓渡人

姓

名 印

國籍

居住(某道某府某面某洞幾戶等)

讓受人

姓

名 印

農商工部大臣(姓名)閣下

附 錄

(注意)

- 一 收入印紙ハ砂鑛採取法施行細則第九條第二號ニ規定シタル額ヲ貼付スルコトヲ要ス國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ手数料ヲ納付セムトスル者ハ農商工部大臣ヲ領收人トシテ該證書ヲ封入スルコト
- 一 讓受人カ會社ナルトキハ登記謄本又ハ之ニ代用スル文書ヲ添附スルコト
- 一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ提出スルコト
- 一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニ在リテハ單ニ之ヲ署名スルモ妨ナキコト

様式第七號

抵當權設定登録請求

印紙入	印紙入	印紙入	印紙入
-----	-----	-----	-----

某道某府某面

砂鑛採取權許可第 號

右ハ某年某月某日某證書ニ因リ債權、金額、幾圓、完濟期某年某月某日、利子年又ハ月幾割、利子支拂期毎年某月トシテ定メタル抵當權設定ノ登録ヲ請求ス

年 月 日

國籍

居住(某道某府某面某洞幾戸等)

抵當權設定者

姓

名 印

國籍

居住(某道某府某面某洞幾戸等)

抵當權者

姓

名 印

農商工部大臣(姓名)閣下

(注意)

- 一 收入印紙ハ砂鑛採取法施行細則第九條第五號ニ規定シタル額ヲ貼付スルコトヲ要ス國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ手数料ヲ納付セムトスル者ハ農商工部大臣ヲ領收人トシテ其ノ證書ヲ封入スルコト
- 一 抵當權者カ會社ナルトキハ登記謄本又ハ之ニ代用スル文書ヲ添附スルコト
- 一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ提出スルコト
- 一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニ在リテハ單ニ之ニ署名スルモ妨ナキコト
- 一 抵當權設定者カ債務者ニ非サルトキハ請求書中ニ債務者ノ居住姓名ヲ記載スルコト

様式第八號

請願許可登録請求(一通)

何道何府何面何洞 砂金(又ハ砂錫、砂鐵等)何何願
 何坪又ハ何町
 右御許可ノ登録被成下度此段請求申上候也

年 月 日

附 錄

印紙入 印紙入

(注意)

- 一 採取許可區ノ合併、分割又ハ訂正願ノ場合ニハ許可番號ヲ記入スヘシ
- 一 收入印紙ハ砂鐵採取法施行細則第六條ニ規定セル登錄手数料額ヲ貼付スルヲ要ス國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ登錄手数料ヲ納付セントスル者ハ農商工部大臣ヲ受取人トシ其證書ヲ封入スヘシ
- 一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
- 一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

農商工部大臣 殿

國籍

住

所(何道何府何面何洞何戸等)
府縣郡市町村番地等

請求人 氏

名 印

印紙入 印紙入 印紙入 印紙入

樣式第九號

- 一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
 - 一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル
- 砂金(又ハ砂錫、砂鐵等)採取權相續屆(一通)
- 許可第 號
- 何道何府何面何洞 砂金(又ハ砂錫、砂鐵等)採取許可區
- 右採取權者何某死亡(其他相續原因ヲ記載)ニ因リ相續致候間相續ニ關スル證明書及採取許可狀相添此段及御屆候也
- 年 月 日

農商工部大臣 殿

國籍

住

所(何道何府何面何洞何戸等)
府縣郡市町村番地等

相續人 氏

名 印

(注意)

- 一 收入印紙ハ砂鐵採取法施行細則第九條第三號ニ規定セル額ヲ貼付スルヲ要ス國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ手数料ヲ納付セントスル者ハ農商工部大臣ヲ受取人トシ其證書ヲ封入スヘシ
- 一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
- 一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

樣式第十號

抵當權者ノ採取權承繼願(二通)

許可第 號

何道何府何面何洞 砂金(又ハ砂錫、砂鐵等)採取許可區

何坪又ハ何町

右採取權承繼御許可被成下度此段願上候也

年 月 日

國籍

住

所(何道何府何面何洞何戸等)
府縣郡市町村番地等

抵當權者 氏

名 印

農商工部大臣 殿

(注意)

- 一 收入印紙ハ砂鐵採取法施行細則第九條第六號ニ規定セル額ヲ貼付スルヲ要ス國庫金ヲ取扱フ銀行又ハ郵便局ノ爲替證書ヲ以テ手数料ヲ納付セントスル者ハ農商工部大臣ヲ受取人トシ其證書ヲ封入ス

附 錄

一

書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

様式第十一號 (五通)

砂(金)(錫)(鐵)採取地實測圖 尺度何分之一

何道何郡何面何洞

何里 官地又ハ民地 地目

何里 官地又ハ民地 地目

何 坪

光武何年何月何日出願

住所

出願人 氏

住所

測量者 氏

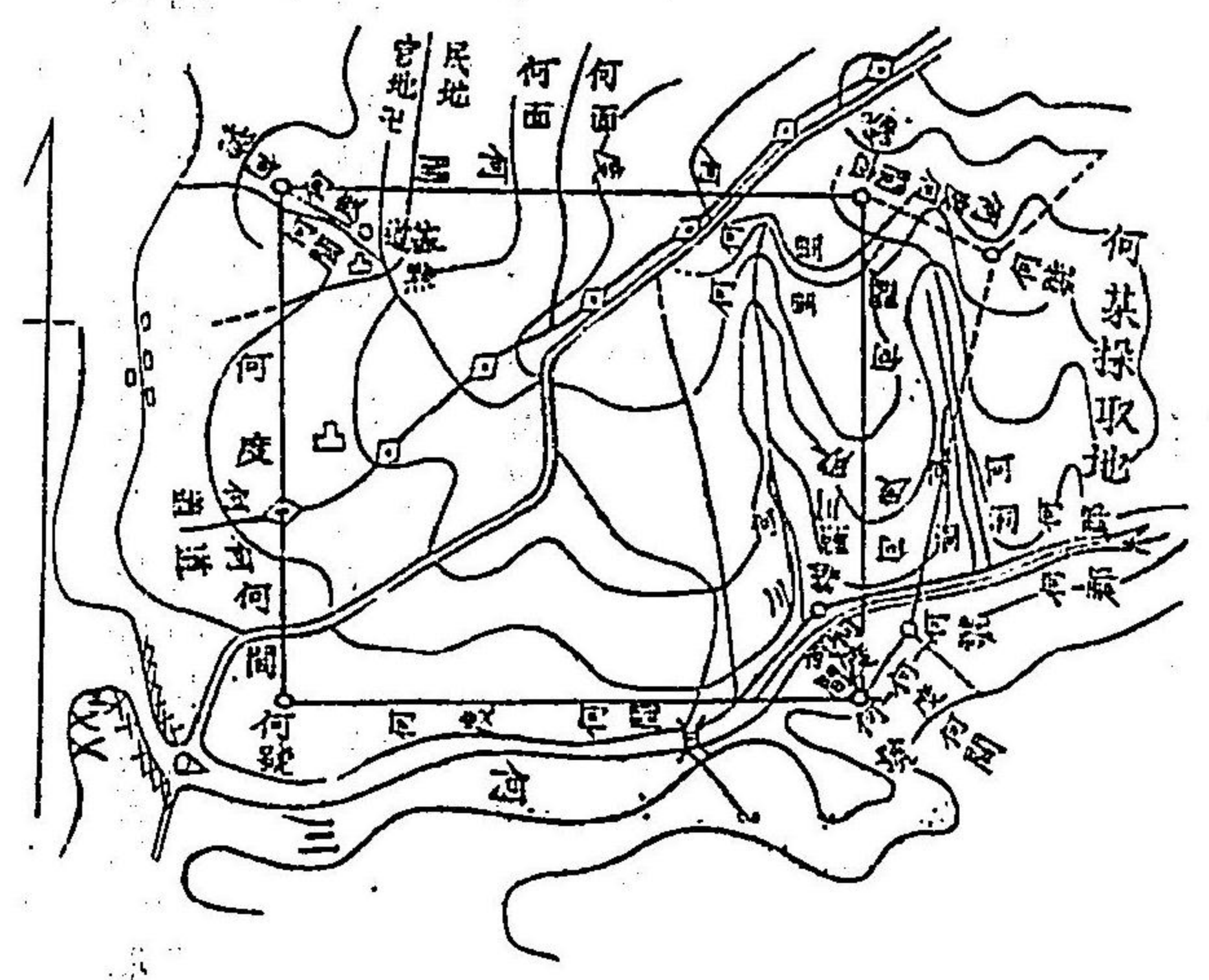
名 印

名 印

採取地境界線

採取地境界線	道郡面洞	山	河道	橋	渡	堤	神	道	石	家
採取地境界線	界	居地	川	梁	場	防	閣	佛	碑	屋

符 號



附 録

(注意)

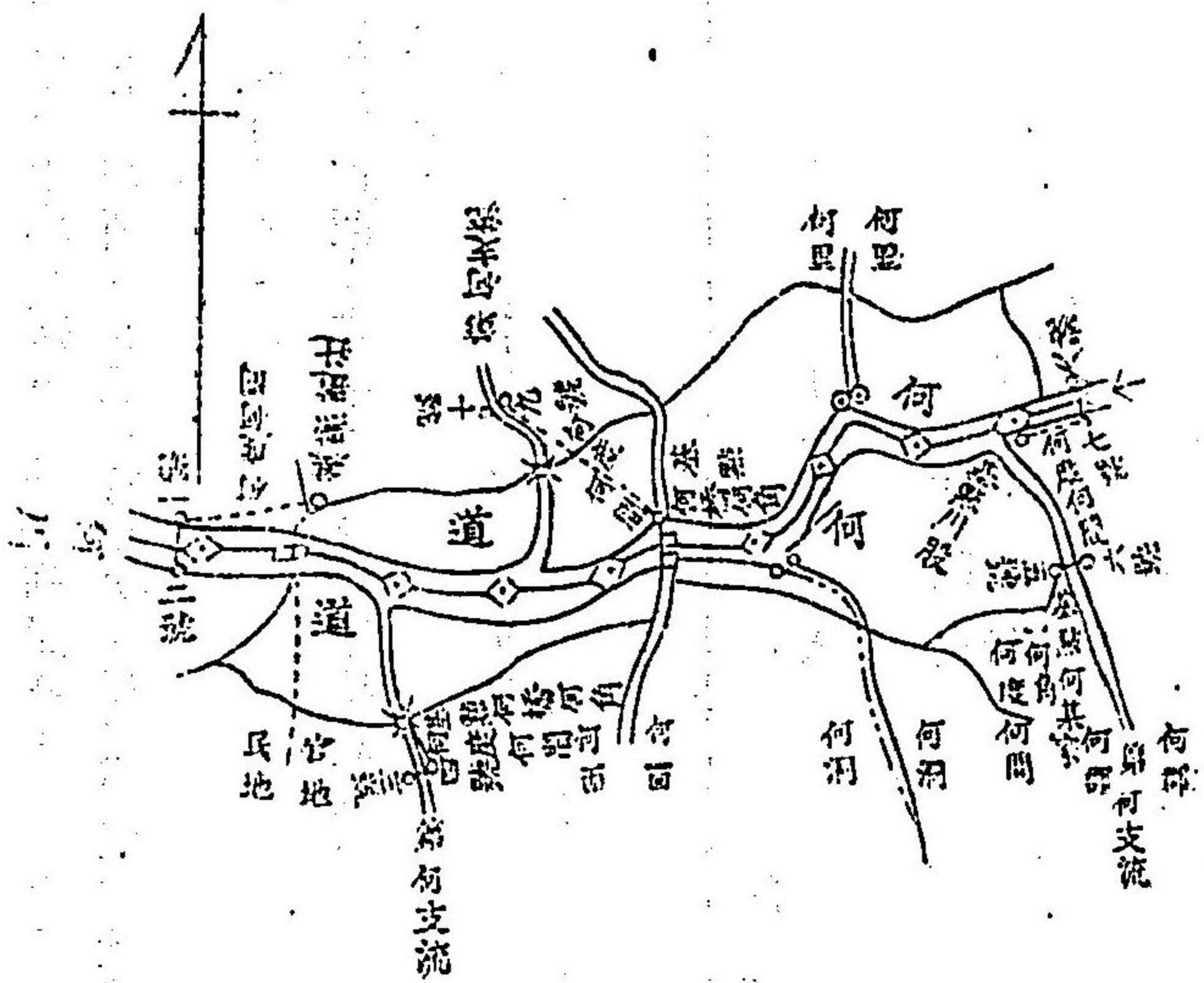
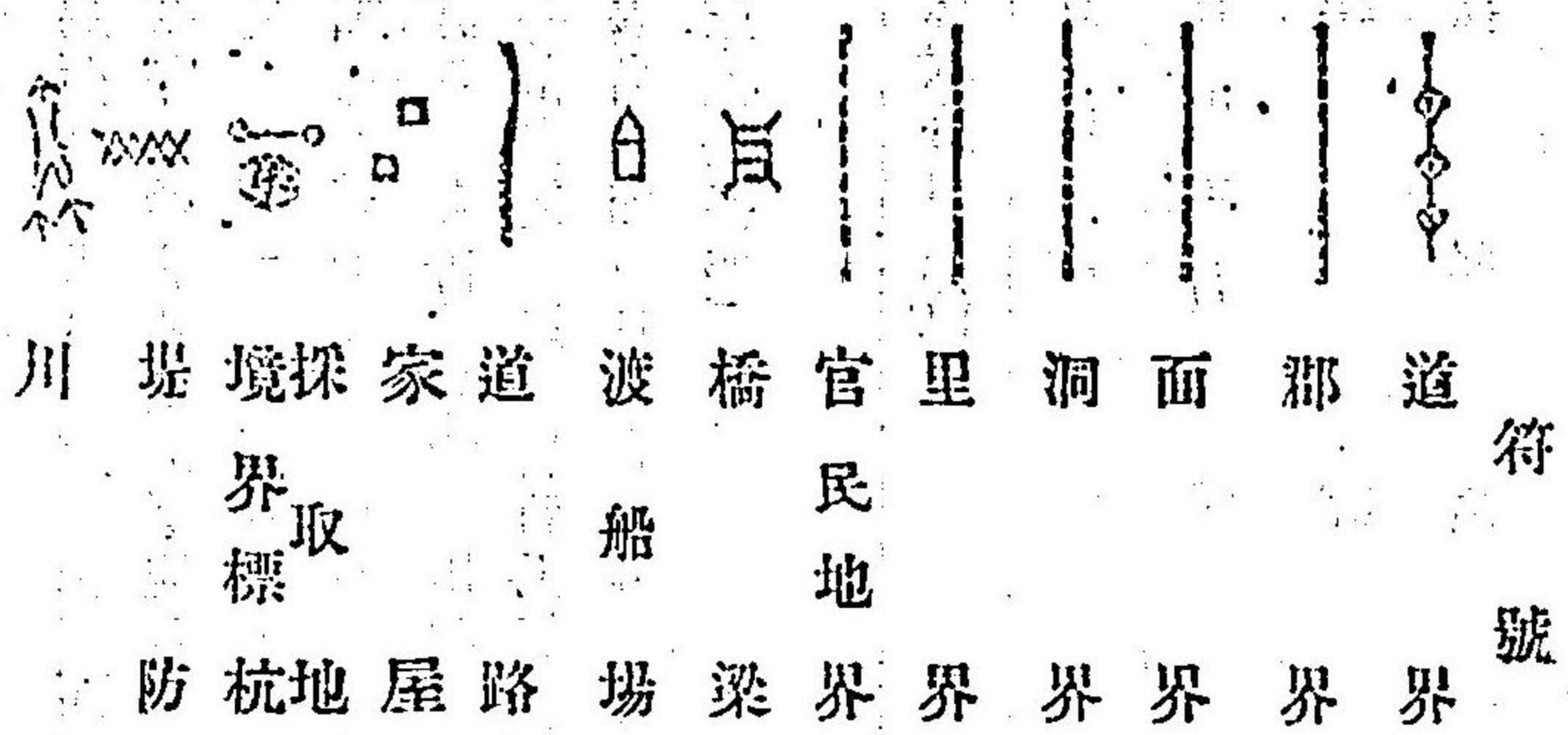
- 一 圖面用紙ハ可成礮水引美濃紙又ハ之ニ類スル用紙ヲ用ユヘシ此場合ニハ「インキ」ヲ使用スヘカラス
- 二 鉛筆ヲ使用スヘカラス
- 三 圖面ニ地目別ヲ顯ニハ左記諸色ヲ用ユヘシ
 - 山林(淡綠色) 田(淡藍色) 畑(黃色) 宅地(褐色) 水(濃藍色) 原野(淡鼠色) 地形線(鼠色)
- 四 基點ハ特稱アル橋梁、家、辻、川股、標石其他近傍ニアル顯著ニシテ移動セサルモノヲ擇フヘシ
- 五 縮尺ハ三千分ノ一又ハ六千分ノ一ニ調製スヘシ
- 六 訂正、合併、分割ノ出願圖ハ鐵業法施行細則樣式第十二號ニ準據調製スヘシ
- 七 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
- 八 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

樣式第十二號(五通)
砂(金)(錫)(鐵)採取地實測圖 尺度何分之一

何道何郡何面何洞 何川筋
延長 何町

幹流 何町
内 第一支流何川何町
第二支流何川何町
光武何年何月何日出願

出願人住所 氏名
測量者住所 氏名



一 號 間 何 度 何 間
二 號 間 何 度 何 間
三 號 間 何 度 何 間
四 號 間 何 度 何 間
五 號 間 何 度 何 間
六 號 間 何 度 何 間
七 號 間 何 度 何 間
八 號 間 何 度 何 間
九 號 間 何 度 何 間

(注意)

- 一 圖面用紙ハ可成禁水引美濃紙又ハ之ニ類スル用紙ヲ用ユヘシ此場合ニハ「インキ」ヲ使用スヘカラス
 - 二 鉛筆ヲ使用スヘカラス
 - 三 圖面ニ肩書スル道、郡、面、洞、里ハ兩岸ニ接スル分ヲ列記スルモノナリ
 - 四 基點ハ幹流ノ上流下流及各支流ニ各一箇所ツツ設ケ特稱アル橋梁、家、辻、川股、標石其他近傍ニアル顯著ニシテ移動セサルモノヲ擇フヘシ
 - 五 縮尺ハ三千分ノ一又ハ六千分ノ一ニ調製スヘシ
 - 六 訂正、合併、分割ノ出願ハ鑛業法施行細則様式第十二號ニ準據調製スヘシ
 - 七 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
 - 八 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル
- 様式第十三號(三通)

採取許可區位置		採取人 住所 氏名 印
許可番號	許可年月日	
越	高	ハ坪數又
採	取	
計	高	

事記	人	工	殘	販	
				賣代	數
	員	數	高	價	量

(注意)

- 一 採取高砂金ハ及其他ハ貫ヲ單位トス
- 一 坪數又ハ町數ノ欄ニハ採取許可區ノ坪數若ハ其ノ延長町數ヲ記スヘシ但シ其ノ年十二月三十一日現在ヲ記入スルモノトス
- 一 人員ハ十二月三十一日現在ノ使役人員ヲ記入スヘシ
- 一 書留郵便ヲ以テ農商工部ニ差出スヘシ
- 一 署名捺印ハ日本人以外ノ外國人ニアリテハ署名スルノミニテ足ル

●國有土石採取規則

四十二年八月 改正 四十二年 統告第百二十四號

韓國政府ハ隆熙二年八月十三日勅令第五十八號ヲ以テ國有土石採取規則ヲ公布セリ其ノ譯文左ノ如シ

國有土石採取規則

第一條 國有ノ森林、山野其ノ他ノ土地ニ於ケル寶石類、雲母、磷礦、石材、泥炭、粘土等ノ土石採取ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ農商工部大臣ニ出願スヘシ

第二條 前條ノ出願ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載セル願書ニ採取地ノ圖面ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ差出スヘシ

一、採取地ノ位置及面積

二、採取セムトスル土石ノ種類

三、採取セムトスル土石ノ見積量及其ノ採取料見込額

四、採取期間

五、採取方法ノ概要

六、採取地及其ノ附近ノ狀況

圖面ニハ前項第一號及第六號ノ事項及採取地ノ區域ヲ明示スヘシ

第三條 左ニ掲ケル場所ニ於テハ土石採取ヲ爲シ又ハ土石採取業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ農商工部大臣ハ危害ナク又景致ヲ損傷セサルモノト認ムル場合ニハ第三號及第四號ノ箇所ニ對シ特ニ土石ノ採取許可ヲ爲スコトヲ得

一 皇城及離宮ノ周圍三百間以内

一 皇陵、園、墓、壇ノ火葬以内

一 陸海軍所轄ノ城壕、要港、火藥庫、彈藥庫及官廳、歷代殿陵ノ周圍三百間以内

一 鐵道、軌道、道路、運河、河湖、沼池、堤塘、社寺境内地、公園地、墳墓及建物ノ周圍五十間以内

第四條 土石採取ノ許可ヲ受ケタル者ハ土石採取料ヲ納付スヘシ

土石採取料ノ金額ハ農商工部大臣之ヲ定ム

第五條 農商工部大臣ハ公用又ハ公益事業ノ爲要スル土石ノ採取ニ付テハ採取料ヲ免除スルコトヲ得

第六條 土石採取權ハ相續、讓渡及抵當ノ目的ト爲スコトヲ得

土石採取權ノ讓渡又ハ抵當ハ農商工部ニ申請シ登錄ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第七條 土石採取權者ハ其ノ作業ノ爲生スヘキ危険ニ對シ豫防ヲ爲スヘシ

農商工部大臣ハ前項ノ危険豫防ノ爲必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第八條 左ノ場合ニ於テハ農商工部大臣ハ土石採取權ヲ取消スコトヲ得

一、錯誤ニ因リ許可ヲ與ヘタルコトヲ發見シタルトキ

二、正當ナル事由ナクシテ一箇年以上休業シ又ハ許可ヲ受ケタル日ヨリ一箇年以内ニ事業ニ著手セサルトキ

三、採取料ヲ指定ノ期間内ニ納付セサルトキ

四、前條第二項ノ命令ヲ遵守セサルトキ

五、許可ノ條件ニ違背シタルトキ

六、作業カ公益ヲ害スト認ムルトキ

農商工部大臣前項ノ規定ニ依リ土石採取權ヲ取消シタルトキハ既納ノ採取料ノ全部又ハ一部ヲ還付スルコトヲ得

農商工部大臣ハ第一項第三號ノ事由ニ因リ土石採取權ヲ取消シタルトキハ既ニ採取シタル土石ノ全部又ハ一部ノ納入ヲ命シ又ハ其ノ價格ヲ追徴スルコトヲ得

第九條 農商工部大臣ハ本令ニ基ク權限ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ土石採取ノ許可ヲ得タル者ハ本令施行ノ日ヨリ五箇月以内ニ地方長官ヲ經由シ農商工部大臣ノ認證ヲ申請スヘシ其ノ認證ヲ受ケタルトキハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ國有森林山野及産

物處分規則ニ依リ賣下ノ許下ヲ得タル者及本令施行前ニ鐵業權ノ特許ト共ニ土石採取ノ特許ヲ得タル外國人ハ認證ヲ要セス本令ニ依リ許可シタルモソト看做ス

● 國有未墾地利用法 四十年七月 統告第九十七號

韓國政府ハ本年七月四日法律第四號國有未墾地利用法ヲ發布セリ其ノ譯文左ノ如シ
法律第四號

國有未墾地利用法

第一條 國有未墾地トハ民有ニ非サル原野、荒蕪地、草生地、沼澤地及干涸ヲ謂フ

第二條 國有未墾地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ貸付スルコトヲ得

貸付期間ハ十箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 貸付ヲ受ケタル者豫定ノ事業ヲ成功シタルトキハ農商工部大臣ハ其ノ貸付ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ土地ヲ拂下又ハ付與スルコトヲ得

第四條 貸付ヲ受ケムトスル者ハ農商工部大臣ニ出願シ許可ヲ受クヘシ

第五條 貸付ヲ受ケタル者ハ農商工部大臣ノ定ムル所ニ依リ貸付料ヲ納付スヘシ

農商工部大臣ハ公益其ノ他ノ事由ニ依リ必要ト認ムルトキハ貸付料ヲ減免スルコトヲ得

第六條 貸付ヲ受ケタル者ハ農商工部大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ權利ヲ賣買、讓與シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

貸付ヲ受ケタル者ノ權利ハ之ヲ相續スルコトヲ得

第七條 國有未墾地利用ノ方法公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ農商工部大臣ハ其ノ改良又ハ停止ヲ命スヘシ

第八條 農商工部大臣ハ左ノ場合ニ於テ貸付ノ許可ヲ取消スコトヲ得

- 一 詐偽又ハ錯誤ニ依リテ許可ヲ與ヘタルコトヲ發見シタルトキ
- 二 貸付ヲ受ケタル日ヨリ一箇年以内ニ事業ニ著手セザルトキ又ハ著手後相當ノ事由ナクシテ豫定ノ進行ヲ爲サザルトキ

三 前條ノ命令ニ從ハザルトキ

四 貸付ノ許可ノ條件ニ違背シタルトキ

五 法定又ハ指定ノ期間内ニ貸付料又ハ罰金ヲ納付セザルトキ

第九條 本法ニ依リ拂下又ハ付與シタル土地ノ稅率ハ其ノ翌年ヨリ五箇年間ハ其ノ土地所在ノ道ニ於ケル最下級ニ屬スル土地ノ負擔ノ三分ノ一トス

第十條 自己ノ便宜ニ依リ貸付ヲ受ケタル土地ヲ返還シタル場合又ハ第八條ノ規定ニ依リ貸付ノ許可ヲ取消シタル場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル構築物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ハ農商工部大臣ノ指定スル期間内ニ之ヲ除去スヘシ其ノ期間内ニ除去セザルトキハ其ノ物件ハ國ノ所有ニ歸ス

第十一條 本法ノ規定ニ依ラスシテ國有未墾地ヲ利用シタル者ハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ處分ハ農商工部大臣之ヲ行フ

第十二條 本法ヲ施行スルニ必要ナル命令ハ農商工部大臣之ヲ定ム

第十三條 本法及施行細則ノ規定ニ依ル處分ハ統監ノ同意ヲ經ルヲ要ス

第十四條 三町步(九千坪)ヲ超ヘサル國有未墾地ノ利用ニ付テハ當分ノ間舊慣ニ依リ本法ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

附 則

第十五條 本法發布前ニ國有未墾地ノ利用ノ許可ヲ受ケ其ノ效力尙存續スルモノニ付テハ本法施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ農商工部大臣ノ認證ヲ請フヘシ其ノ認證ヲ受ケタルトキハ第四條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

一六〇
認證ヲ受ケタル者其ノ事業ヲ成功シタルトキハ農商工部大臣ハ其ノ認證ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ土地ヲ拂下又ハ付與ス

第十六條 本法ニ牴觸スル法令ハ之ヲ廢止ス
第十七條 本法ハ光武十一年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●國有未墾地利用法施行細則 四十年七月 統告第九十八號

韓國政府ハ本年七月農商工部令第五十號國有未墾地利用法施行細則ヲ發布セリ其ノ譯文左ノ如シ
農商工部令第五十號

國有未墾地利用法施行細則

- 第一條 開墾、牧畜、植樹、製鹽、養魚等ノ事業ノ爲國有未墾地ノ貸付ヲ受ケタル者豫定ノ事業ヲ成功シタルトキハ農商工部大臣ハ其ノ貸付ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ土地ヲ付與ス其ノ一部ニ付テ成功シタルトキハ其ノ部分ニ限リ之ヲ付與スルコトアルヘシ
- 公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲貸付ヲ受ケタル者又ハ農民若ハ漁民ニシテ宅地トシテ貸付ヲ受ケタル者豫定ノ事業ヲ成功シタルトキ亦前項ニ同シ
- 第二條 前條ニ該當セサル事業ノ爲國有未墾地ノ貸付ヲ受ケタル者豫定ノ事業ヲ成功シタルトキハ農商工部大臣ハ其ノ貸付ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ土地ヲ拂下ク
- 第三條 國有未墾地ノ貸付ハ一出願ニ付百町歩ヲ超ユルコトヲ得ス但シ土地ノ狀況其ノ他農商工部大臣ニ於テ相當ト認ムル理由アルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 貸付ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ左ニ掲クル書類及圖面ヲ添ヘ差出スヘシ
- 一 出願地及鄰接地ノ現況書
 - 二 出願地及鄰接地ノ現形圖

- 三 事業計畫書
 - 四 事業豫定圖
 - 五 貸付面積百町歩ヲ超ユルトキハ其ノ理由書
 - 六 拂下ヲ受ケムトスルトキハ拂下價格並納付方法
- 第五條 出願地及鄰接地ノ現況書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ
- 一 出願地ノ所在
 - 二 出願地ノ種類、各種類ノ面積及總面積
 - 三 出願地及鄰接地ノ狀況
- 第六條 出願地及鄰接地ノ現形圖ニハ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ
- 一 出願地ノ境界
 - 二 出願地ノ種類、各種類ノ形狀
 - 三 出願地及鄰接地ノ狀況
 - 四 道路、河川、池沼、堤塘、橋梁等
 - 五 水流ノ方向
 - 六 道、郡、面、洞、里ノ境界並其ノ名稱
 - 七 方位
- 第七條 事業計畫書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ
- 一 利用ノ目的
 - 二 經營ノ方法
 - 三 事業ノ收支豫算
 - 四 事業著手ノ時期

- 五 貸付ヲ受ケムトスル期間
- 六 開墾、牧畜、植樹、製鹽、養魚等ノ爲貸付ヲ受ケムトスルトキハ毎年事業ヲ成功スヘキ土地ノ種類及其ノ面積
- 七 開墾ノ爲貸付ヲ受ケムトスルトキハ自作又ハ小作ノ別及小作開墾ナルトキハ小作人トノ主ナル權利義務ノ關係
- 第八條 事業豫定圖ニハ左ニ掲ケル事項ヲ示スヘシ
 - 一 第六條第一號及第四號乃至第七號ノ事項
 - 二 計畫ノ土地ノ種類及形狀
 - 三 土地ノ一部カ小作開墾ナルトキハ其ノ部分
- 第九條 二人以上共同シテ貸付ヲ受ケムトスル者又ハ之ヲ受ケタル者ハ代表者一人ヲ定メ農商工部大臣ニ届出ツヘシ
- 第十條 貸付ヲ受ケムトスル者若ハ之ヲ受ケタル者又ハ其ノ代理人國內ニ住所ヲ有セサルトキハ假住所ヲ定メ農商工部大臣ニ届出ツヘシ
- 第十一條 農商工部大臣必要ト認ムルトキハ期間ヲ指定シ出願地ノ實測圖ヲ差出サシムヘシ實測圖ニハ第六條各號ノ事項ヲ詳細ニ示スヘシ
- 第十二條 農商工部大臣貸付ヲ許可スルトキハ許可書ヲ下附ス
 - 前項許可書ニハ付與又ハ拂下ヲ爲スヘキ旨及拂下ニ在リテハ其ノ價格ヲ明記ス
- 第十三條 貸付ヲ受ケタル者ハ許可ヲ受ケタル日ヨリ二箇月以内ニ其ノ土地ノ境界ニ標識ヲ建ツヘシ
 - 前項標識ニハ許可ノ年月日及許可ヲ受ケタル者及代理人ノ氏名住所又ハ假住所ヲ記載スヘシ
- 第十四條 貸付料ハ一町歩毎ニ一箇年五十錢トス一町歩ニ滿タサル端數ハ一町歩ト見做シテ之ヲ計算ス
 - 貸付料ハ毎年十二月翌年分ヲ前納スヘシ但シ許可ノ年ニ係ル貸付料ハ月割ヲ以テ即納スヘシ

- 既納ノ貸付料ハ之ヲ還付セス
- 第十五條 貸付料ノ減免ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ減免ヲ受ケムトスル土地ノ所在、金額、期間及理由ヲ記載シテ之ヲ差出スヘシ
- 第十六條 貸付ヲ受ケタル者其權利ヲ賣買、讓與シ又ハ擔保ニ供セムトスルトキハ買受人、讓受人又ハ債權者ト連署シ許可書ヲ添ヘ差出スヘシ
 - 相續ノ届出ヲ爲ス者ハ届書ニ相續ヲ證スル書類及許可書ヲ添付スヘシ
- 第十七條 農商工部大臣貸付ノ許可ニ依リ從來其ノ土地ニ關シ利害關係ヲ有スル者ニ損害アリト認ムルトキハ貸付ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ損害ノ補償ヲ命スルコトアルヘシ補償金額ニ付當事者間ニ協議關ハサルトキハ農商工部大臣之ヲ裁定ス
- 第十八條 貸付ヲ受ケタル者事業ノ計畫ヲ變更セムトスルトキハ之ニ關スル事業計畫書、事業豫定圖及理由書ヲ差出シ農商工部大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十九條 貸付ヲ受ケタル者ハ毎年三月其ノ前年ニ於ケル事業ノ成績ヲ農商工部大臣ニ届出ツヘシ
- 第二十條 貸付ヲ受ケタル者其ノ事業ヲ成功シタルトキハ其ノ土地ノ所在、面積及事業成功ノ狀況ヲ記シ實測圖ヲ添付シテ農商工部大臣ニ付與又ハ拂下ヲ申請スヘシ
 - 前項ノ實測圖ニハ第六條第一號乃至第七號ノ事項ヲ示スヘシ
- 第二十一條 貸付ヲ受ケタル者取消其ノ他ノ事由ニ依リ權利ヲ喪失シタルトキハ直ニ許可書ヲ返納スヘシ
- 第二十二條 本令ニ依ル願書、申請書、届書其ノ他ノ書類及圖面ハ外國人ニ在リテハ統監府ヲ經由シ農商工部大臣ニ差出スヘシ
- 第二十三條 第九條第十條第十三條第十九條及第二十一條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第十七條ニ基ク補償ヲ爲ササル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 前項ノ處分ハ農商工部大臣之ヲ行フ

第二十四條 國有未墾地利用法第十五條ノ規定ニ依リ認證ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ其ノ權原ヲ證スル書類及第四條ニ掲クル書類圖面ヲ添ヘ差出スヘシ現ニ事業ニ著手セルトキハ其ノ成功部分ノ狀況ヲ現況書及現形圖ニ記載スヘシ

前項ノ認證ニ付テハ第十一條ノ規定ヲ準用ス

第二十五條 本令ハ國有未墾地利用法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●森林法及國有森林山野部分林規則

四十一年三月
統告第四十七號

明治四十一年一月二十四日韓國政府ニ於テ公布シタル法律第一號森林法及同年三月十八日韓國政府ニ於テ公布シタル農商工部令第六十三號國有森林山野部分林規則譯文左ノ如シ

森林法

第一條 森林ハ其ノ所有者ニ依リ之ヲ分チテ帝室林、國有林、公有林及私有林トス

山野ハ森林ニ準シテ本法ヲ適用ス

第二條 國有森林山野ノ賣却、讓與、交換又ハ貸付及國有森林產物ノ賣却ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

國土保安又ハ國有林野ノ經營上國有保存ノ必要アル森林山野ハ之ヲ賣却、讓與、交換又ハ貸付スルコトヲ得ス

第三條 農商工部大臣ハ造林者ト其ノ收益ヲ分收スルノ條件ヲ以テ國有森林山野ニ部分林ヲ設定スルコトヲ得

第四條 部分林ノ樹木ハ國ト造林者トノ共有トシ其ノ持分ハ收益分收ノ部分ニ均シキモノトス
部分林設定前ヨリ生存スル樹木ハ國ノ所有トス

第五條 農商工部大臣ハ左ニ記載スル箇所ヲ保安林ニ編入スルコトヲ得

- 一 土地墾崩流出ノ防備ニ必要ナル箇所
- 二 飛砂ノ防備ニ必要ナル箇所
- 三 水害、風害、潮害ノ防備ニ必要ナル箇所
- 四 頽雪、墜石ノ危險ヲ防止スルニ必要ナル箇所
- 五 水源ノ涵養ニ必要ナル箇所
- 六 魚附ニ必要ナル箇所
- 七 航行ノ目標ニ必要ナル箇所
- 八 公衆ノ衛生ニ必要ナル箇所
- 九 壇、廟、社、殿、宮、陵、園又ハ名所或ハ舊跡風致ニ必要ナル箇所
- 第六條 保安林ハ皆伐シ又ハ開墾スルコトヲ得ス
- 第七條 農商工部大臣ハ保安林ノ伐木ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得
- 第八條 保安林ニ編入セラレタル爲損害ヲ蒙リタル森林所有者ハ其ノ伐木ヲ禁止セラレタル場合ニ於ケル直接ノ損害ニ限り補償ヲ請求スルコトヲ得但シ國有林又ハ帝室林ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ補償ハ保安林編入ニ依リ直接ノ利益ヲ蒙ル者其ノ責ニ任ス
- 第九條 農商工部大臣ハ保安林編入ノ原因消滅シ又ハ公益上特別ノ事由生シタルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得
- 第十條 農商工部大臣ハ保安ノ必要アル森林山野所有者ニ對シ其ノ造林及保護ヲ命スルコトヲ得
- 所有者前項ニ依リ命令セラレタル事項ヲ行ハサルトキハ農商工務大臣之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收シ若ハ之ヲ部分林ニ編入スルコトヲ得
- 前項部分林ニ編入シタルモノハ本法第三條及第四條ノ規定ヲ適用ス

第十一條 森林ニ害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ森林所有者ハ直ニ之ヲ驅除豫防スヘシ
前項ノ場合ニ於テ農商工部大臣ハ害蟲ノ驅除又ハ豫防ノ爲必要ナル處置ヲ該森林所有者ニ命令スルコトヲ得

所有者前項ノ命令ニ從ハサルトキハ農商工部大臣之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收スルコトヲ得

第十二條 農商工部大臣ノ許可ナクシテ森林山野ヲ開墾スルコトヲ得ス

第十三條 所有者ノ許諾ヲ受クルニ非サレハ森林山野ニ墳墓ヲ設クルコトヲ得ス

第十四條 地方官又ハ警察官吏ノ許可ヲ受クルニ非サレハ森林山野ニ火入ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 森林ニ於テ其ノ主副産物ヲ竊取シタル者ハ刑法第六百二條及第六百三條ニ準シ處罰ス

第十六條 他人ノ森林山野ヲ開墾シ又ハ之ニ放火シタル者ハ刑法第六百六十九條但書ニ準シ處罰ス

第十七條 他人ノ所有ニ屬スル森林ノ樹木ヲ傷害シタル者、森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉シ又ハ毀壞シタル者及第六條、第十二條乃至第十四條ノ規定又ハ第七條ノ命令ニ違背シタル者ハ禁獄又ハ一圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 本法ヲ施行スルニ必要ナル命令ハ農商工部大臣之ヲ定ム

附則

第十九條 森林山野ノ所有者ハ本法施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ森林山野ノ地籍及面積ノ見取圖ヲ添附シ農商工部大臣ニ届出ツヘシ期限内ニ届出ナキモノハ總テ國有ト看做ス

第二十條 森林法發布以前ニ於テ國有森林山野ニ植樹ノ許可ヲ受ケ其ノ効力尙存續スルモノハ本法施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ部分林ノ設定ヲ農商工部大臣ニ請願シ認證ヲ受ケタルトキハ第四條ノ規定ニ依リ部分林ヲ設定シタルモノト看做ス

前項ノ期日內ニ請願セサルトキハ植樹ノ許可ハ其ノ効力ヲ失フ

第二十一條 森林法發布以前ニ於テ國有森林山野ノ伐木若ハ森林山野貸下ノ許可ヲ受ケ其ノ効力尙存續スルモノハ本法施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ出願セサルトキハ伐木又ハ貸下ノ許可ハ其ノ効力ヲ失フ

ルモノハ本法施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ農商工部大臣ニ請願シテ認證ヲ受クヘシ

前項ノ期日內ニ出願セサルトキハ伐木又ハ貸下ノ許可ハ其ノ効力ヲ失フ
第二十二條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國有森林山野部分林規則

第一條 森林法第三條ニ依ル部分林ノ設定ハ本則ノ定ムル所ニ依ル

第二條 部分林ノ設定地域ハ五町步（一町三十步）ヲ下ルコトヲ得ス

第三條 部分林ノ存續期間ハ百年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第四條 部分林ハ伐期前ニ於テ之ヲ伐採スルコトヲ得ス

伐期ハ部分林設定ノ翌年ヨリ喬林ニ在リテハ二十年、矮林ニ在リテハ五年以内タルコトヲ得ス

第五條 部分林ノ收益分收ノ部合ハ農商工部大臣之ヲ定ム

造林者ノ分收部合ハ十分ノ九ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 部分林設定後天然ニ生育シタル樹木ハ之ヲ部分林ノ樹木ト看做ス

第七條 根株ハ特別ノ定アル場合ヲ除ク外國ノ所有トス

第八條 部分林ヲ設定セムトスル者ハ第一號様式ノ願書ニ第二號様式ノ造林設計書及第三號様式ノ造林豫定圖ヲ添ヘ農商工部大臣ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第九條 農商工部大臣部分林ノ設定ヲ許可シタルトキハ第四號様式ノ許可證ヲ交付スヘシ

前項ノ許可證ヲ受ケタル者ハ一週間內ニ第五號様式ノ請書ヲ差出スヘシ

第十條 農商工部大臣ハ第六號様式ノ國有森林山野部分林臺帳ヲ調製シ部分林ノ登録ヲ爲スヘシ

第十一條 造林者ハ部分林設定ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ五十日以内ニ第七號様式ノ境界標ヲ建設スヘシ

第十二條 造林者ハ左記ノ事項ニ關シ部分林ヲ保護スルノ義務ヲ負フ

- 一 火災ノ豫防及消防
- 二 盜伐、誤伐、冒認、侵墾其ノ他ノ加害行為ノ豫防及防止
- 三 有害動植物ノ豫防及驅除
- 四 境界標其ノ他標識ノ保存
- 五 天然生雜樹ノ保存

第十三條 造林者ハ左ノ場合ニ於テハ直ニ農商工部大臣ニ届出ヘシ

- 一 部分林ノ植樹、補植、手入其ノ他造林ニ必要ナル行為ヲ爲サムトスルトキ
- 二 事業設計ニ基キ其ノ一箇年分又ハ全部ノ植樹ヲ終リタルトキ
- 三 部分林又ハ其ノ木、竹ニ異狀ヲ生シタルトキ
- 四 部分林ノ樹木ノ數ニ變更ヲ生シタルトキ
- 五 採取スヘキ主産物ノ搬出ヲ リタルトキ
- 六 部分林ニ管理人若ハ看守人ヲ置キタルトキ又ハ之ヲ變更シタルトキ
- 七 造林者、氏名、住所ヲ變更シタルトキ

第十四條 造林者部分林ニ管理人又ハ看守人ヲ置キタルトキハ部分林存續期間内部分林又ハ其ノ接近ノ國有森林山野ニ於テ地域ヲ撰定シ農商工部大臣ノ許可ヲ得テ百町歩ニ付一戸ノ割合ヲ以テ一戸ニ付一町歩以内ノ耕作地ヲ設クルコトヲ得

前項ノ耕作地ハ無料貸付スルモノトス

第十五條 造林者ハ左ニ記載スル産物ヲ採取スルノ權利ヲ有ス

- 一 下草、落葉及落枝
- 二 樹實及菌類ノ類
- 三 喬林植樹後伐期四分ノ一以内ノ年數ニ於テ手入ノ爲伐採スル樹木及枝條

第十六條 造林者伐期ニ達シタル部分林ヲ伐採セムトスルトキハ第八號様式ノ願書ヲ農商工部大臣ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第十七條 造林者第十五條ニ依リ産物ノ採取ヲ爲サムトスルトキハ同條第一號及第二號ノ物件ニ在リテハ其ノ旨農商工部大臣ニ届出テ第三號ノ物件ニ在リテハ農商工部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 部分林ノ收益ハ其ノ樹木ノ賣拂代金ヲ以テ分收ス
國ニ於テ伐期後樹木ヲ保存スルノ必要アルトキハ材積ヲ以テ分收スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ造林者立會ノ上其ノ分收スヘキ樹木ヲ指定スヘシ

第十九條 前條第一項ノ場合ニ於テ樹木ノ賣拂ハ農商工部大臣之ヲ行フ

造林者ハ國ノ收益部分ニ對スル代金ヲ上納シテ特賣ヲ受クルコトヲ得

第二十條 第十八條第二項ノ場合ニ於テハ造林者ハ農商工部大臣ノ指定シタル期間内ニ其ノ分收樹木ノ搬出ヲ終ルヘシ

前項ノ搬出期間ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス但シ農商工部大臣ハ止ムヲ得サル事由アリト認ムルトキハ一年ヲ超ヘサル範圍内ニ於テ搬出期間ヲ伸長スルコトヲ得

搬出期間内ニ搬出ヲ終ラサル樹木ハ國ノ所有ニ歸ス

第二十一條 部分林ニ損害ヲ加ヘタル第三者ヨリ賠償トシテ得タル金額ハ分收部合ニ依リ之ヲ分收ス

第二十二條 天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因リ部分林設定ノ許可無効トナリタル場合ニ於テハ現存ノ樹木ハ分收部合ニ依リ之ヲ分收ス

造林者止ムヲ得サル事由ニ因リ部分林設定ノ廢止ヲ願出テ農商工部大臣之ヲ許可シタル場合前項ニ同シ

第二十三條 造林者部分林ヲ讓渡シ、抵當ニ供シ又ハ他人ニ貸付シ若ハ使用セシメムトスルトキハ第九號様式ノ願書ヲ農商工部大臣ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第二十四條 造林者ノ權利ハ之ヲ相續スルコトヲ得

相續ニ因リ造林者ノ權利ヲ取得シタル者ハ相續者タルノ證明書ヲ添ヘ農商工部大臣ニ届出ヘシ
第二十五條 農商工部大臣ハ左ノ場合ニ於テハ部分林設定ノ許可ヲ取消スコトヲ得

一 詐偽又ハ錯誤ニ因リ許可ヲ與ヘタルコトヲ發見シタルトキ
二 植樹期間ノ始期ヨリ一箇年以内ニ事業ニ著手セサルトキ又ハ著手後相當ノ事由ナクシテ豫定ノ進行ヲ爲ササルトキ

三 植樹ヲ終リタル後五箇年ヲ過クルモ成林ノ見込ナキトキ
四 第四條、第十六條、第十七條ノ規定ニ違背シタルトキ又ハ第十二條ノ義務ヲ履行セサルトキ
五 造林者其ノ部分林ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ

第二十六條 部分林設定ノ許可ヲ取消シタルトキハ設定ノ日ニ遡リ地代ヲ徵收シ現存ノ樹木ハ國ノ所有トス但シ許可取消ノ原因カ造林者ノ責ニ歸スヘカラサルトキハ第二十二條ノ例ニ依ル
前項ノ規定ハ第十四條ノ耕作地ニモ之ヲ適用ス

第二十七條 國有森林山野部分林臺帳及圖面ノ謄本又ハ抄本ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ一通ニ付金十錢ノ割合ヲ以テ收入印紙ヲ貼付シ農商工部大臣ニ願書ヲ差出スヘシ

第二十八條 部分林ヲ他ノ目的ニ使用シ又ハ第二十三條ノ規定ニ違背シタルトキハ農商工部大臣ハ造林者ヲ五十圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得
第二十九條 第十一條及第十三條ノ規定ニ違背シタルトキ又ハ第二十四條第二項ノ規定ニ違背シタルトキハ農商工部大臣ハ造林者又ハ相續者ヲ十圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

附則
第三十條 森林法第二十條ニ依リ植樹許可ノ認證ヲ受ケムトスル者ハ第一號乃至第三號様式ニ準シ願書ヲ農商工部大臣ニ差出スヘシ

第三十一條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第一號様式

部分林設定願

何道何郡何面何里字何々國有森林山野
一面積何町何反何畝何歩

植付樹木ノ種類 何々々
收益分收部合 幾官幾民
植樹期間 何年何月ヨリ
存續期間 何年何月ニ至ル
伐 期 何年
伐採回数 何回

前記ノ條項ニ依リ部分林設定御許可相成度造林設計書及造林豫定圖相添此段相願候也
年 月 日 住 所

農商工部大臣宛

造林者 氏 名 印
(日本ノ以外ノ外國人ハ捺印ニ代ラルニ自署ヲ以テスル事ヲ得以下之ニ倣フ)

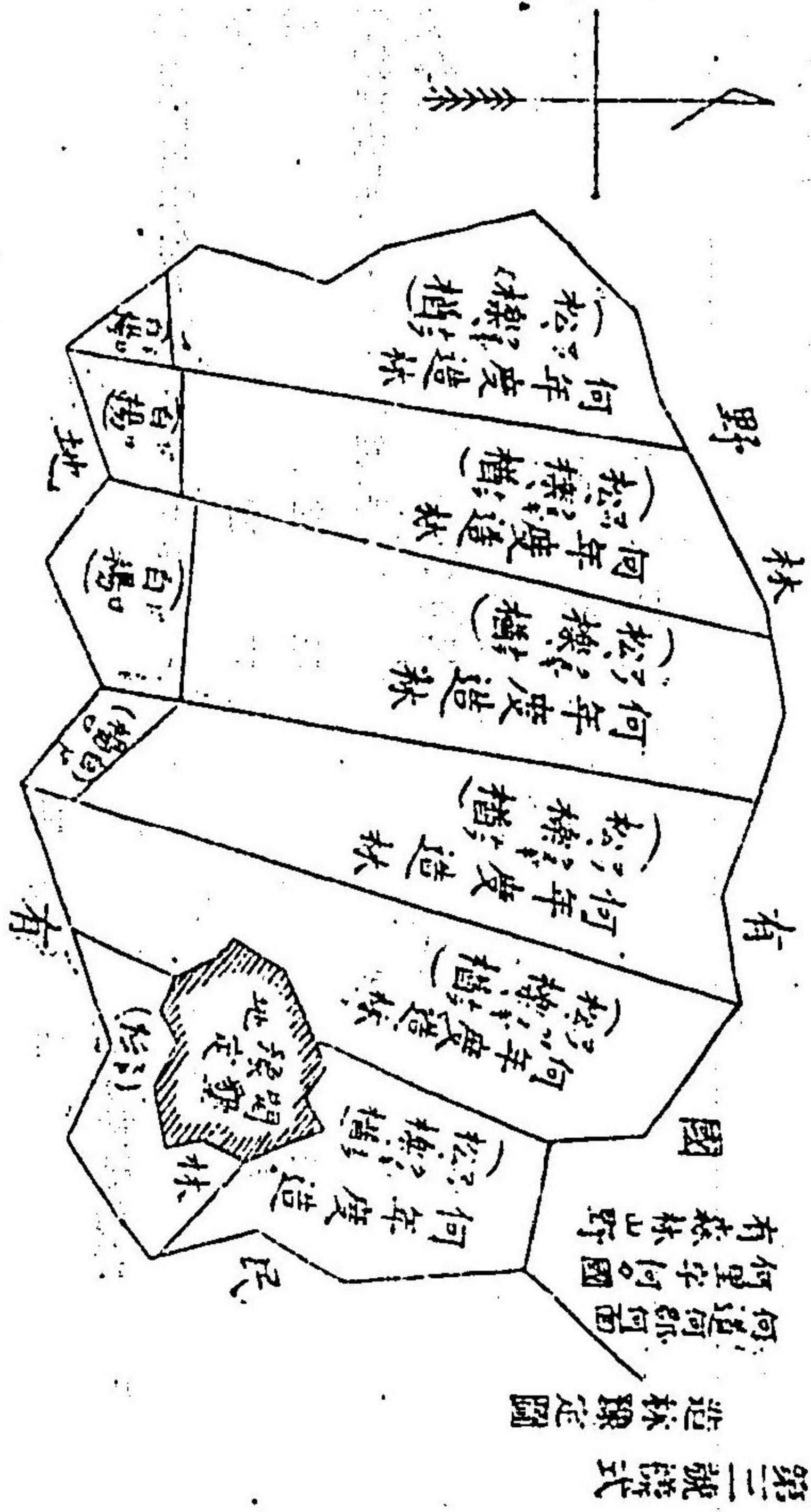
第二號様式

造林設計書

合計	何年度					何年度					植樹年度	樹種	面積	全苗數	一町歩當數	造林年限	植樹着手月日	植樹完了月日
	計	杉	白楊	檜	樺	計	白楊	檜	樺	松								
2,300,000	300,000	300,000	500,000	500,000	1,000,000	250,000	500,000	200,000	800,000	1,000,000			400,000	400,000				
2,130,000	1,380,000	180,000	150,000	150,000	300,000	850,000	150,000	60,000	250,000	400,000			300,000	300,000				
		6,000	3,000	3,000	3,000		3,000	3,000	3,000	3,000			3,000	3,000				
				何年			何年											
				何何			何何											
				日 月			日 月											
				何何			何何											
				日 月			日 月											

備考

二種以上ノ樹種混植ノトキハ面積ノ欄ニハ各見込面積ヲ掲クヘシ



第四號樣式

番 號		
部 分 林 許 可 證		住 所
	何道何郡何面何里字何々國有森林山野	部分林權利者 氏 名
	一 面 積	何 程
	何 樹 種	何 程
	、、(樹種數品アルモノハ列記ス)	
	收益分收部合	幾官幾民
	存續期間	何 年
	伐 期	何 年
	伐採回数	何 回
右部分林設定ヲ許可ス		
年 月 日		
農商工部大臣		

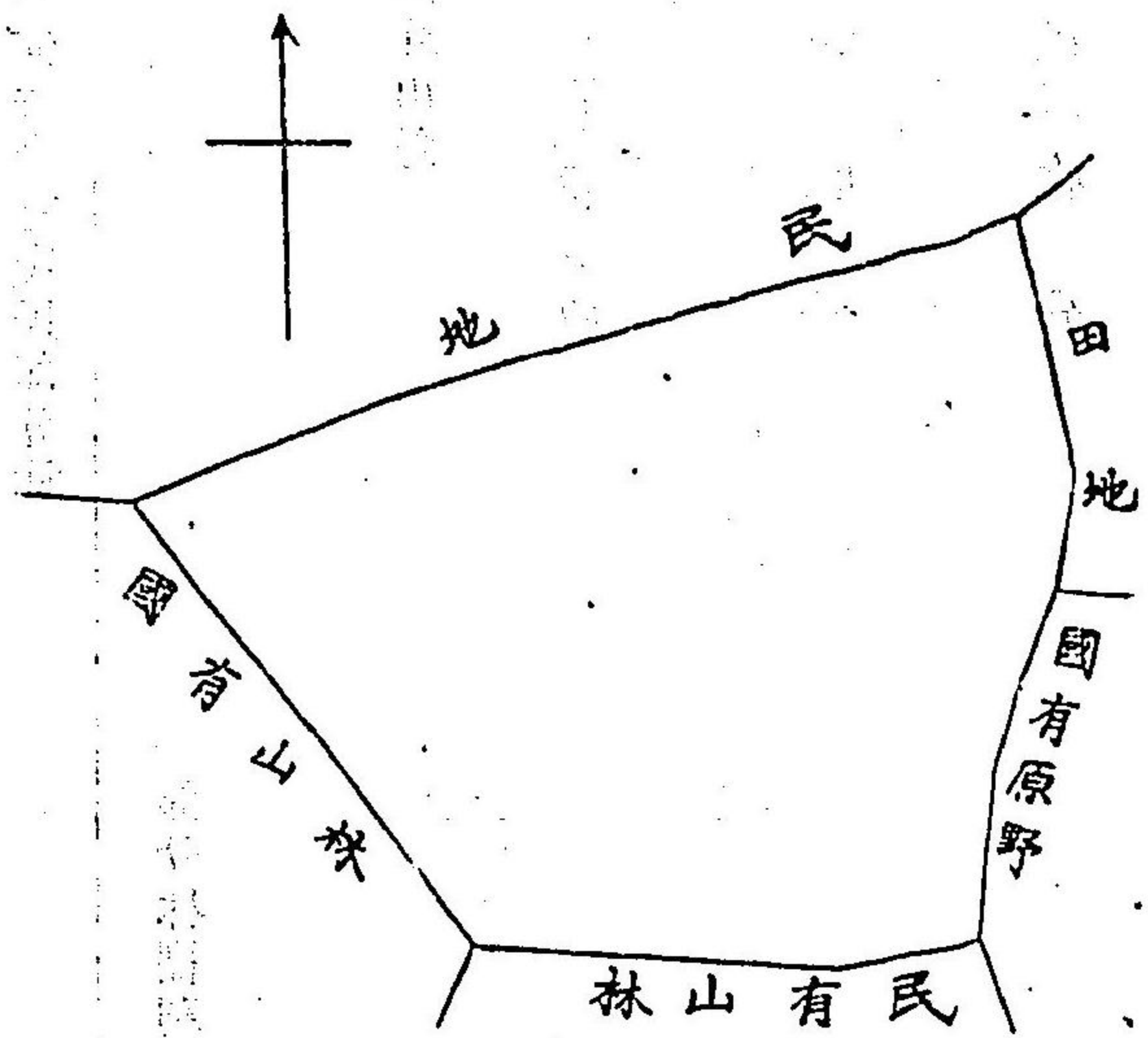
第五號樣式

請 書		
	何道何郡何面何里字何々	何 程
	一 面 積	何 程
	何 樹 種	何 程
	、、(樹種數品アルモノハ列記ス)	
	收益分收部合	幾官幾民
	存續期間	何 年
	伐 期	何 年
	伐採回数	何 回
	許可年月日	何 年何月何日
今般前書ノ通部分林設定御許可相成正ニ御請仕候也		
年 月 日		
農商工部大臣宛		
住 所		
部分林權利者 氏 名 印		

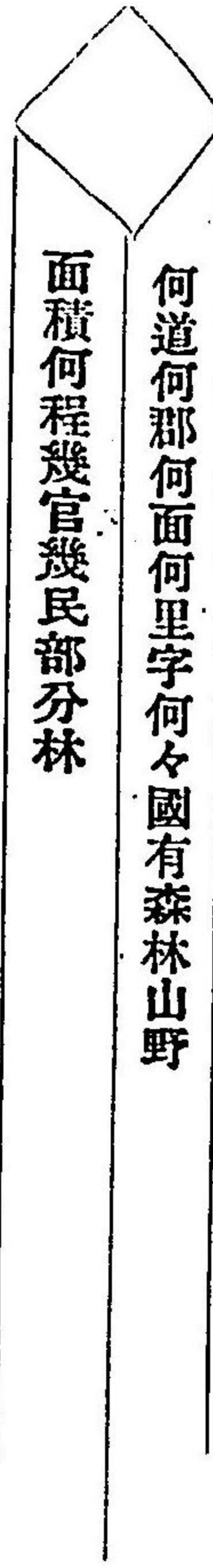
第六號樣式

國有森林山野部分林臺帳

第 號	面 積		境 界	地 勢 地 質	設 定 ノ 年 月 日	植 付 濟 年 月 日	存 續 期 間	伐 期	分 收 部 合	植 種	本 樹 種	其 異 動
	東	西										
道 郡 面 里 字 何 國 有 森 林 山 野												
	造 林 者 ノ 所 住 氏 名	設 定 ヨ リ 存 在 セ ル 樹 種 及 本 數	造 林 者 ノ 利 處 及 其 由	事 故								



第七號樣式 (寸法徑二寸以上地上高二尺五寸以上木標又ハ石標)



第八號樣式

部分林伐採願

何道何郡何面何里字何々國有森林山野

一面積何町何反何畝何步

一何樹種何程

此材積何尺ノ(棚)

内

何樹種何程

此材積何尺ノ(棚)

此代金何程

何樹種何程

此材積何尺ノ(棚)

此代金何程

右伐期何年月到達ニ付伐採ノ上分收致度候條此段相願候也

年 月 日

部分林權利者

氏

名

官 收 分

民 收 分

住 所

部分林權利者

氏

名 印

農商工部大臣宛
第九號樣式

何道何郡何面何里字何々國有森林山野

一面積何程

何樹種何程

幾官幾民分收

一許可證番號及年月日

右何某ニ讓渡(抵當ニ供シ)(貸渡)(使用セシメ)度候ニ付御許可相成度此段相願候也

年 月 日

住 所

部分林權利者

氏

名 印

(讓受人)(抵當權利者)

(借受人)(使用者)

氏

名 印

農商工部大臣宛

● 森林法施行細則

四十一年五月
統告第七十一號

森林法施行細則

第一章 通則

附 錄

第一條 森林法及其ノ附屬法令ニ依ル出願人又ハ契約當事者ノ代理人ハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

前項ノ出願人又ハ契約當事者二人以上ナルトキハ總代ヲ選定スヘシ

第二條 森林法及其ノ附屬法令ニ依ル出願人又ハ契約ノ當事者國內ニ住所ヲ有セサルトキハ假住所ヲ定メテ農商工部大臣ニ届出ツヘシ

第三條 森林法及其ノ附屬法令ニ依リ出願セムトスル者ニシテ國有林野ノ調査又ハ測量ヲ必要トスルトキハ其ノ事由ヲ申立テ農商工部大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ得

第四條 公用又ハ公益事業ノ爲又ハ公立學校用ニ關スル出願ニシテ其ノ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ニ係ルトキハ願書ニ其ノ許可證ノ謄本ヲ添附スヘシ

第五條 森林法附屬法令ニ於テ坪(步)ト稱スルハ常用尺六尺平方、一町步ト稱スルハ三千坪、一段ト稱スルハ三百坪、一畝ト稱スルハ三十坪、尺縮ト稱スルハ常用尺十二立方尺、柵ト稱スルハ容積常用尺百八立方尺、(實積六尺縮ニ換算ス)切ト稱スルハ常用尺一立方尺ヲ云フ

第二章 森林山野及產物ノ特賣

第六條 國有森林山野及產物ノ特賣ヲ受ケムトスル者ハ第一號様式ニ依リ農商工部大臣ニ出願スヘシ

第七條 特賣ノ許可アリタルトキハ買受人ハ農商工部大臣ノ指定シタル期間内ニ指定ノ契約保證金ヲ納付シ第二號様式ニ依リ賣買契約書ヲ作成スヘシ但シ代金千圓ニ滿タサル場合ニ於テハ第三號様式ノ請書ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得

買受人前項ノ期間内ニ契約書ヲ作成シ又ハ請書ヲ差出ササルトキハ農商工部大臣ハ特賣ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

前項ニ依リ特賣許可ノ取消ヲ爲シタルトキハ違約金トシテ代金ノ十分ノ一ニ該當スル金額ヲ徵收スヘシ
第八條 左ノ場合ニ在リテハ契約保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

一 代金百圓ニ滿タサルトキ

二 公共團體ニ賣却スルトキ

三 公用又ハ公益事業ノ爲賣却スルトキ

第九條 現金ヲ以テ納付シタル契約保證金ハ代金ニ充當スルモノトス

有價證券ヲ以テ納付シタル契約保證金ハ代金ヲ完納シタルトキハ之ヲ還付スヘシ

第十條 買受人ハ契約書ニ定ムル所ニ依リ納付期間内ニ代金ヲ納付スヘシ

買受人物件ノ搬出又ハ採取ヲ爲サムトスルトキハ其ノ引渡又ハ採取ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ引渡又ハ採取許可ハ代金ヲ完納シタル後ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 買受人ハ物件ノ引渡又ハ採取許可前ニ在リテハ農商工部大臣ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ物件ニ對シ一切ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 買受人物件ノ引渡ヲ受ケ又ハ採取許可ヲ得タルトキハ價收證又ハ請書ヲ作り之ヲ農商工部大臣ニ差出スヘシ

第十三條 主產物ノ根株ハ特別ノ契約ニ依ルモノノ外賣却外トシ數量ノ計算ニ加ヘサルモノトス

第十四條 賣却物件ノ面積、數量若ハ品質ニ錯誤アリ又ハ其ノ物件ニ隠レタル瑕疵アルモ買受人ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第十五條 買受人納付期限内ニ代金ヲ納付セス又ハ第十一條ノ規定ニ違背シタルトキハ農商工部大臣ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第十六條 前條ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ契約保證金ハ國ノ所得トシ契約保證金ナキトキハ違約金トシテ代金ノ十分ノ一ニ該當スル金額ヲ徵收スヘシ

第十七條 產物ノ搬出又ハ採取期間ハ物件ノ引渡又ハ採取許可ノ日ヨリ主產物ニ在リテハ二箇年副產物ニ在リテハ一箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

買受人前項ノ期間内ニ搬出又ハ採取ヲ終ラサルトキハ期間ノ延期ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ農
商工部大臣ハ相當期間ヲ指定シ違約金トシテ左ノ金額ヲ徴收スヘシ

一 代金百圓以上ナルトキハ一日ニ付其ノ千分ノ一

二 代金百圓未満ナルトキハ一日ニ付金十錢

第十八條 前條ノ出願カ搬出又ハ採取期間經過後ニ係ルトキハ其ノ間ノ日數ニ應シ前條ニ定メタル金額ノ二
倍ヲ徴收スヘシ

前項ノ規定ハ買受人カ搬出又ハ採取期間經過後三十日以内ニ延期ノ出願ヲ爲ササル場合ニ準用ス

第十九條 買受人搬出又ハ採取ヲ終ラサルトキハ遲滞ナク其ノ旨農商工部大臣ニ届出ツヘシ

第二十條 左ノ場合ニ於テハ買受人ハ搬出又ハ採取未済ノ物件ヲ抛棄シタルモノト看做ス

一 買受人搬出又ハ採取期間經過後三十日以内ニ延期ノ出願ヲ爲ササルトキ

二 買受人延期期間内ニ搬出又ハ採取ヲ終ラサルトキ

第二十一條 買受人搬出又ハ採取未済ノ物件ヲ讓渡シタルトキハ第四號様式ニ依リ農商工部大臣ニ届出ツヘ
シ

前項ノ届出アリタルトキハ第十七條、第十八條ノ規定ニ依リ違約金トシテ徴收スヘキ金額ハ搬出又ハ採取
ヲ終ラサル者ヨリ之ヲ徴收スヘシ但シ讓受人ニ於テ之ヲ納付セサルトキハ當初ノ買受人ヨリ之ヲ徴收ス

第一項ノ届出ナキトキハ第十七條、第十八條ノ規定ニ依リ違約金トシテ徴收スヘキ金額ハ當初ノ買受人ヨ
リ之ヲ徴收ス

第二十二條 特定ノ目的ヲ以テ賣却ヲ受ケタル者ハ農商工部大臣ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ目的以外ニ
物件ヲ使用若ハ消費シ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違背シタルトキハ違約金トシテ代金ノ半額ニ該當スル金額ヲ徴收スヘシ

第二十三條 物件ノ搬出又ハ採取ニ當リ買受人ニ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ農商工部大臣ハ其ノ物件ヲ

差押へ又ハ搬出、採取ノ中止ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ買受人ハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 主産物ノ年期賣却

第二十四條 國有森林山野主産物ノ年期賣却ハ左ノ場合ニ限ル

一 特別ノ設備ヲ施スニアラサレハ森林ノ更新計劃ニ伴フ産物ノ利用ニ困難ナルトキ

二 特別ノ設備ヲ施ストキハ著シク産物利用ノ程度ヲ増進シ得ヘキトキ

第二十五條 年期賣却契約ハ不特定物ノ賣却タルヘシ

第二十六條 賣却ノ年期ハ十箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十七條 年期賣却ヲ受ケムトスル者ハ第五號様式ニ依リ事業要領書ヲ添附シタル願書ヲ作り之ヲ農商工
部大臣ニ差出スヘシ

農商工部大臣ハ出願者ヲシテ期間ヲ指定シ事業計劃書及計劃圖面ヲ提出セシムルコトヲ得

第二十八條 年期賣却ノ許可アリタルトキハ買受人ハ農商工部大臣ノ指定シタル期間内ニ指定ノ契約保證金
ヲ納付シ第六號様式ニ依リ年期賣却契約書ヲ作成スヘシ

第二十九條 買受人農商工部大臣ノ指定シタル期間内ニ契約書ヲ作成セサルトキハ農商工部大臣ハ年期賣却
ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

前項ニ依リ年期賣却許可ノ取消ヲ爲シタルトキハ違約金トシテ年期間ヲ通シタル總賣却代金百分ノ十二當
ル金額ヲ徴收スヘシ

第三十條 年期賣却契約締結後買受人ニ於テ事業計劃書ニ記載シタル計劃ヲ變更シタルトキハ直ニ農商工部
大臣ニ届出ツヘシ但シ事業ヲ要スル特別ノ設備ヲ變更セムトスルトキハ農商工部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條 各年度引渡スヘキ主産物ノ種類、數量及折伐箇所ハ農商工部ノ營林計劃ニ依リ之ヲ定ム

前項ノ營林計劃ヲ變更スルコトアルモ買受人ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第三十二條 買受人ハ當該官吏ノ測定シタル主産物ノ數量ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

買受人ハ前項ノ測定ニ立會ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 農商工部大臣ハ引渡スヘキ主産物ノ種類、數量、斫伐箇所並代金及其ノ納付期限其ノ他契約履行ニ必要ナル事項ヲ記載シタル通知書ヲ作り其ノ都度之ヲ買受人ニ送付スヘシ

買受人ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ納付期限内ニ代金ヲ納付スヘシ

第三十四條 第十條、第十二條、第十三條、第十四條及第二十三條ノ規定ハ年期買買ニモ亦之ヲ適用ス

第三十五條 主産物搬出期間ハ主産物ノ引渡アリタル月ヨリ起算シ三箇年以内ニ於テ農商工部大臣之ヲ定メ引渡ノ際之ヲ買受人ニ通知スヘシ

前項ノ期間内ニ搬出ヲ爲スコト能ハサルトキハ買受人ハ農商工部大臣ノ指揮ニ從ヒ其ノ斫伐箇所全區域内ニ於ケル造林上ノ障碍物ヲ掃除スルコトヲ條件トシ一箇年以内ノ延期ヲ出願スルコトヲ得

前項延期ノ出願ハ搬出期間満了一箇月前ニ之ヲ爲スヘシ

第二十六條 買受人物件ノ搬出又ハ造林障碍物ノ掃除ヲ終リタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ農商工部大臣ニ届出ツヘシ

第二十七條 左ノ場合ニ於テハ買受人ハ搬出未済ノ物件ヲ抛棄シタルモノト看做ス

一 延期ノ出願ヲ爲サス又ハ延期ノ許可ヲ得スシテ搬出期間満了シタルトキ

二 延期期間満了シタルトキ

第二十八條 農商工部大臣ニ於テ買受人ノ抛棄シタル物件カ造林上著シキ障碍トナルノ虞アリト認ムルトキハ買受人ヲシテ農商工部大臣ノ指定ニ從ヒ自己ノ費用ヲ以テ其ノ障碍物ヲ除却セシムヘシ但シ搬出期間

(延期期間アルトキ) 満了後一箇年以内ニ農商工部大臣カ除却ノ要求ヲ爲ササルトキハ買受人ハ其ノ義務ヲ免ルルモノトス

第二十九條 農商工部大臣ハ營林上必要アリト認ムルトキハ買受人ニ對シ伐木、運搬其ノ他ノ事項ニ付其ノ方法ヲ指定シ又ハ制限ヲ爲スコトヲ得

第四十條 法令ノ結果ニ因リ又ハ公用若ハ公益ニ關スル原因ニ因リ主産物ノ斫伐ヲ制限停止若ハ廢止シ又ハ其ノ時期ヲ變更スルノ必要ヲ生シタル爲農商工部大臣カ契約ヲ變更シ又ハ解除スルモ買受人ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

前項ニ依ル變更又ハ解除ノ爲代金納付済ニ係ル買受物件ニシテ斫伐又ハ搬出ヲ爲スコトヲ得サルモノヲ生シタルトキハ相當代金ヲ還付シテ其ノ物件ハ國ノ所有トス

第四十一條 年期買買契約ニ因リ生スル權利又ハ搬出未済ノ物件ハ農商工部大臣ノ認可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ他人ニ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第四十二條 左ノ場合ニ於テハ農商工部大臣ハ年期買買契約ヲ解除スヘシ此ノ場合ニ於テハ搬出未済ノ物件及契約保證金ハ國ノ所有トス

一 引渡スヘキ主産物ニ對シ納付期限内ニ代金ヲ納付セサルトキ

二 前條ノ規定ニ違背シタルトキ

三 第三十五條又ハ第三十八條ノ場合ニ於テ造林障碍物掃除又ハ除却ノ要求ヲ受クルモ買受人ニ於テ其ノ義務ヲ履行セサルトキ

四 買受人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ農商工部大臣ニ於テ契約ノ目的ヲ達シ難シト認メタルトキ

前項搬出未済ノ物件ニ付テハ農商工部大臣ハ相當代金ヲ還付スヘシ

第四十三條 國有森林山野内ニ於ケル設備ニ付テハ買受人ハ其ノ使用ヲ終リタル後又ハ契約ノ解除アリタル場合ニ於テ農商工部大臣ノ指定シタル期限内ニ土地ヲ原狀ニ回復シ設備ヲ收去スルノ義務ヲ負フ但シ特ニ契約アルモノ又ハ農商工部大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

買受人前項ノ期限内ニ收去ヲ終ラサルトキハ其ノ設備ハ總テ國ノ所有トス

買受人ニ於テ第一項ノ義務ヲ怠リタル爲營林上障碍ヲ生スルノ虞アリト認ムルトキハ農商工部大臣ハ原狀回復ニ要スル費用ヲ算定シ其ノ二倍ノ金額ヲ違約金トシテ徴收ス

第四十四條 年期賣却ニ附帶スル國有森林山野ノ使用又ハ貸付ニ付テハ農商工部大臣ニ於テ契約ノ變更又ハ解除ニ伴ヒ共ノ使用ヲ禁止シ若ハ貸付ヲ解除スルコトアルモ買受人ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第四十五條 契約保證金ハ買受人ニ屬スル總テノ義務ヲ履行シ終ルマテ之ヲ還付セス

第四章 讓與

第四十六條 國有森林山野ノ讓與ヲ受ケムトスル者ハ第七號様式ニ依リ農商工部大臣ニ出願スヘシ

第四十七條 用途ヲ指定シテ讓與シタル國有森林山野ヲ指定ノ期間内ニ其ノ用途ニ使用セサルトキ又ハ一旦其ノ用途ニ使用スルモ爾後繼續使用セサルトキハ之ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ在リテハ森林山野ヲ原狀ニ復シ又ハ之ニ附屬セシメタル物件ヲ收去セシムヘシ讓與ヲ受ケタル者之ヲ怠ルトキハ農商工部大臣之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ辨償セシムヘシ

第四十八條 前條ニ依リ國有森林山野ヲ返還セシメタル場合ニ於テハ其ノ森林山野ノ上ニ設定シタル第三者ノ權利ハ消滅スルモノトス

第五章 交換

第四十九條 國有森林山野ヲ他ノ土地ト交換セムトスルトキハ農商工部大臣ハ相手方ト立會ヲ以テ左ノ事項ヲ調査スヘシ

一 交換地ノ實測面積及價格

二 產物ノ種類、材積、數量及價格

三 第三者ノ權利ノ有無

第五十條 國有森林山野ヲ交換スルトキハ農商工部大臣ハ第八號様式ニ依リ交換契約書ヲ作成スヘシ

第六章 貸付

第五十一條 國有森林山野ヲ貸付スルトキハ貸付料ヲ徵收スヘシ但シ公用又ハ公益事業ノ爲若ハ林業附帶事業ノ爲貸付スル場合ニ於テハ貸付料ヲ免スルコトヲ得

第五十二條 國有森林山野ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス但シ公用又ハ公益事業ニ要スルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 鑛業及植樹ノ場合ニ在テハ百年

二 家屋、倉庫其ノ他ノ建設物ノ場合ニ在テハ五十年

三 其ノ他ノ場合ニ在テハ三十年

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第五十三條 國有森林山野ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ第九號様式ニ依リ願書ニ實測圖ヲ添附シ農商工部大臣ニ差出スヘシ

樹竹アル森林山野ニ在テハ其ノ種類、材積及數量ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

第五十四條 貸付ノ許可アリタルトキハ借受人ハ農商工部大臣ノ指定シタル期間内ニ第十號様式ニ依リ貸借契約書ヲ作成スヘシ但シ一時貸付又ハ十年ヲ超ユサル年期貸付ニシテ其ノ料金百圓ニ滿タサル場合ニ於テハ第十一號様式ノ請書ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得

借受人前項ノ期間内ニ契約書ヲ作成シ又ハ請書ヲ差出ササルトキハ農商工部大臣ハ貸付ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第五十五條 借受人其ノ森林山野ヲ轉貸シ又ハ其ノ權利ヲ讓渡サムトスルトキハ第十二號様式ニ依リ農商工部大臣ニ出願シ許可ヲ受クヘシ

第五十六條 借受人森林山野ノ引渡ヲ受ケタルトキハ請書ヲ差出シ指定ノ期間内ニ四至境界標ヲ建設スヘシ

第五十七條 借受人契約期間滿了ノトキ其ノ森林山野ヲ原狀ニ復スルコト能ハサルトキ又ハ之ニ附屬セシメタル物件ヲ收去スルコト能ハサルトキハ農商工部大臣ハ其ノ請求ニ依リ更ニ期限及貸付料ヲ定メ之ヲ猶豫スルコトヲ得

第五十八條 借受人其ノ森林山野ヲ原狀ニ復シ又ハ之ニ附屬セシメタル物件ヲ收去スルコトヲ怠リタルトキ